

### 3. 官民連携によるエリアプラットフォームや都市再生推進法人等の民間主体の取組の紹介・連携促進の場の企画・運営等による知見の収集・データの整理

#### 3.1. 官民連携まちづくり関係者の交流イベントの企画・運営

先進的なまちづくりに取り組む官民連携によるエリアプラットフォームや都市再生推進法人等の民間主体が、実践から得た知見や課題等を紹介し、官民のまちづくり関係者が相互に情報共有・連携を促進する場の企画・運営等を行った。

##### 3.1.1. 企画概要

2020年2月の国内における新型コロナウイルス感染症拡大以降の新たな生活様式のあり方について、官民連携まちづくりの関係者で協議を行い、相互の情報共有・連携促進することを目的としたイベントを企画・運営した。

昨年度に引き続き、国土交通書と全国エリアマネジメントネットワークの共催による「官民連携まちづくり DAY2021」を以下の通り実施した。

なお、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、全面オンラインでの開催とした。

表 3-1 イベント概要

| 項目    | 内容                      |                                 |
|-------|-------------------------|---------------------------------|
| 開催日時  | 令和3年2月5日(金) 14:00~17:00 |                                 |
| 会場    | 品川インターシティホール(大ホール)より配信  |                                 |
| 開催方式  | オンライン配信(zoom)           |                                 |
| 参加者   | 726人(同時最高視聴者数625人)      |                                 |
| プログラム | 14:00~                  | 開会                              |
|       | 14:05~                  | 取組事例紹介(国土交通省、全国エリアマネジメントネットワーク) |
|       | 14:30~                  | 基調講演(東京大学 村山顕人准教授)              |
|       | 15:00~                  | 休憩                              |
|       | 15:15~                  | トークセッション                        |
|       | 16:55~                  | 閉会挨拶                            |
|       | 17:00                   | 閉会                              |

### 3.1.2. イベントのテーマ

2020年2月の国内における新型コロナウイルス感染症拡大以降、その防止のため、外出制限、テレワークの推進、3密の回避など、私たちの生活においても大きな変化がみられた。このことを踏まえ、イベントのテーマは、このような社会環境の中で、これまでのまちづくりの実践から一歩進んだ最新の取組を概観すると共に、with コロナ、after コロナ時代に向けた新たなまちづくりのあり方について考えるものとした。

### 3.1.3. トークセッションのテーマ

イベントのテーマを踏まえ、トークセッションにおいては以下をテーマに設定した。

#### <トークセッションのテーマ>

新型コロナウイルス感染症の拡大防止と経済活動の両立というこれまで直面したことがなかった課題や新たなニーズに対応することが求められている中、これらに対応してこれまで取り組んだこと、今後取り組むこと、また日頃の備え等について、取組内容や取組を行うこととなったきっかけ、取組実施主体や取組を支援する組織・人材、地域における団体・行政との連携体制、取組の今後の展開など具体的な話を交えながら、現場における実践にあたって活用可能な取組の要素を掘り下げる。

その際、オープンスペース（道路、公園、民間空地等）については、3密回避やテレワークの進展に伴う自宅の滞在時間の増加により、これまで以上にその役割や利活用が注目されていることから、オープンスペースに関する取組紹介も交える。

### 3.1.4. 登壇者の選定

イベント、トークセッションのテーマを踏まえ、官民連携の取組推進に関する制度の普及啓発及び現状把握から、トークセッションの登壇者を以下の通りとした。





パネリストの概要を次頁以降に示す。

表 3-2 登壇者一覧

|   |                         |               |
|---|-------------------------|---------------|
| モデレーター                                      | 東京大学 村山顕人准教授            |               |
| パネリスト①<br>錦二丁目エリアプラットホーム                    | 錦二丁目エリアマネジメント           | 名畑恵 代表取締役     |
|   | 名古屋市都心まちづくり課            | 白木祐次 企画係長     |
| パネリスト②<br>カミハチキテル<br>- HEART OF HIROSHIMA - | 地域価値共創センター              | 山中佑太 統括マネージャー |
|   | 広島市都心空間づくり担当課           | 松尾雄三 課長       |
| パネリスト③<br>前橋市<br>アーバンデザイン協議会                | 前橋デザインコミッション            | 日下田伸 企画局長     |
|   | 前橋市市街地整備課<br>CCRC・計画推進室 | 瀬瀬正樹 室長       |


### 3.1.4.1. 錦二丁目エリアプラットフォーム

#### ■錦二丁目エリアプラットフォーム（愛知県名古屋市）

| 事務局  | 対象エリア                               | エリアプラットフォームの紹介  |
|--|-------------------------------------|---|
| 錦二丁目エリア<br>マネジメント（株）   | 名古屋市中区に位置する<br>錦二丁目地区<br>（1街区～16街区） | 対象エリアを新しいアイデアを積極的に実証・実装するリアルなまちの実験場として位置づけ、地縁組織や行政、エリア内外の企業や個人事業主等、大学や非営利組織など様々な主体が関わり、未来の地区・コミュニティの実現に向けた構想・研究を行い、概念立証や実証実験、社会実装に向けた各種取り組みを推進。   |
| エリアプラットフォームの概要   |                                     | エリアにおける実施プロジェクト   |
| <p><b>【構成者】</b><br/>名古屋市／愛知県／独立行政法人／まちづくり会社／商工会議所／任意のまちづくり団体／NPO団体</p> <p><b>【構築のきっかけ】</b><br/>まちづくりにおいて多様な分野の企業を巻き込み、不動産や賑わいだけでなく様々なコミュニティサービス充実につなげるため</p> <p><b>【活動内容】</b><br/>広報・プロモーション・イベントの実施／各種実証実験</p>  <p>※錦二丁目長者町商店街(イラスト)</p>  <p>※みちにおマルシェの様子(令和2年11月27日・28日)<br/>錦二丁目空道(みち)を庭(にわ)に思立て、隣接野菜を使った飲食ブースなどを設置</p> |                                     | <p><b>○ナゴヤアウトサイドシート<br/>ストリート</b> (令和2年9月)</p> <p>新型コロナウイルス感染症の影響を受ける飲食店等の支援の一環として、3密の回避などの「新しい生活様式の定着」に対応するために、歩道空間に客席を設置して飲食等を楽しむことができる取り組み「ナゴヤアウトサイドシートストリート in 錦二丁目」企画を錦二丁目エリアマネジメント(株)と錦二丁目まちづくり協議会で手掛けて実施。</p>  <p><b>○長者町ウッドテラス</b><br/>(平成26年9月～平成27年2月)</p> <p>車道にウッドデッキを張り出し、ゆとりのある歩道として活用する社会実験を実施。交通安全対策を主目的とした社会実験と位置づけ、道路管理者との協定により実施。</p>  |





### 3.1.4.2. カミハチキテル - HEART OF HIROSHIMA -

#### ■カミハチキテル - HEART OF HIROSHIMA -（広島県広島市）

| 事務局   | 地区        | エリアプラットフォームの紹介  |
|---|-----------|---|
| (一社)<br>地域価値<br>共創センター  | 紙屋町・八丁堀地区 | 紙屋町・八丁堀地区において、コンテンツリード型のプレイスメイキング社会実験やまちづくり事業のスタートアップ、都市マーケティングにもとづく調査活動などアクションファーストで広島都心のグランドデザイン検討を行う。  |
| エリアプラットフォームの概要  |           | エリアにおける実施プロジェクト   |
| <p><b>【構成者】</b><br/>広島市／／広島県／／都市開発事業者／商工会議所／商店街振興組合／公共交通事業者／金融機関／建築物の所有者／管理者／占有者</p> <p><b>【構築のきっかけ】</b><br/>既存の勉強会によるビジョンの検討をきっかけに、令和2年に社会実験を実施。この社会実験がエリアマネジメントの機運醸成に繋がり、民間企業、行政、大学、市民が共有するビジョン策定に向け本格的な検討を行うため構築。</p> <p><b>【活動内容】</b><br/>広報・プロモーション・イベントの実施／公共空間の維持管理・活用／まちづくりルールの策定・運用</p>  <p>※社会実験の様子<br/>全長53mのパークレットに、ウッドデッキ、ベンチ等を設置</p> |           | <p><b>○#カミハチキテル<br/>-URBAN TRANSIT BAY-</b><br/>(令和2年3月～4月)</p> <p>道路上のバスバイと駐車場、民間敷地を活用して、人が集い、憩える空間づくりを目指して、社会実験を実施。</p> <p>バスバイには、国内最大級のパークレット(全長53m)を設置。パークレットそばにはコンテナ店舗を設置し、昼は日替わりでランチ営業、夜は週替わりでビアバー営業を実施(4月中旬以降は営業自粛)。また、駐車場の一部を活用して、輸送用木製パークレットを使用したウッドデッキの設置、キッチンカーの営業などを実施。</p> <p>社会実験実施の資金は、8割程度を民間資金で補う想定でクラウドファンディングを実施。(目標100万円、達成額約130万円)</p>    |

### 3.1.4.3. 前橋市アーバンデザイン協議会

| 事務局 | 対象エリア   | エリアプラットフォームの紹介   |
|-----|---|--|
| 前橋市 | 県庁周辺のエリアを含む<br>中心市街地約158ha<br>(前橋アーバンデザインエリア) | 中心市街地におけるまちづくりに関する団体及び機関等が、民間主体のまちづくりを推進するため、会員間の情報共有や連携強化を図るとともに、前橋市アーバンデザインの実現に向けた社会実験やモデルプロジェクトを推進。 |

| エリアプラットフォームの概要   | エリアにおける実施プロジェクト  |
|--|--|
| <p><b>【構成者】</b><br/>前橋市／独立行政法人／都再法人／商工会議所／商店街振興組合／青年会議所／市議会</p> <p><b>【構築のきっかけ】</b><br/>「前橋市アーバンデザイン」の実現に向けた取組を推進するため、エリアマネジメント組織である（一社）前橋デザインミッション（都市再生推進法人）と前橋市が連携する場として、設立</p> <p><b>【活動内容】</b><br/>広報・プロモーション・イベントの実施／公共空間の維持管理・活用</p>  <p>※前橋市アーバンデザインシンポジウム（令和元年10月11日）パンフレットより</p> | <p><b>○前橋市アーバンデザイン</b> (令和1年9月公表)</p> <p>まちづくりの3つの方向性と取り組みを示す8つの指針</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. まちなかで住み、働く</li> <li>2. 水や緑の環境でリラックス</li> <li>3. 徒歩や自転車でもちを回遊</li> <li>4. 広瀬川や利根川を楽しむ</li> <li>5. 通りや広場の異なる活用</li> <li>6. お店の賑わいを外へ</li> <li>7. 独自の文化を楽しむ</li> <li>8. ICTや先端技術を活用する</li> </ol> <p><b>○広瀬川nightテラス</b> (令和2年8月～9月)</p> <p>前橋市アーバンデザインのモデルプロジェクトの一部である広瀬川河畔緑地の整備にむけて、社会実験を実施。キッチンカーの出店、手摺に板を付けたカウンター、人工芝等の仮設置等により整備後の河畔緑地の目指す姿を仮設的に実現。</p> <p><b>○まちなか広瀬川キャンプ</b> (令和2年11月)</p> <p>広瀬川に隣接する「広瀬川サンワパーキング」において、立体駐車場の屋上でテント泊を行う公共施設活用社会実験「まちなか広瀬川キャンプ」を実施。</p>    |

---

### 3.1.5. 案内チラシの作成

開催にあたり、チラシを作成し国土交通省 HP へ掲載、官民連携の取組推進に関する制度の普及啓発及び現状把握においてアンケートを行った対象者へ配布するなどして、周知を行った。

表 3-3 参加者募集期間・対象

| 募集期間                    | 対象者                                     | 参加形式         |
|-------------------------|---|--------------|
| 令和2年12月7日～<br>令和3年2月3日  | 地方公共団体、都市再生推進法人、<br>全国エリアマネジメントネットワーク会員 | 会場、<br>オンライン |
| 令和2年12月18日～<br>令和3年2月3日 | アンケート対象のまちづくり団体                         | 会場、<br>オンライン |
| 令和2年12月21日～<br>令和3年2月3日 | 一般参加者                                   | オンライン        |



## 新たな社会環境におけるまちづくりのあり方について -with コロナ、after コロナ時代におけるまちづくり実践-

国内における新型コロナウイルス感染症拡大以降、外出制限、テレワークの推進、3密の回避など私たちの生活においても大きな変化がみられました。このような新たな社会環境へ変化する中、これまでのまちづくりの実践から一歩進んだ最新の取組を視察するとともに、with コロナ、after コロナ時代に向けた新たなまちづくりのあり方について考えます。

### プログラム

#### 01 基調講演

村山順人氏（東京大学大学院准教授）をお招きし、まちづくりにおける官民連携の必要性や官民の多様な人材が議論・共有するビジョンの重要性とその役割、あり方についてお話を聞きます。

#### 02 トークセッション

官民の多様な主体が連携するエリアプラットフォームの参加者にご登壇いただき、様々な取組紹介や、地域との連携、エリアのビジョンの共有、まちづくり人材の果たす役割等について、トークセッションを行います。

#### 03 取組紹介

国土交通省都市局と全国エリアマネジメントネットワークから、全国における官民連携まちづくりに関する取組をご紹介します。

### アクセス



お申込み詳細は裏面をご確認ください。

# 官民連携 まちづくりDAY2021

## 登壇者紹介 (敬称略)

### 基調講演・モデレーター



#### 村山 顕人

東京大学 大学院工学系研究科 准教授

2004年東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻博士課程修了、博士(工学)。東京大学国際都市再生研究センター特任研究員、名古屋大学大学院環境学研究所都市環境学専攻助教・准教授を経て、2014年4月より現職。専門は、都市計画、(公共政策としての)都市デザイン、まちづくり。その中でも特に、環境負荷低減・防災に向けた都市計画、計画策定技法(方法と技術)に焦点を当てている。全国エアーマネジメントネットワーク、日本都市計画家協会、都市環境デザイン会議、EcoDistricts、日本都市計画学会、日本建築学会などの学協会に所属し、自治体の都市マスタープランの策定や地域のまちづくりにも携わる。

## トークセッションでご紹介するエアプラットフォーム



### 錦二丁目エアプラットフォーム (愛知県名古屋市)

#### キーワード

エアリノベーション  
駅前まちづくり/SDGsまちづくり  
官民・地域連携型の共有プラットフォーム

錦二丁目地区を新しいアイデアを機動的に実証・実装するリアルなまちの実験場として位置づけ、企業や行政、大学など様々な主体が関わり、未来の地区・コミュニティの実現に向けた構想・研究を行い、各種取り組みを推進しています。



### カミハチキテル - HEART OF HIROSHIMA - (広島県広島市)

#### キーワード

社会実験のビジネス化  
ストリートへのオープンショールーム化  
都心における新たなプレイヤー参入

紙屋町・八丁堀地区において、コンテンツリード型のプレイスメイキング社会実験やまちづくり事業のスタートアップ、都市マーケティングにもとづく調査活動などアクションファーストで広島都心のグランドデザイン検討を行っています。



### 前橋市アーバンデザイン協議会 (群馬県前橋市)

#### キーワード

官民協働によるエアピジョン  
自立した民間まちづくり組織の存在  
民間資金による公共空間の整備・活用

中心市街地におけるまちづくりに関する団体及び機関等が、民間主体のまちづくりを推進するため、会員間の情報共有や連携強化を図るとともに、前橋市アーバンデザインの実現に向けた社会実験やモデルプロジェクトを推進しています。

## 申込み方法

下記 URL または QR コードより、お申込みをお願いいたします。

### 会場参加者用



申込み締め切り

2021年12月31日

申込URL: <https://form.nsn/@0206offline>  
※応募し過ぎると参加枠が満杯になります。

### WEB参加者用



申込み締め切り

2021年2月3日

申込URL: <https://form.nsn/@0206online>  
※この日の18時からは実施の申し込みはできません。

## お問合せ先

官民連携まちづくりDAY2021事務局

日本工営株式会社

電話: 03-3238-8180

担当: 中江、今堀、前田、宮崎

メールアドレス: [wakable@n-koel.co.jp](mailto:wakable@n-koel.co.jp)

<オンライン参加者用>

WEB参加  
募集のお知らせ

# 官民連携 まちづくりDAY 2021

2021.2.5[金] シンポジウム  
14:00-17:00

**WEB参加費 無料** (事前申込制)

## 新たな社会環境におけるまちづくりのあり方について -with コロナ、after コロナ時代におけるまちづくり実践-

国内における新型コロナウイルス感染症拡大以降、外出制限、テレワークの推進、3密の回避など私たちの生活においても大きな変化がみられました。このような新たな社会環境へ変化する中、これまでのまちづくりの実践から一歩進んだ最新の取組を横断するとともに、with コロナ、after コロナ時代に向けた新たなまちづくりのあり方について考えます。

### プログラム

#### 01 基調講演

村山順人氏(東京大学大学院准教授)をお招きし、まちづくりにおける官民連携の必要性や官民の多様な人材が議論・共有するビジョンの重要性とその役割、あり方についてお話を頂きます。

#### 02 トークセッション

官民の多様な主体が連携するエリアプラットフォームの参画者にご登壇いただき、様々な取組紹介や、地域との連携、エリアのビジョンの共有、まちづくり人材の果たす役割等について、トークセッションを行います。

#### 03 取組紹介

国土交通省都市局と全国エリアマネジメントネットワークから、全国における官民連携まちづくりに関する取組をご紹介します。

お申込み詳細は裏面をご確認ください。



# 官民連携 まちづくりDAY2021

## 登壇者紹介 (敬称略)

### 基調講演・モデレーター



#### 村山 顕人

東京大学 大学院 工学系研究科 准教授

2004年東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻博士課程修了、博士(工学)。東京大学国際都市再生研究センター特任研究員、名古屋大学大学院環境学研究所都市環境学専攻助教・准教授を経て、2014年4月より現職。専門は、都市計画、(公共政策としての)都市デザイン、まちづくり。その中でも特に、環境負荷低減・減災に向けた都市計画、計画策定技法(方法と技術)に焦点を当てている。全国エアーマネジメントネットワーク、日本都市計画家協会、都市環境デザイン会議、EcoDistricts、日本都市計画学会、日本建築学会などの学協会に所属し、自治体の都市マスタープランの策定や地域のまちづくりにも携わる。

## トークセッションでご紹介するエリアプラットフォーム



### 西新宿目エリアプラットフォーム (愛知県名古屋市)

#### キーワード

- ・エリアリノベーション
- ・低炭素まちづくり/30%s まちづくり
- ・官民・地域産業界の共創プラットフォーム

西新宿目地区を新しいアイデアを積極的  
に実証・実装するリアルなまちの実験場として  
位置づけ、企業や行政、大学など様々な主体  
が関わり、未来の地区・コミュニティの  
実現に向けた情報・研究を行い、各種取り  
組みを推進しています。



### カミハチビル - HEART OF HIROSHIMA - (広島県広島市)

#### キーワード

- ・社会実験のビジネス化
- ・ストリートのオープンショールーム化
- ・都心における新たなプレイヤー参入

紙屋町・八丁堀地区において、コンテンツ  
リード型のプレイスメイキング社会実験や  
まちづくり事業のスタートアップ、都市マー  
ケティングにもとづく調査活動などアク  
ションファーストで広島都心のグランドデ  
ザイン検討を行っています。



### 前橋市アーバンデザイン協議会 (群馬県前橋市)

#### キーワード

- ・官民協働によるエリアビジョン
- ・自立した民間まちづくり組織の存在
- ・民間資金による公共空間の整備・地均

中心市街地におけるまちづくりに関する  
団体及び機関等が、民間主体のまちづくり  
を推進するため、会員間の情報共有や連携  
強化を図るとともに、前橋市アーバンデザ  
インの実現に向けた社会実験やモデルプロ  
ジェクトを推進しています。

## WEB 参加募集のお知らせ

下記 URL または QR コードより、お申込みをお願いいたします。



申込みURL : <https://form.run/@0205online>

申込み締切 2021年2月3日(水)

## お問い合わせ先

官民連携まちづくりDAY2021 事務局  
日本工営株式会社  
電話：03-3238-8180  
担当：中江、今堀、前田、宮崎  
メールアドレス：walkable@n-koei.co.jp

### 3.1.6. 参加者アンケートの作成

今後の情報共有・連携促進の場づくりに向けた参考として、WEB アンケートを作成しイベント視聴後の参加者へ回答を案内した。加えて、セキュリティ等の問題により、WEB から回答できない方のために、ワード版の調査票を参加者全員へメール配布した。アンケートの内容を以下に示す。

#### 官民連携まちづくり DAY2021／参加者アンケート

このたびは、シンポジウムにご参加いただきありがとうございました。内容はいかがだったでしょうか。

参加者の皆様からのフィードバックをもとに、次年度以降のイベントの改善につなげてまいりたいと考えております。つきましては、こちらの簡単なアンケートにご記入のうえ、ご意見・ご感想をお聞かせくださいますようお願いいたします（回答は匿名で集計されます）。

##### ■シンポジウムの内容について

Q1. 本日のシンポジウムに参加した理由は何ですか。当てはまるものをすべてに○をつけてください。

- |   |  |
|---|--|
| 1) 「官民連携まちづくり」に興味があったから   |  |
| 2) テーマ「新たな社会環境におけるまちづくりのあり方について ～with コロナ、after コロナ時代におけるまちづくり実践～」に興味があったから |  |
| 3) 登壇者に興味があったから（ご興味があった登壇者名： _____）   |  |
| 4) 知り合いに勧められたから   |  |
| 5) その他（ _____）  |  |

Q2. 国土交通省からの取組紹介の内容・時間はいかがでしたか。当てはまるもの一つに○をつけてください。また、印象に残ったお話やキーワードを教えてください。

|                  |          |         |         |       |
|------------------|----------|---------|---------|-------|
| 内容：              | 1) とても満足 | 2) やや満足 | 3) やや不満 | 4) 不満 |
| 時間：              | 1) 長い    | 2) 普通   | 3) 短い   |       |
| <印象に残ったお話やキーワード> |          |         |         |       |

Q3. 全国エリアマネジメントネットワークからの取組紹介の内容・時間はいかがでしたか。当てはまるもの一つに○をつけてください。また、印象に残ったお話やキーワードを教えてください。

|                  |          |         |         |       |
|------------------|----------|---------|---------|-------|
| 内容：              | 1) とても満足 | 2) やや満足 | 3) やや不満 | 4) 不満 |
| 時間：              | 1) 長い    | 2) 普通   | 3) 短い   |       |
| <印象に残ったお話やキーワード> |          |         |         |       |

Q4. 基調講演の内容・時間はいかがでしたか。当てはまるもの一つに○をつけてください。また、印象に残ったお話やキーワードを教えてください。

|                  |          |         |         |       |
|------------------|----------|---------|---------|-------|
| 内容：              | 1) とても満足 | 2) やや満足 | 3) やや不満 | 4) 不満 |
| 時間：              | 1) 長い    | 2) 普通   | 3) 短い   |       |
| <印象に残ったお話やキーワード> |          |         |         |       |

Q5. トークセッションの内容・時間はいかがでしたか。当てはまるもの一つに○をつけてください。

|                  |          |         |         |       |
|------------------|----------|---------|---------|-------|
| 内容：              | 1) とても満足 | 2) やや満足 | 3) やや不満 | 4) 不満 |
| 時間：              | 1) 長い    | 2) 普通   | 3) 短い   |       |
| <印象に残ったお話やキーワード> |          |         |         |       |

Q6-1. 本日のシンポジウムに参加し、官民連携まちづくりやエリアプラットフォームの構築・活動等に役立つ実務的な取組事例やヒントを得ることはできましたか。それぞれのテーマについて、当てはまるもの一つに○をつけてください。

- |                               |
|-------------------------------|
| 1) よく得られた (→Q6-2へお進みください)     |
| 2) 得られた (→Q6-2へお進みください)       |
| 3) あまり得られなかった (→Q6-3へお進みください) |
| 4) 全く得られなかった (→Q6-3へお進みください)  |

Q6-2. 6-1で「よく得られた」または「得られた」を選ばれた方は、どのようなことが得られたのかをお書きください。

|  |
|--|
|  |
|--|

Q6-3. 6-1で「全く得られなかった」または「あまり得られなかった」を選ばれた方は、どのようなことを期待していたのに得られなかったのかをお書きください。

|  |
|--|
|  |
|--|

Q7. 今回のような「官民連携まちづくり」のシンポジウムに、また参加したいと思いますか。

- 1) ぜひ参加したい
- 2) 機会があれば参加したい
- 3) 参加しない
- 4) わからない

Q8. 今後扱ってほしいテーマや内容、ご要望があればお書きください。

Q9. 本日のシンポジウムについて、ご意見・ご感想などをご自由にお書きください。

■あなたご自身についてお伺いいたします。

- お住まい ( ) 都・道・府・県 ( ) 市・区・町・村
- ご 職 業 1) 地方公共団体 2) 国 3) 大学関係者 4) 民間企業  
5) 各種団体 6) 学生 7) その他 ( )
- ご 専 門 1) 都市 2) 建築 3) 土木 4) 出版・メディア 5) その他 ( )
- 年 齢 1) 10代 2) 20代 3) 30代 4) 40代 5) 50代 6) 60代 7) 70代以上
- 性 別 1) 男性 2) 女性

アンケートは以上となります。ご協力ありがとうございました。

### 3.1.7. 運営における手順等

イベント参加者が zoom ウェビナーに参加する際の手順説明資料を作成し、事前に配布した。作成した資料を以下に示す。

The image shows two slides from a Zoom webinar. The first slide is a title slide with the following text:

**【官民連携まちづくりDAY2021】  
ウェビナーの機能について**

Zoomウェビナーのチャット・Q&Aに関する使用マニュアルです。  
手順がわからない方はこちらを読みながら進めてください。

The second slide contains the following text:

本イベントの参加URLをクリック参加していただきますと、以下の画面になります。

The slide features a screenshot of a Zoom control bar with the Japanese word "運営" (Operation) in the center. A red box highlights the bottom of the control bar, and a callout box with a mouse cursor icon contains the text:

マウスマウスカーソルを動かすと、画面下部にボタンが複数表示されます。

## 各ボタンの機能について

**チャット**  
視聴の際のトラブルに関してご質問がある場合は、こちらから質問してください。

**Q&A**  
基調講演、トークセッションに関してご質問がある場合は、こちらから質問してください。匿名での質問も可能です。



**オーディオ設定**  
今回こちらは使用しません。

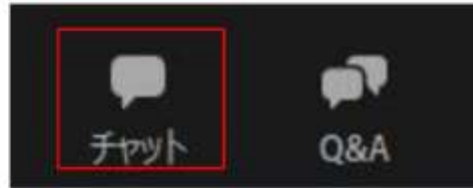
3

## チャットについて

4

## STEP1:「チャット」タブを押す

配信環境等に関するお問い合わせ、視聴の際のトラブル等はzoomのチャットにて可能な限り\*ご対応いたします。



※ご使用の回線等に原因がある場合などは対応出来かねます。

5

## STEP2 送信先を、 「すべてのパネリスト」 に選択し、質問等を送信する。

送信先は「すべてのパネリスト」を選択してください。  
内容を確認できるのは、事務局のみです。  
ご質問・トラブル等の改善策について可能な限り、運営事務局よりご回答をいたします。

【ご注意点】  
文字数制限は、日本語の場合約2000文字程度です。これを超える場合は、途中までの送信となってしまう場合がありますのでご注意ください。  
また、送信したものについては取り消すことが出来ませんので、内容をご確認の上送信してください。



6

## Q&Aについて

7

Q&Aについて

### STEP1:「Q&A」ボタンを押す

- ・ 基調講演とトークセッションの内容について、ご質問がある場合、以下のQ&Aタブから投稿ください。トークセッションで取り上げます。
- ・ Q&Aは**ウェビナー参加者全員に公開されます**ので、入力内容にご留意ください。(匿名での投稿も可能です)
- ・ なお、時間の関係で、すべてのご質問にお答えできないかもしれないことをご了承ください。



8



## Q&Aについて

### STEP2

質問したい内容を入力し、送信する。

#### 匿名で送信

Q&Aでは、チャットとは異なり、匿名での質問が可能です。「匿名で送信」の左のチェックボックスにチェックをいれると匿名で質問が送信されます。

#### 【ご注意点】

チャットと同様に文字数制限は、日本語の場合約2000文字程度です。これを超える場合は、途中までの送信とになってしまう場合がありますのでご注意ください。また、送信したものについては取り消すことが出来ませんので、内容をご確認の上送信してください。

▼PCバージョン

▼スマートフォンバージョン



## Q&Aについて

### 運営の都合上、ご留意いただきたいこと

Q&Aでは「全ての質問」「自分の質問」を選び質問を確認することができます。



#### ご留意いただきたいこと

「この質問はライブで回答されました。」「運営はこの質問にライブで回答します。」と表示される場合がありますが、運営の都合上のもので、トークセッションでの回答状況とは一致しませんので、ご注意ください。



---

### 3.1.8. 開催結果

#### 3.1.8.1. イベントの様子

イベント当日の配信会場の写真を以下に示す。




### 3.1.8.2. 国土交通省講演資料

国土交通省による取組事例紹介の資料を以下に示す。

官民連携まちづくりDAY2021

## 官民連携まちづくりに関する 最近の動きについて

令和3年2月5日  
国土交通省 都市局 まちづくり推進課 官民連携推進室長  
栗田 泰正

 **国土交通省**  
*Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism*

1. 「居心地が良く歩きたくなる」まちなかづくり
2. 新型コロナ危機を契機とした今後のまちづくりの方向性

1

# 1. 「居心地が良く歩きたくなる」まちなかづくり

## 「居心地が良く歩きたくなる」まちなかからはじまる都市の再生

### 現状と課題

- 駅前など人が集まる場所での歩行者空間の確保や、シャッター街化した商店街の再生など、まちなかにおけるにぎわい創出は多くの都市に共通する課題。



- 一部の先進的な地域では、車道の広場化や民地のオープンスペース化などの取組により、まちなかの商業床面積や歩行者通行量の増加などの効果がみられる。

車道の広場化の事例

駅前の歩行者空間の割合  
26% → 67%  
(取組前) (取組後)

駅周辺の商業床面積  
約8.3ha → 約8.5ha  
(H20) (H25)



民地のオープンスペース化の事例

歩行者通行量  
約2.3倍  
(H25.8 → H29.3)



既存ストックを最大限活用しつつ、まちなかにおいて多様な人々が集い、交流することのできる空間を官民一体となって形成し、都市の魅力を向上させることが必要

## 国内事例(姫路・南池袋)

### 姫路駅北駅前広場



(出典) 姫路市提供資料

**【まちなか公共空間の修復・改変】**車道中心だった駅前空間をトランジットモール化（公共交通のみ通行可）、歩行者空間・芝生化し、民間の様々なイベントの展開やインバウンド増と相まって多様な人材が集う空間へ転換  
**【民間投資の共鳴】**駅周辺におけるホテル、マンション建設が活発化し、駅周辺の商業地価は25%上昇（H31；全国7位）、商業床面積も増加

### 豊島区南池袋公園



(出典) 豊島区提供資料

**【まちなか公共空間の修復・改変】**平成28年4月に、利用率の低い公園を再整備し、芝生やmovable chair、サンクンガーデン、民間カフェ等の設置により、若者から子連家族まで多様な人々が多様な使い方ができる空間へ転換  
**【民間投資の共鳴】**公園周辺に若者向けテナントが出店し、さらに周辺では民間都市開発事業が旺盛に実施

4

## 国内事例(丸の内・熊本)

### 千代田区丸の内仲通り



▲(1960年代)

▶(出典) 第4回「都市の多様性とイノベーションの創出に関する懇談会」重松真穂子ゲスト委員資料



(出典) 大丸有エリアマネジメント協会提供資料

2019年5月、丸の内仲通りでは、連続100時間にわたり、車両を通行止めの上、芝生化。来街者や沿道店舗にも大変好評だった。

### 熊本市桜町・花畑周辺地区



(出典) 熊本市提供



(出典) 熊本市提供

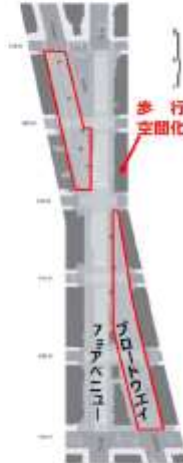
官民合同による「桜町・花畑地区まちづくりマネジメント検討委員会」を設置。桜町・花畑地区の一体的な利活用・デザインについて検討を実施した。

5

## 海外事例( ニューヨーク・タイムズスクエア )

- 半年間にわたる社会実験を経て、2010年以降、ブロードウェイは恒久的に広場化された。(タイムズ・スクエアの歩行者数は11%増加。また、74%の市民がタイムズ・スクエアは劇的に改善されたと回答している。)
- ニューヨーク市内全体でも、2008年以降、65カ所で街路空間等の広場化が計画され、2016年時点で44カ所が供用。2008年から2017年までの10年間で、計1億3430万ドルの広場転換費用を行政が負担。(街路空間等の広場化後、3年目の売上増加率が47%を記録した地域も。)

〔整備前(2009年)〕



〔整備後(2015年)〕



(出典) 中島直人・関谷進高「ニューヨーク市タイムズ・スクエアの広場化プロセス」(2016) などに基づき国土交通省都市局作成

6

## 海外事例( ポートランド )

- 全米一住みよいまち選ばれているポートランド (Monocle Magazine, 2017) には、良質な都市空間を求めて優秀な人材が移住してきており、毎年約1万人人口増加している。(U.S. Census, 2015)

○ポートランドでは、建物の1階部分(グランドレベル)のうち歩道に面する壁面を透明にする規制が設けられている。リノベーションでは壁面の4割、新規開発では5割を透明としなければならない。

※同様の規制がサンフランシスコ(7割)、シアトル(6割)にも存在。

○壁面を透明にするための設計と施工に対して、合わせて上限200万円程度、市から補助が行われている。



PEARL DISTRICT//パール地区に見る演出



○道路にも、まちの賑わいを創出するためのデザインを導入

- ・建物隣接ゾーン  
店が自由に活用可能
- ・歩行ゾーン  
中心に交通機能を据え、賑わいを創出
- ・ファニチャーゾーン  
道路構造物や路面電車の駅等を置き、空いている場合は店が活用可能

○ポートランドではディストリクト(徒歩20分圏程度の広さ)ごとに組織されるネイバーフッドアソシエーション(住民自治会)が、住民の意見を集約しまちの個性を生み出すプラットフォームとして機能している。

(出典) 山崎義広氏資料等を基に国土交通省都市局作成

7

## 「居心地が良く歩きたくなるまちなか」からはじまる都市の再生

(今後のまちづくりの方向性(令和元年6月26日「都市の多様性とイノベーションの創出に関する懇談会」提言より))

- 官民のパブリック空間（街路、公園、広場、民間空地等）をウォーカブルな人中心の空間へ転換・先導し、民間投資と共鳴しながら「居心地が良く歩きたくなるまちなか」を形成
- これにより、多様な人々の出会い・交流を通じたイノベーションの創出や人間中心の豊かな生活を実現し、まちの魅力・磁石・国際競争力の向上が内外の多様な人材、関係人口を更に惹きつける好循環が確立された都市を構築

※地域特性に応じた取組を、歩ける範囲のエリアで集中的あるいは段階的に推進  
※人口規模の大小等を問わず、その特性に応じた手法で実施可能



### 「居心地が良く歩きたくなるまちなか」(イメージ)

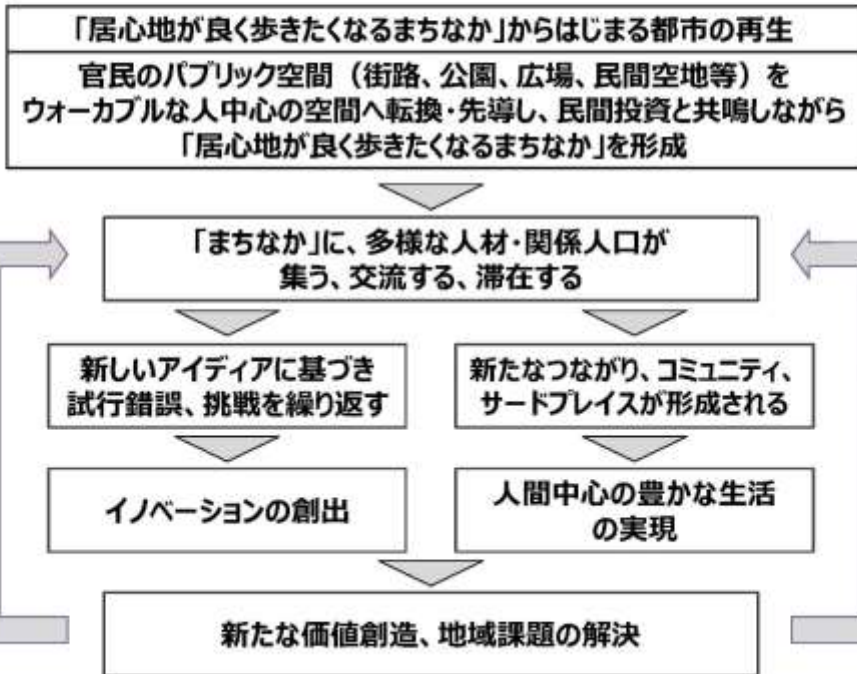
|                  |                |   |
|------------------|----------------|---|
| <b>Walkable</b>  | 歩きたくなる         | 居心地が良い、人中心の空間を創ると、まちに出がたくなる、歩きたくなる。         |
| <b>Eye level</b> | まちに開かれた1階      | 歩行者目線の1階部分等に店舗やラボがあり、ガラス張りで見えたら、人は歩いて楽しくなる。 |
| <b>Diversity</b> | 多様な人の多様な用途、使い方 | 多様な人々の多様な交流は、空間の多様な用途、使い方の共存から生まれる。         |
| <b>Open</b>      | 開かれた空間が心地良い    | 歩道や公園に、芝生やカフェ、椅子があると、そこに居たくなる、留まりたくなる。      |

### 都市構造の改変等

- 都市構造の改変（道路交通をまちなか外へ誘導するための外周街路整備等）
- 都市機能や居住機能の機能的護衛と地域公共交通ネットワークの形成
- 拠点と周辺エリアの有機的連携
- データ基盤の整備（人流・交通流、都市活動等に関するデータプラットフォームの構築等）等



## 今後のまちづくりの方向性



# 「居心地が良く歩きたくなる」まちなかの創出による「魅力的なまちづくり」

〔都市再生特別措置法等の一部を改正する法律（令和2年9月7日施行）〕

## 「居心地が良く歩きたくなる」まちなかづくりに向けた計画の策定・共有

- ・市町村都市再生協議会\*の構成員として、官民の多様な関係者を追加することを可能に\*  
〔まちづくりの主体である市町村等が、地域の実情に応じ、どのような者を構成員として追加するかを判断〕
- ・市町村都市再生協議会：都市再生整備計画（市町村が作成するまちづくりのための計画）  
の策定・実施等に際し、必要な協議を行う場
- ・協議会構成員に追加することができる者として、公共交通事業者、公共施設管理者、公安委員会  
の職（まちづくり）長、関係機関を有する者を明記
- ・市町村が都市再生整備計画を策定し、官民一体で行う「居心地が良く歩きたくなる」  
まちなかづくりのための取組を位置付け
- 〔予算〕官民連携によるまちづくり計画の策定等を支援



## 計画に基づく「居心地が良く歩きたくなる」空間の創出

都市再生整備計画に基づく「居心地が良く歩きたくなる」まちなかづくりのための取組を、法律・予算・税制等のパッケージにより支援

潜在快速性等向上区域

官 × 民

街路等の公共空間の改善 × オープンスペースの提供・創出  
＝ 潜在快速性等向上区域

- ・市町村等による歩行者滞在空間の創出（街路の広域化等）  
〔予算〕交付金等による支援
- ・民間事業者による空地部分のオープンスペース化（①）や建物屋根部のガラス張り化等（②）  
〔税制〕固定資産税の軽減  
〔予算〕補助金による支援
- ・都市再生推進法人\*がまちづくり活動の一環としてベンチの設置、植栽等を実施  
＝ 都市再生推進法人：NPO、まちづくり会社等の組織によるまちづくり活動を行う法人（市町村が設置）  
〔全額〕低利貸付による支援
- ・駐車場の出入口の設置を制限（メインストリート側ではなく裏通りに駐車場の出入口を設置）
- ・民間事業者が公園管理者と締結する協定に基づき、公園内にカフェ・売店等を設置
- ・イベント実施時に都市再生推進法人が道路・公園の占用手続を一括して対応

# 官民連携によるウォカブル推進のための関連事業予算等の概要

## 官民連携まちなか再生推進事業（エリアプラットフォーム活動支援事業）

エリアプラットフォームの構築（官民の様々な人材が集積）

未来ビジョンの策定（エリアの将来像を明確にして共有）

「居心地が良く歩きたくなる」空間の整備

ハード まちなかウォカブル推進事業  
ウォカブル推進税制

周辺環境の整備（環状街路、公共交通基盤）

滞在環境の向上 アイレベルの刷新

ウォカブルな空間整備

街路・公園・広場等の既存ストックの修復・改善

ソフト 官民連携による持続的なまちづくり活動

公共空間等を活用した社会実験・データ活用

金融支援 公共空間の利活用  
まちなか公共空間等活用支援事業

デッキを活用した賑わい創出

まちづくりを担う行政職員の育成

都市行政研修（国土交通大学校）  
新たな都市空間創造スクール（国土交通省）  
官民連携まちづくりに関する知識・手法を習得

官民連携まちづくりの機運醸成

官民連携まちなか再生推進事業（普及啓発事業）  
先進的なまちづくりノウハウ等の水平展開

※上記は、「官民連携まちなか再生推進事業」を中心に、ウォカブル関連事業との関連性を示したイメージです。ウォカブル関連事業の活用にあたり、必ずしも上記イメージのとおりとするものではありません。



○「居心地が良く歩きたくなる」まちなかの形成を目指す区域（滞在快適性等向上区域）において、民間事業者等（土地所有者等）が、市町村による道路、公園等の公共施設の整備等と併せて民地のオープンスペース化や建物低層部のオープン化を行った場合に、固定資産税・都市計画税の軽減措置を講じる。

特例措置の内容（～令和4年3月31日）

| ① 民地のオープンスペース化に係る課税の特例<br>【土地（固定資産税・都市計画税）・償却資産（固定資産税）】  | ② 建物低層部のオープン化に係る課税の特例<br>【家屋（固定資産税・都市計画税）】   |
|--|--|
| <p>○ オープンスペース化した土地（広場、通路等）及びその上に設置された償却資産（ベンチ、芝生等）の課税標準額を5年間1/2に軽減</p> <p>&lt;適用イメージ&gt;<br/>民地をオープンスペース化(例:広場化)し、公共空間を拡大</p>  <p>「居心地が良く歩きたくなるまちなか」のイメージ</p>  | <p>○ 低層部の階<sup>*1</sup>をオープン化（壁の過半について、ガラス等の透明な素材とすること、開閉可能な構造とすること又は位置を後退させること）した家屋（カフェ、休憩所等）について、不特定多数の者が無償で交流・滞在できるスペースの部分<sup>*2</sup>の課税標準額を5年間1/2に軽減</p> <p>*1 建物の一階部分が対象（原則）。ただし、一階以外の階が広場、通路等に接している場合（サンクンガーデンに面する建物の地階部分や歩行者デッキに面する建物の二階部分など）は、当該階が対象（例外）。</p> <p>*2 オープン化した低層部の階にあるものに限る。</p> <p>&lt;適用イメージ&gt;<br/>建物低層部をオープン化(例:ガラス張り化)し、公共空間を充実</p>  |

まちなかウォーカブル推進事業の概要

○都市再生整備計画事業等において、車中心から人中心の空間に転換し、「居心地が良く歩きたくなるまちなか」の創出に向けて、歩行空間の拡大や公共空間の芝生化、民間用地を活用した公共空間の整備などを重点的・一体的に支援する事業

**事業主体等** 【交付金】市町村、市町村都市再生協議会 【補助金】都道府県、民間事業者等  
国費率：1/2

**施行地区** ①都市再生整備計画事業の施行地区、かつ、  
②都市再生特別措置法に基づく滞在快適性等向上区域（周辺環境整備に係る事業を含む）  
※滞在快適性等向上区域の設定については、令和3年度までの経過措置を想定

**対象事業**

【部幹事業】  
道路、公園、既存建築物活用事業 その他、既存ストックの修復・改変メニューに規定

【提案事業】  
事業活用調査、まちづくり活動推進事業（社会実験等）、地域創造支援事業（市町村の提案に基づく）事業・ハード事業

○ウォーカブルな空間整備

- 道路、公園、広場等の既存ストックの改修・改変
- まちなかウォーカブル区域を下支えする周辺環境の整備  
例) 街路の広場化、バリアフリー環境の創出、公共空間の芝生化・高質化 等

○アイレベルの刷新

- 沿道施設の1階部分をリノベーションし、市民に開かれた民間による公共空間の提供
- 1階部分の透明化等の修復整備  
例) 沿道施設の1階部分の開放、市民に開かれた公共空間の提供 等

○滞在環境の向上

『滞在環境整備事業』を新たに部幹事業として創設

- 滞在環境の向上に資する屋根やトランジットモール化に必要な施設等の整備
- 滞在環境整備に関する社会実験やコーディネート等の調査  
例) 社会実験の実施、デザイン検討・利活用施設の導入 等

○景観の向上

- 景観資源の活用  
例) 外観修繕、照明施設の整備、蓋の美装化 等



事業内容

○ 官民連携による取組を推進し、ゆとりとにぎわいある「居心地が良く歩きたくなる」空間を形成。

まちなかウォーカブル推進事業

・水辺周辺のプロムナードや水上デッキの整備について支援を明確化

官民連携まちなか再生推進事業

・エリアプラットフォーム構築、未来ビジョン等策定支援期間の延長（最大2年間⇒最大3年間）  
・コワーキング・交流施設等の整備について支援対象に追加

都市・地域交通戦略推進事業

・シェアサイクル設備を支援対象に追加  
・軌道緑化の整備について支援を明確化  
・まちなかウォーカブル区域へのアクセス等に寄与する都市交通施設の整備について国費率を高上げ（1/3⇒1/2）

まちなか公共空間等活用支援事業

・ベンチの設置等(カフェ等も併せて整備)を行う都市再生推進法人への低利貸付による支援を推進



「居心地が良く歩きたくなる」まちなかの創出

○ 歩行者利便増進道路（道路法改正法）と滞在快適性等向上区域（都市再生特別措置法改正法）を併用することで、官民一体で取り組む「居心地が良く歩きたくなる」空間の創出を促進

歩行者利便増進道路

- ① 車線を減らして歩道を拡げるなど、歩道等の中に(通行区間とは別に)歩行者の滞留・賑わい空間を整備することが可能  
→公共: 交付金による重点支援
- ② カフェやベンチの設置など、占用制度を緩和  
⇒「無余地性」※1基準が除外され、占用物が置きやすく  
※1 無余地性＝道路区域外にその占用物を置く余地がなく、やむを得ない場合のみ占用を許可する、という基準  
→実質的に20年の占用が可能、多額の初期投資が必要な物件も設置しやすく（占用公券を行う場合、通常は5年）  
※2 公券が交付されない場合でも、道路協力団体による占用であれば許可に代わって協議で占用可

滞在快適性等向上区域

- ③ 公共による道路の修復・改変と民間によるオープンスペースの提供など、官民一体による公共空間の創出が可能  
→公共: 交付金(国費率の高上げ等)  
民間: 税制特例、補助金
- ④ 区域内の特定の道路について、駐車場出入口の設置を制限することが可能
- ⑤ イベント実施時などに都市再生推進法人が道路の占用・使用手続等を一括して対応



両制度を併用すると…相乗効果大

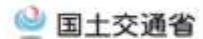
- i. 歩行者の利便増進のための道路整備や、その周辺で民間によるオープンスペースが提供されるなど、エリア内でまちづくりが行いやすくなる。
- ii. カフェ、ベンチ等の道路の占用について、占用基準・期間の緩和、都市再生推進法人による手続面のサポートにより、空間活用が行いやすくなる。
- iii. 歩行者の利便増進が図られた道路沿いの駐車場の出入口の設置制限により、エリア内の安全性や快適性が向上する。

## ウォーカブル推進都市一覧(令和2年12月31日時点)

※ウォーカブル推進都市は臨時営業を受け付けている。

|              |             |              |              |              |              |              |
|--------------|-------------|--------------|--------------|--------------|--------------|--------------|
| 1 北海道札幌市     | 42 茨城県大洗町   | 83 東京都中央区    | 124 長野県      | 185 愛知県知多市   | 208 奈良県宇陀市   | 247 福岡県那珂郡   |
| 2 北海道旭川市     | 43 茨城県浦和町   | 84 東京都杉並区    | 125 長野県長野市   | 186 愛知県尾張旭市  | 209 奈良県田原市   | 248 福岡県田川市   |
| 3 北海道釧路市     | 44 栃木県宇都宮市  | 85 東京都豊島区    | 126 長野県松本市   | 187 三重県四日市市  | 208 奈良県上牧町   | 249 福岡県柳川市   |
| 4 北海道室蘭市     | 45 栃木県足利市   | 86 東京都荒川区    | 127 長野県須谷市   | 188 滋賀県大津市   | 209 和歌山県和歌山市 | 250 福岡県春日市   |
| 5 北海道北広島市    | 46 栃木県小山市   | 87 東京都足立区    | 128 長野県諏訪市   | 189 滋賀県彦根市   | 210 鳥取県鳥取市   | 251 福岡県大野城市  |
| 6 北海道黒松内町    | 47 栃木県下野市   | 88 東京都八王子市   | 129 長野県小諸市   | 170 滋賀県草津市   | 211 鳥取県米子市   | 252 福岡県古賀市   |
| 7 北海道苫小牧市    | 48 栃木県上三川町  | 88 東京都武蔵野市   | 130 長野県茅野市   | 171 滋賀県守山市   | 212 鳥取県倉吉市   | 253 福岡県うきは市  |
| 8 北海道東神楽町    | 49 群馬県前橋市   | 90 東京都三鷹市    | 131 長野県佐久市   | 172 滋賀県東近江市  | 213 鳥取県糟粕市   | 254 福岡県川崎町   |
| 9 北海道土佐町     | 50 群馬県館林市   | 91 東京都府中市    | 132 岐阜県岐阜市   | 173 滋賀県愛宕町   | 214 鳥取県松江市   | 255 佐賀県      |
| 10 青森県青森市    | 51 埼玉県さいたま市 | 92 東京都練馬市    | 133 岐阜県大垣市   | 174 京都府京都市   | 215 鳥取県江津市   | 256 佐賀県佐賀市   |
| 11 青森県弘前市    | 52 埼玉県蕨市    | 93 東京都町田市    | 134 岐阜県高山市   | 175 京都府長岡京市  | 216 鳥取県津和野町  | 257 佐賀県基山町   |
| 12 青森県八戸市    | 53 埼玉県所沢市   | 94 東京都東村山市   | 135 岐阜県美濃市   | 176 京都府八幡市   | 217 岡山県岡山市   | 258 佐賀県上峰町   |
| 13 青森県黒石市    | 54 埼玉県本庄市   | 95 東京都国分寺市   | 136 岐阜県美濃加茂市 | 177 京都府南丹市   | 218 岡山県倉敷市   | 259 鳥取県長崎町   |
| 14 青森県五所川原市  | 55 埼玉県春日部市  | 96 東京都福生市    | 137 岐阜県各務原市  | 178 京都府久御山町  | 219 岡山県倉敷市   | 260 熊本県熊本市   |
| 15 青森県十和田市   | 56 埼玉県戸田市   | 97 東京都柏江市    | 138 静岡県静岡市   | 178 大阪府大阪市   | 220 広島県広島市   | 261 熊本県菊池市   |
| 16 青森県つがる市   | 57 埼玉県朝霞市   | 98 東京都多摩市    | 139 静岡県浜松市   | 180 大阪府堺市    | 221 広島県高市    | 262 熊本県南阿蘇町  |
| 17 岩手県盛岡市    | 58 埼玉県志木市   | 99 東京都稲城市    | 140 静岡県沼津市   | 181 大阪府岸和田市  | 222 広島県三原市   | 263 熊本県益城町   |
| 18 岩手県花巻市    | 59 埼玉県和光市   | 100 神奈川県横浜府  | 141 静岡県静岡市   | 182 大阪府豊中市   | 223 広島県福山市   | 264 熊本県あまき町  |
| 19 宮城県仙台市    | 60 埼玉県安芸市   | 101 神奈川県川崎市  | 142 静岡県三島市   | 183 大阪府池田市   | 224 広島県福山市   | 265 大分県      |
| 20 宮城県塩竈市    | 61 埼玉県美幌町   | 102 神奈川県相模原市 | 143 静岡県岡崎市   | 184 大阪府東大阪市  | 225 広島県府中市   | 266 大分県大分市   |
| 21 宮城県仙台市    | 62 埼玉県宮代町   | 103 神奈川県鎌倉市  | 144 静岡県富士市   | 185 大阪府高槻市   | 226 山口県宇野市   | 267 大分県別府市   |
| 22 秋田県秋田市    | 63 埼玉県杉戸町   | 104 神奈川県藤沢市  | 145 静岡県津島市   | 186 大阪府貝塚市   | 227 山口県山口市   | 268 大分県中津市   |
| 23 秋田県雄勝町    | 64 千葉県千葉市   | 105 神奈川県厚木市  | 146 静岡県掛川市   | 187 大阪府枚方市   | 228 山口県防府市   | 269 大分県杵田市   |
| 24 秋田県湯沢市    | 65 千葉県木更津市  | 106 神奈川県大和市  | 147 静岡県袋井市   | 188 大阪府茨木市   | 229 山口県徳門市   | 270 大分県佐伯市   |
| 25 秋田県鹿角市    | 66 千葉県松戸市   | 107 新潟県新潟市   | 148 静岡県藤枝市   | 189 大阪府八尾市   | 230 山口県萩市    | 271 大分県臼杵市   |
| 26 秋田県利根町    | 67 千葉県野田市   | 108 新潟県三条市   | 149 静岡県浜松市   | 190 大阪府河内長野市 | 231 徳島県徳島市   | 272 大分県津久見市  |
| 27 山形県山形市    | 68 千葉県習志野市  | 109 新潟県見附市   | 150 愛知県名古屋府  | 191 大阪府羽曳野市  | 232 香川県高松市   | 273 大分県竹田市   |
| 28 福島県       | 69 千葉県船橋市   | 110 富山県富山市   | 151 愛知県豊田市   | 192 大阪府門真市   | 233 香川県丸亀市   | 274 大分県豊後高田市 |
| 29 福島県福島市    | 70 千葉県市原市   | 111 富山県高岡市   | 152 愛知県岡崎市   | 193 大阪府高石市   | 234 香川県高松市   | 275 大分県杵築市   |
| 30 福島県会津若松市  | 71 千葉県流山市   | 112 石川県金沢市   | 153 愛知県一宮市   | 194 大阪府東大阪市  | 235 香川県善通寺市  | 276 大分県宇佐市   |
| 31 福島県郡山市    | 72 千葉県八千代市  | 113 石川県小松市   | 154 愛知県津島市   | 195 大阪府大阪狭山市 | 236 香川県善通寺市  | 277 大分県豊後大野市 |
| 32 福島県須賀川市   | 73 千葉県加賀市   | 114 石川県加賀市   | 155 愛知県半田市   | 196 大阪府池田町   | 237 香川県多度津町  | 278 大分県由布市   |
| 33 福島県福島市    | 74 千葉県長柄町   | 115 石川県能美市   | 156 愛知県春日井市  | 197 兵庫県神戸市   | 238 愛媛県松山市   | 279 大分県国東市   |
| 34 茨城県水戸市    | 75 東京都      | 116 石川県野々市市  | 157 愛知県刈谷市   | 198 兵庫県姫路市   | 239 愛媛県大洲市   | 280 大分県日出町   |
| 35 茨城県土浦市    | 76 東京都新宿区   | 117 福井県福井市   | 158 愛知県豊田市   | 199 兵庫県高砂市   | 240 愛媛県内子町   | 281 大分県玖波町   |
| 36 茨城県石巻市    | 77 東京都墨田区   | 118 福井県敦賀市   | 159 愛知県安城市   | 200 兵庫県伊丹市   | 241 高知県高知市   | 282 宮崎県宮崎市   |
| 37 茨城県下妻市    | 78 東京都品川区   | 119 福井県大野市   | 160 愛知県岡崎市   | 201 兵庫県西脇市   | 242 高知県高知市   | 283 宮崎県小林市   |
| 38 茨城県笠間市    | 79 東京都台東区   | 120 福井県鯖江市   | 161 愛知県大山市   | 202 兵庫県加西市   | 243 高知県高知市   | 284 宮崎県綾町    |
| 39 茨城県取手市    | 80 東京都荒川区   | 121 福井県あわら市  | 162 愛知県新城市   | 203 兵庫県新温泉町  | 244 福岡県北九州市  | 285 宮崎県高橋町   |
| 40 茨城県つくば市   | 81 東京都台東区   | 122 福井県越前市   | 163 愛知県津島市   | 204 奈良県大和郡山  | 245 福岡県福岡市   | 286 宮崎県川南町   |
| 41 茨城県ひたちなか市 | 82 東京都渋谷区   | 123 山梨県甲府市   | 164 愛知県大府市   | 205 奈良県桜井市   | 246 福岡県久留米市  | 287 鹿児島県霧島市  |
|              |             |              |              |              |              | 288 鹿児島県中種子町 |

## 官民連携まちづくりの強み



### 組織

有能な人材の活用、ものごとを早く決めることのできる組織

### 魅力的なデザイン

官民一体の空間デザイン、人にとって心地よい空間づくり、  
空き地、空き床の上手な活用

### プロモーションに強い

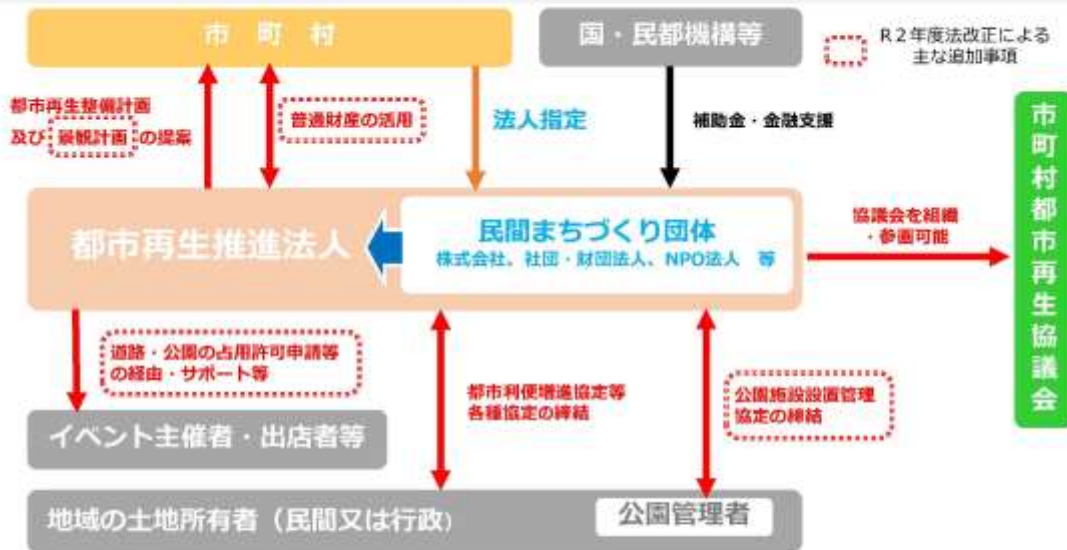
発信力（SNS等）、ロゴづくり、テナント誘致、市民や来街者  
へのアプローチ

### 着実な財政運営（徹底したコスト管理）

収入から逆算して、どれだけ支出できるか考える

## 民間まちづくりの担い手～都市再生推進法人～

都市再生推進法人は、まちづくりに関する豊富なノウハウ等を有し、運営体制等が整っている優良なまちづくり団体に對して、都市再生特別措置法に基づき市町村長が指定する法人をいう。



- ★ 法に基づく指定を受けることにより、団体の信用度・認知度の向上及び公平性の担保
- ★ 指定された団体は、まちづくり活動のコーディネーターや推進主体としての役割を期待

18

## 都市再生推進法人等による公共空間等の活用手段例

市町村が都市再生整備計画※に記載することにより、都市再生推進法人等は、土地所有者等との役割分担の下で、公共空間や民有地の占用・維持管理等を行うことができる。【都市再生特別措置法】

※ 都市再生整備計画：市町村が作成する公共公益施設の整備等に関する計画をいい、規制緩和制度や協定の活用にあたり必要となる。

### 【公共空間規制緩和制度の活用】

道路、河川敷地、都市公園の占用許可の特例を活用し、広告板、オープンカフェ等を設置



広告板・食事施設  
＜道路占用許可＋都市利便増進協定＞



オープンカフェ  
＜河川敷地占用許可＞



サイクルポート  
＜都市公園占用許可＞



### 【都市利便増進協定の締結】

都市利便増進協定等を活用し、広場、並木、ベンチ、歩行者経路等を管理・運営



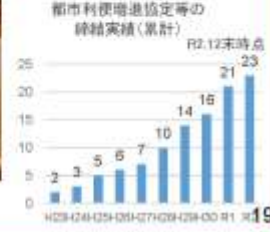
オープンカフェ  
＜道路占用許可＋都市利便増進協定＞



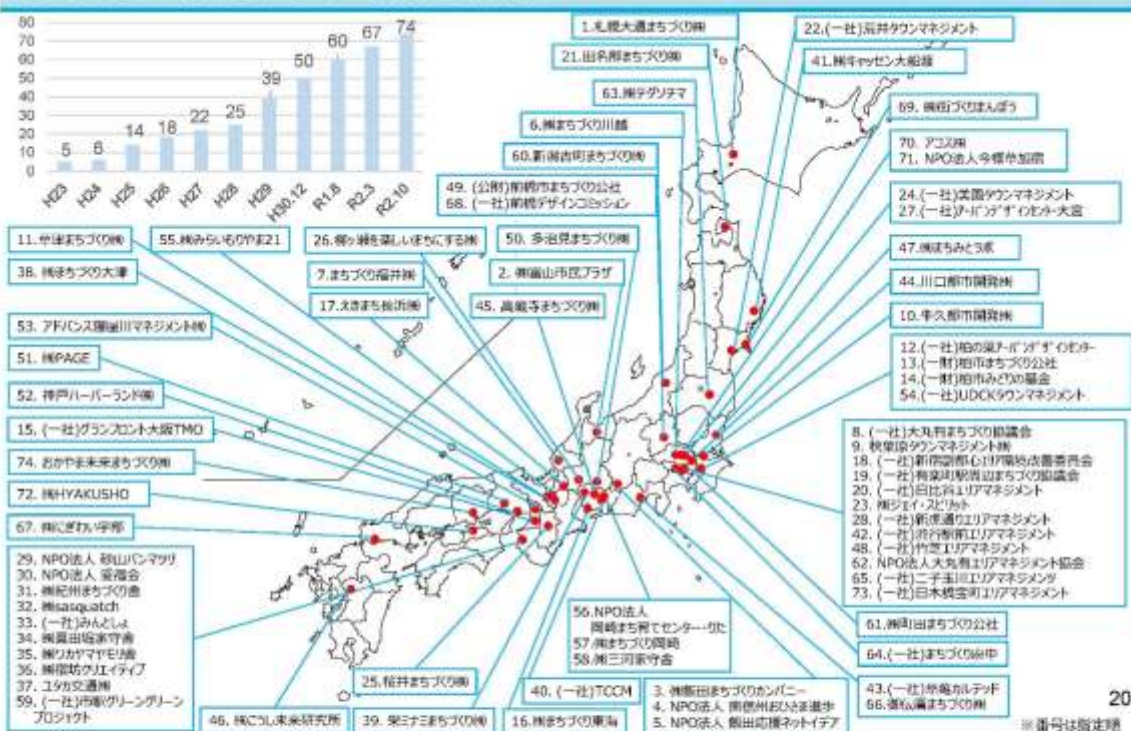
ミスト装置(条例広場内)  
＜都市利便増進協定＞



地下歩道  
＜都市再生歩行者経路協定＞



## 都市再生推進法人の指定状況（全74団体・令和2年10月末時点）



## 2. 新型コロナ危機を契機とした 今後のまちづくりの方向性

# 新型コロナ危機を契機としたまちづくりの方向性の検討について 国土交通省

○ 国土交通省都市局では、新型コロナ危機を踏まえ、今後の都市のあり方どのような変化が起こるのか、今後の都市政策はどうあるべきかについて検討するため、都市再生や都市交通、公園緑地や都市防災のほか、医療、働き方など、様々な分野の有識者に個別ヒアリングを令和2年6～7月で実施。ヒアリング結果を踏まえたまちづくりの方向性について論点整理を行った。

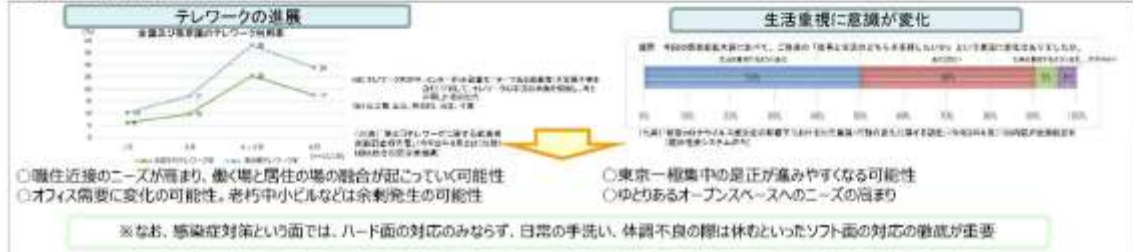
## ■ご意見をお伺いした方々 ※50音順、敬称略

|  |  |
|--|--|
| 金田 和子 (株)いわきテレワークセンター代表取締役   | 武井 浩三 (一社)不動産テック代表理事   |
| 松田 典子 千葉大学大学院園芸学研究所准教授   | 谷口 綾子 筑波大学大学院システム情報系教授   |
| 遠見 泰司 東京大学大学院工学系研究科教授  | 谷口 守 筑波大学システム情報系社会工学域教授  |
| 東 博晴 (株)日本総合研究所Incubation & Innovation Initiative /<br>ミライ総括ディレクター | 出口 教 東京大学大学院新領域創成科学研究科教授   |
| 飯塚 洋史 quod, LLC共同代表  | 東清 亮典 東池(株)執行役員渋谷開発事業部長  |
| 石川 善哉 (公財)Well-being for Planet Earth代表理事                          | 内藤 廣 建築家、東京大学名誉教授  |
| 石田 東生 筑波大学名誉教授   | 中林 一樹 東京都立大学名誉教授   |
| 原山 望成 日本大学理工学部助教(一社)ソノバ共同代表理事                                      | 中村 文彦 横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院教授・副学長  |
| 市川 宏雄 明治大学名誉教授   | 中山 靖史 (独)都市再生機構都市再生事業企画室長  |
| 伊藤 香織 東京理科大学理工学部建築学教授  | 西清 定雄 明星大学建築学館建築学教授  |
| 山本 草米 早稲田大学大学院経営管理研究科教授  | 西村 浩 (株)ワークビジョンズ代表取締役  |
| 岩崎 正夫 まちづくり福井(株)代表取締役社長  | 羽藤 真二 東京大学大学院工学系研究科教授  |
| 植松 宏之 (一社)大阪西田エリアマネジメント代表理事  | 高橋 正輝 東北芸術工科大学デザイン工学部建築・環境デザイン学科教授   |
| 大阪大学コミュニケーションデザインセンター招聘教授  | 原口 真 MS&ADインターナリスト(株)フェロー  |
| 梅澤 寛明 A.Tカーニ日本法人会長   | 福岡 孝則 東京農業大学地球環境科学部造園科学科准教授  |
| 大島 芳彦 (株)ブルースタジオ専務取締役  | 藤井 健 (株)東急総合研究所副所長   |
| 奥森 清貴 (株)日建設計執行役員  | 藤村 龍正 東京藝術大学大学院美術研究科准教授  |
| 加藤 幸樹 東京大学生産技術研究所教授/社会科学研究所特任教授                                    | 牧村 和彦 (一社)計量計画研究所理事  |
| 岸井 隆幸 日本大学理工学部土木工学科特任教授  | 三浦 諒乃 東京大学大学院新領域創成科学研究科特任助教  |
| 北越 陽希 筑波大学システム情報系社会工学域非常勤講師  | 三輪 健江 横浜国立大学大学院都市社会文化研究科准教授  |
| 吉瀬 博仁 流通経済大学流通情報学部教授   | 村木 茂貴 千葉大学大学院工学研究科教授   |
| 久野 謙也 筑波大学人間総合科学部准教授   | 川田 篤人 東京大学大学院工学系研究科准教授   |
| 藤 研吾 建築家、東京大学特別教授・名誉教授   | 森本 幸徳 早稲田大学理工学術院教授   |
| 越塚 豊 東京大学大学院情報学環教授   | 保井 廣樹 法政大学現代福祉学部・人間社会研究科教授   |
| 佐藤 智美 NPO法人Green Connection TOKYO代表理事                              | 山崎 亮 (株)studio-L代表、慶應義塾大学特別招聘教授  |
| 佐土原 聡 横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院教授                                      | 橋澤 大輔 (株)ドワンゴ専務取締役CCO  |
| 高田 智男 ニューヨーク市公園局   | 橋本 真 東京大学大学院工学系研究科教授   |
| 島野 万丈 (株)LIFULL LIFULL HOME'S総研所長                                  | 四郎 宏 東京大学医科学研究所先端医療研究センター教授  |
| 白鳥 健志 筑礼建築前通まちづくり(株)社長   | 滝井 史郎 東京都立大学特別教授   |
| 鈴木 亮平 NPO法人Urban design partners balloon理事長                        | 和田 耕治 国際医療福祉大学医学部公衆衛生学教授   |
| 清古 安弓 東京都健康部長(東京都保健所長兼務)   | 和田 真治 南海電気鉄道株式会社執行役員まちづくり創造室長<br>併任、地方公共団体、都市開発-公共元請-情報通信健康事業の各々にご協力いただいております。 |

22

# 新型コロナ危機を契機としたまちづくりの方向性(概要)(R2.8.31公表) 国土交通省

## ■新型コロナ危機を契機とした変化



## ■今後の都市政策の方向性

都市の持つ集積のメリットは活かしつつ、「三つの密」の回避、感染拡大防止と経済社会活動の両立を図る新しいまちづくりが必要

ヒアリングを踏まえれば、人や機能等を集積させる都市そのものの重要性は変わりなく、国際競争力強化やウォーカブルなまちづくり、コンパクトシティ、スマートシティの推進は引き続き重要。こうした都市政策の推進に当たっては、新型コロナ危機を契機として生じた変化に対応していくことが必要。

- 大都市は、**グレイティブ人材を惹きつける良質なオフィス、住環境**(住宅、オープンスペース、インターナショナルスクール等)、文化・エンタメ機能等を、郊外、地方都市は、**住む、働く、憩いたいといった様々な機能を備えた「地元生活圏の形成」**を推進
- 大都市、郊外、地方都市それぞれのメリットを活かして魅力を高めていくことが重要
- 様々なニーズ、変化、リスクに対応できる**柔軟性・冗長性を備えた都市**が求められる
- **老朽ストックを更新し、ニューノーマルに対応した機能**(住宅、サテライトオフィス等)が提供されるリニューアルを促進
- 郊外や地方都市でも必要な公共交通サービスが提供されるよう、**まちづくりと一体となった総合的な交通戦略**を推進
- **自転車を利用しやすい環境の一層の整備**が必要
- **街路空間、公園、緑地、都市農地、民間空地などまちに存在する様々な緑やオープンスペースを柔軟に活用**
- **リアルタイムデータ等を活用し、ミクロな空間単位で人の動きを把握して、平時・災害時ともに濃密を避けるよう人の行動を誘導**
- **遊憩所の濃密を避けるための多様な遊憩環境の整備**

良質なオフィス、  
テレワーク環境の整備

暮らしの良  
ウォーカブルな空間の創出

都市空間へのゆとり  
(オープンスペース)の創出

上記の都市政策の実現に向けた具体的な方法を検討するため、昨年10月に有識者からなる「デジタル化の急速な進展やニューノーマルに対応した都市政策のあり方検討会」を設置、令和2年度末を目途にとりまとめ予定。

23

【論点1】都市(オフィス等の機能や生活圏)の今後のあり方と新しい政策の方向性 国土交通省

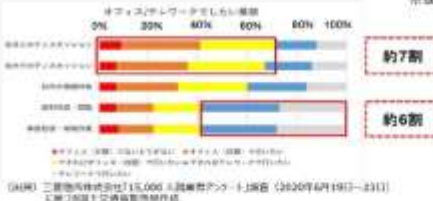
＜新型コロナ危機を契機に生じた変化＞

- テレワークの進展により、どこでも働ける環境が整い、働く場と居住の場が融合。働くにも住むにも快適な環境、ゆとりあるスペースへのニーズが高まる。
- 東京への一極集中の是正が進みやすくなる可能性。
- 「リアルな場」に求められるものは、偶然的交流や白熱した議論、実体験を伴うもの、文化やエンターテインメントといった、オンラインでは代替しがたい経験を提供する機能が中心に。
- オフィス需要に変化の可能性（変化の程度は再論意見あり）。今後、安心やゆとりが求められる中、老朽化した中小ビルなどの需要が減少し、余剰が発生するおそれ。

＜今後の方向性＞

- 複数の用途が融合した職住近接に対応するまちづくりを進める必要。様々なニーズ、変化、リスクに対応できる柔軟性・冗長性を備えた都市であることが求められる(一定期間の試行、仮設物の設置等も有効)。
- 働く場所・住む場所の選択幅が広がるよう、都市規模の異なる複数の拠点が形成され、役割分担をしていく形が考えられる。
- 大都市は、クリエイティブ人材を惹きつける良質なオフィス・住環境を備え、リアルな場ならではの文化、食等を提供する場として国際競争力を高める必要。
- 郊外、地方都市は、居住の場、働く場、憩いの場といった様々な機能を備えた「地元生活圏」の形成を推進。「育ち」の場となるオープンスペースも重要。
- 老朽ストックのサテライトオフィス等へのリニューアルや、ゆとり空間や高性能な換気機能を備えた良質なオフィスの提供の促進が重要。

テレワークが進展する中でも約7割の就業者が「ディスカッションはオフィスで行いたい」と回答



多様なニーズに対応した複合型開発「うめきた二期開発プロジェクト」(住宅、オフィス、商業、子育て支援施設、インキュベーション施設、ホテル等)

※提案時点(2019年5月)のイメージパースであり、今後変更の可能性あり



住みやすく、働きやすいまちなかの形成<沼津駅周辺総合整備事業>(沼津駅周辺のまちなかを人々が交流する住みやすい空間に整備)



【論点2】都市交通(ネットワーク)の今後のあり方と新しい政策の方向性 国土交通省

＜新型コロナ危機を契機に生じた変化＞

- 公共交通の利用への不安や在宅勤務推奨の結果、公共交通利用者が減少。
- 移動時間等の削減により時間価値の重要性が強く認識されるものと考えられる。
- 近距離の移動については、公共交通から自転車に転換している可能性。
- 公共交通について、感染リスクも踏まえた密度や施設のあり方の対応も必要に。
- 歩行者にとっての過密の回避、居心地の良い環境へのニーズの高まりのため、都市のウォークアブル空間の重要性が高まっていくと考えられる。

＜今後の方向性＞

- 混雑状況のリアルタイム発信等により、過密を回避し、安心して利用できる環境が必要。
- まちづくりと一体となった総合的な交通戦略を推進する必要。
- 公共交通だけでなく、自転車、シェアリングモビリティなど、多様な移動手段の確保や自転車が利用しやすい環境整備が必要。
- 駅周辺に生活に必要な都市機能を集積させ、安全性・快適性・利便性を備えた「駅まち」空間の一体的な整備も必要。
- 適切な密度の確保等新しい街路空間の考え方の導入が必要。

今回の感染症下で1週間の通勤時間が減少した人のうち、約7割が「今後も現在の通勤時間を保ちたい」と回答



【出典】「新型コロナウイルス感染症の影響下における生活意識・行動の変化に関する調査」(令和2年6月21日内閣府政策統括官(経済社会システム担当))

岡山駅周辺の空間再構築<岡山駅前広場、県庁通りの再整備等> 駅前広場への路面電車の乗入による交通結節機能強化と駅前の県庁通りの再整備による歩行者空間の緩やかな交流拠点の形成

岡山駅前広場の整備イメージ 県庁通り再整備イメージ



(出典)岡山市

### 【論点3】 オープンスペースの今後のあり方と新しい政策の方向性

#### ＜新型コロナ危機を契機に生じた変化＞

- 自宅で過ごす時間が増え、身近な自然資源として、運動不足の解消・ストレス緩和の効果が得られる場として、グリーンインフラとしての緑や、オープンスペースの重要性が再認識。
- 緑とオープンスペースは、テレワークの作業場所、フィットネスの場所等利用形態が多様化。災害等の非常時に対応するためのバッファ機能として、都市の冗長性を確保する観点からも役割が増大。
- オープンスペースを有効に活用するため、エリアマネジメントの中心的な存在として、信頼できる中間支援組織の存在、効果的に活用するための人材育成の必要性が高まっている。

#### ＜今後の方向性＞

- グリーンインフラとしての効果を戦略的に高めていくことが必要。
- ウォークブルな空間とオープンスペースを組み合わせるネットワークを形成することが重要。
- 街路空間、公園・緑地、水辺空間、都市農地、民間空地など、**まちに存在する様々な緑とオープンスペースについて、テレワーク、テイクアウト販売への活用といった地域の多様なニーズに応じて柔軟に活用することが必要。**
- 災害・感染症等のリスクに対応するためにも、いざというときに利用できる緑とオープンスペースの整備が重要。
- イベントだけでなく、比較的長期にわたる日常的な活用（例：オープンテラスの設置）など、柔軟かつ多様なオープンスペースの活用の試行、これを支える人材育成、ノウハウの蓄積等が必要。

3月の公園利用人数は前年比で増加



(出典) 都立狭山公園、都立武蔵野分寺公園、都立野川公園のデータから国土交通省都市局作成



### 【論点4】 データ・新技術等を活用したまちづくりの今後のあり方と新しい政策の方向性

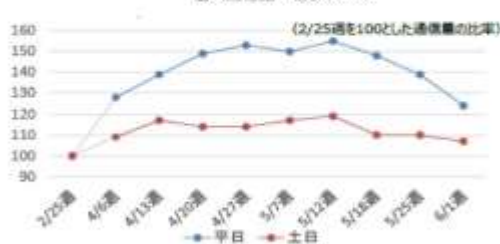
#### ＜新型コロナ危機を契機に生じた変化＞

- 新型コロナ危機によりデジタル化が急速に進み、フィジカル空間に加え、新たにデジタル空間が大いに着目されるようになった。
- フィジカル空間が果たしてきた都市機能の一部はデジタル空間へ移行すると考えられる。
- データを活用した都市の密度のコントロールに対するニーズの高まり。特に、非常時におけるデータの利活用に対する議論の素地が生まれつつあると考えられる。

#### ＜今後の方向性＞

- 市民生活、都市活動等の面でのデータ・新技術等の活用に向けた取組をベースアップさせる必要。
- 過密対策等には、パーソナルデータ等の活用が重要。市民等の理解を得つつ、市民主体のデータ・新技術等を活用した取組を推進する必要。
- 人流・滞在データでミクロな空間単位で人の動きを把握することで、過密を避けるよう人の行動を誘導する取組が重要。

昼間通信量の推移(OCN)



(出典)「新型コロナウイルス感染症の影響下におけるインターネットトラフィックの推移について(総務省)」

リアルタイム人流データのHP掲載(大丸有地区)

#### Cozy Green Parkの今の様子

3Dレーザーセンサーを用いて人々の動きを計測し、リアルタイムに配信しています。



(出典)「Marunouchi Street Park2020」HP、令和2年8月7日11時30分時点



＜新型コロナ危機を契機に生じた変化＞

- 新型コロナ危機下で自然災害が発生すると「複合災害」に、自然災害対応と感染症対策という二つの対応をしなければならなくなった。
- 最近の災害においても、避難者が避難所で感染しないよう、感染リスク抑制と避難を両立させる避難所運営を行うなど、自治体の初動対応にも変化が生じた。

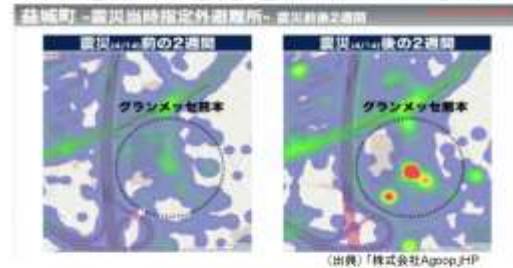
＜今後の方向性＞

- 避難所の過密を避けるため、公的避難所以外の公共施設、民間施設、ゆとり空間など多様な避難環境の確保が必要。
- 引き続き、適切な土地利用規制や誘導等を通じた居住の移転、より安全な宅地の形成等を進めることも重要。
- 災害時に過密を避けるため、平時におけるデータを適用した取組を災害時においても活用することが重要。

新型コロナウイルスの感染拡大が避難行動に与える影響に関する調査結果



災害時の人口密度の可視化の事例  
(本来は避難所ではない駐車場に避難者が集まっていることを可視化)



(出典)「災害時の避難における新型コロナウイルス感染症対策等に関する国民の意識や行動調査全体集計結果(速報)」(令和2年6月 環境防災総合政策研究機構 環境・防災研究所)

新型コロナ危機を契機としたまちづくりの方向性(イメージ)

- 人々の働く場所・住む場所の選択肢を広げるとともに、大都市・郊外・地方都市と、規模の異なる複数の拠点が形成され、役割分担をしていく形が考えられる。
- 複数の用途が融合した職住近接に対応し、様々なニーズ、変化に柔軟に対応できるようなまちづくりが必要。



- ・デジタル化の急速な進展や新型コロナ危機がもたらすニューノーマルなどを背景に、市民の生活スタイルや社会経済システムはドラスティックに変容。
- ・最近の都市政策の動向等を踏まえ、社会的変化に対応しつつ、都市アセットの利活用を通じた市民のQoL（Quality of Life）の大幅な向上を図るため、今後目指すべきまちづくりの方向性はどのように変化していくのか、これを実現するための都市政策をどのように変革していくべきかについて検討

【1. 検討事項】

（1）目指すべきまちづくりの方向性

- ・デジタル化の急速な進展やニューノーマルへの対応により、生活スタイルや都市活動にどのような変化が生じているのか。
- ・こうした生活スタイルや都市活動の変化により、今後目指すべきまちづくりの方向性はどのように変化していくのか。

（2）目指すべきまちづくりの方向性を実現するための都市政策のあり方

- ・都市アセットの利活用や都市サービスのあり方
- ・まちづくりに関するデータの利用環境の改善
- ・まちづくりの担い手、検討プロセス、支援策等のあり方

【3. スケジュール】

- ・第1回 令和2年10月6日（火）
- ・第2回 令和2年11月13日（金）
- ・第3回 令和2年12月10日（木）
- ・第4回 令和3年1月12日（火）  
令和2年度内、とりまとめ予定

【2. メンバー】

- 出口敦 東京大学大学院新領域創成科学研究科教授【座長】秋田典子 千葉大学大学院 園芸学研究科 准教授  
伊藤香織 東京理科大学 理工学部 教授  
梅澤高明 A.T.カーニー日本法人会長／CIC Japan会長  
坂井文 東京都市大学 都市生活学部 教授  
関本義秀 東京大学 生産技術研究所 准教授  
谷口守 筑波大学大学院 システム情報系 教授  
中川雅之 日本大学 経済学部 教授  
村木美貴 千葉大学大学院 工学研究院 教授  
馬場正尊 東北芸術工科大学デザイン工学部 教授  
中村彰二郎 アクセンチュア・イノベーションセンター福島 センター長

【オブザーバー】（一社）日本経済団体連合会、（一社）不動産協会、（独）都市再生機構

【関係省庁】 内閣府、総務省、経済産業省、国土交通省大臣官房技術調査課、総合政策局公共交通・物流政策審議官部門、国土政策局、住宅局

【事務局】 国土交通省都市局

30

第3回マチミチ全国会議（2021.3.4）

○国土交通省は、3月4日、居心地の良い歩きたくなる街路づくりに向けた取組を全国に広げることを目的に、第3回となるマチミチ会議（全国街路空間再構築・利活用推進会議）を開催。

- 日時：令和3年3月4日（木）13:30～15:30
- 参加対象：全国の自治体職員及びまちづくりに関わる民間団体・会社等
- 形式：Web配信（zoomウェビナー）
- プログラム（案）
  - ・開会挨拶（国土交通省）
  - ・基調講演（横浜国立大学 野原 卓 准教授）
  - ・自治体発表（横浜市、岡山市）
  - ・質疑応答
  - ・国土交通省からの情報提供
  - ・閉会挨拶（国土交通省）

▼注意事項 | 『@zoom.us』からのメールが受信できる環境でご登録ください。  
※庁内・社内のインターネットセキュリティ環境、迷惑メール設定を事前にご確認ください。

申し込みフォームはこちら↓  
(※切：2/25(木))



基調講演

横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院 准教授  
野原 卓 氏



自治体発表

横浜市

ワ主な取組  
日本大通りの歩車道幅員の再整備や、みなと大通り及び横浜文化体育館周辺道路のリニューアルに向けた社会実験の実施など



岡山市

ワ主な取組  
県庁通りの魅力向上に向けたハード施策(道路整備)とソフト施策(デザインミーティング等)を両輪で推進



31

## 第10回まちづくり法人国土交通大臣表彰

### 全国のまちづくり活動を募集します！

都市の課題解決に取り組み、地域における良好な環境や地域の価値を維持・向上させる取組みを行っているまちづくり法人の募集を開始。受賞者につきましては、まちづくり月間の6月に表彰予定。

#### 対象

都市の課題の解決に取り組んでいるまちづくり法人※

- ※まちづくりの推進を図る活動を目的とする会社、NPO法人、一般社団法人、一般財団法人等
- ※構成員に法人格を有する団体等を含んでいれば、法人格を有しない協議会等の場合でも、応募可能

#### 募集期間

令和3年1月18日(月)～3月10日(水)18時必着

#### 応募要件

詳細はホームページをご確認ください。



ポータルサイトQRコード

▶ <https://www.mlit.go.jp/toshi/event/index.html>  
 (官民連携まちづくりポータルサイト→国のイベント情報→まちづくり月間)

### 第9回まちづくり法人国土交通大臣表彰 受賞者

#### 【国土交通大臣賞】

柳ヶ瀬を楽しいまちにする株式会社  
 (岐阜県岐阜市)



サンデービルアングマーケット

#### 【審査委員長賞】

株式会社楽市白河  
 (福島県白河市)



えきからあshirakawa

#### 【審査委員長賞】

一般社団法人TCCM  
 (愛知県豊田市)



再開発ビル広場の活用

#### 【審査委員長賞】

草津まちづくり株式会社  
 (滋賀県草津市)



草津川跡地公園

[過去の受賞の詳細はこちら] [https://www.mlit.go.jp/toshi/toshi\\_machi\\_mn\\_000005.html](https://www.mlit.go.jp/toshi/toshi_machi_mn_000005.html)

### 3.1.8.3. 全国エリアマネジメントネットワーク講演資料

全国エリアマネジメントネットワーク長谷川氏より講演を行った、取組事例紹介の資料を以下に示す。

## 全国エリアマネジメントネットワークからの報告

～新型コロナ禍による影響と今後に向けて～

### 【官民連携まちづくりDAY 2021】



全国エリアマネジメントネットワーク  
AREA MANAGEMENT  
NETWORK / JAPAN

#### 1. この1年の動き①

- ・新型コロナの感染拡大後、各地の現状と課題認識を共有し、エリマネの今後についてメンバーで議論を重ねました。

| 項目               | 日付         | 概要                           |
|------------------|------------|------------------------------|
| 情報交換会            | 2020年4月14日 | 各地の現状共有                      |
| エリマネサロンオンライン第1回  | 2020年6月9日  | 各地の現状再確認と課題感の共有              |
| エリマネサロンオンライン第2回  | 2020年6月15日 | エリアマネジメントの役割                 |
| エリマネサロンオンライン第3回  | 2020年7月2日  | エリアマネジメントの必要性の再確認と組織のあり方や人材像 |
| エリマネサロンオンライン番外編① | 2020年7月27日 | 京大諸富教授講義<br>～資本主義の非物質化～      |
| エリマネサロンオンライン番外編② | 2020年8月24日 | 京大諸富教授講義<br>～資本主義の非物質化～      |
| 年次総会             | 2020年9月25日 | 地域経済の再興とエリアの力                |



## 1. この1年の動き②

- ・withコロナにおいて活用が再び進みだした公共空間について事例や課題認識の共有を行いました。

| 項目   | 日付          | 概要                             |
|--|-------------|--------------------------------|
| オープンプレイスミーティング第1回<br>※UDCイニシアチブ、全国まちなか広場研究会と共催 | 2020年9月8日   | 道路等の公共空間活用の事例の共有と制度紹介          |
| オープンプレイスミーティング第2回                              | 2020年10月22日 | コロナ禍を受けた公共空間活用の現状と活用推進にあたっての課題 |
| エリマネウェビナー vol.1                                | 2020年11月6日  | コロナ禍でのオープンプレイス～道路空間活用～         |
| エリマネウェビナー vol.2                                | 2020年12月18日 | 公共空間でのマーケットの現在とこれから            |
| オープンプレイスミーティング第3回                              | 2021年1月15日  | オープンプレイスの活用をどう進めるかを考える         |



## 2. 現下の課題認識

- ・これまでの活動を通じて大きく2つの課題を認識しました。

エリアマネジメントの存在意義・期待される活動は？

公共空間に求められる役割・活用の仕組みは？



### 3. エリアマネジメントの存在意義・期待される活動

#### 新型コロナ の影響

【エリアマネ活動の推進に対する不安】

- ・賑わいづくりを中心に行ってきた活動が制限を受けてしまう
- ・活動の基盤となっていた会費収入や協賛金も不安定になる可能性
- ・コミュニティのベースとなるコミュニケーションが不足してしまう



エリアマネサロン等を通じた議論

#### エリアマネ活 動の今後 【仮説】

【エリアに寄り添い経済価値向上を支える存在へ】

- ・エリアマネジメントは本来エリアの関係者をつなぎ、方向性を共有し課題解決を図る活動（社会関係資本）
- ・改めて官民でビジョンを共有し、エリアの経済価値向上に必要な事業を設定し実践
- ・創造性を高める空間形成や安心して活動できる空間の形成（SDGs、ウォークアブル）



### 4. 公共空間に求められる役割・活用の仕組み

#### 新型コロナ の影響

【公共空間のポテンシャルの高まり】

- ・気分転換や安全に活動できる空間として屋外空間に着目
- ・屋外空間活用についての社会的なコンセンサスや管理者側の理解が比較的高まった
- ・軌を一にして公共空間の活用に関する制度的な基盤が整ってきた



オープンプレイスミーティング等を通じた議論

#### 公共空間の 今後 【仮説】

【日常的な公共空間の活用推進へ】

- ・賑わいイベントでの活用だけでなく、日常的に人々の活動が行われる場として積極的に活用推進
- ・官民で議論しながら人のための空間として改変していくと共に運営管理にあたっての官民の役割分担の明確化が必要
- ・安全性やデザイン性などの基準の明確化が必要



## 5. 今後に向けて

- ①新型コロナによってエリアマネジメント活動は大きく影響を受けた
- ②しかしながら、エリマネが活動してきた公共空間の今後の役割も含め、エリアの関係者で連携していくことが危機を乗り越える上で大事
- ③よって、エリアマネジメントの役割はむしろ大きくなってくると考える
- ④エリアマネジメント組織の活動基盤強化や能力向上を進めていく事が重要
- ⑤全国エリマネは各地のエリマネ組織の皆さんと連携し、エリマネ活動及び組織の今後のあり方を引き続き考えていきます



#### 3.1.8.4. 基調講演資料

東京大学村山准教授より行った基調講演の資料を以下に示す。

## 新たな社会環境における 官民連携まちづくりの論点

村山 顕人

東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻 准教授  
murayama@up.t.u-tokyo.ac.jp  
<http://up.t.u-tokyo.ac.jp/%7Emurayama/> | <https://note.com/aktmurayama>

2021.2.5 | 官民連携まちづくりDAY 2021 | 国土交通省×全国エリマネ

## 新たな社会環境における 官民連携まちづくりの論点

- 論点1 都市を取り巻く状況の変化
- 論点2 まちづくりの大きな目標、with/afterコロナの新しい目標像
- 論点3 まちづくり・エリアマネジメントの共有ビジョンとアクション
- 論点4 官民連携・多様な主体のプラットフォーム
- 論点5 With/afterコロナ時代におけるエリアマネジメントの推進



## 新たな社会環境における 官民連携まちづくりの論点

### 論点1 都市を取り巻く状況の変化

論点2 まちづくりの大きな目標、with/afterコロナの新しい目標像

論点3 まちづくり・エリアマネジメントの共有ビジョンとアクション

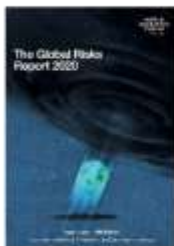
論点4 官民連携・多様な主体のプラットフォーム

論点5 With/afterコロナ時代におけるエリアマネジメントの推進

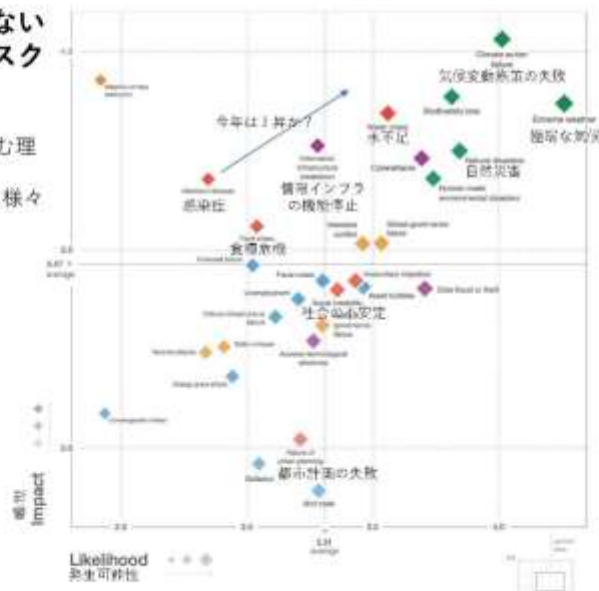
3

### いまここに見えない グローバル・リスク への適応

- SDGs達成に取り組む理由の1つ
- これから顕在化する様々な課題



World Economic Forum  
報告書



#### 論点1 都市を取り巻く状況の変化

- 各エリアにおける近年の具体的な状況変化は？
- グローバルな変化とローカルな変化をどう捉えているか？
- エリアからの実験的アプローチは有効か？

4

## 都市のレジリエンス (100 Resilient Cities Powered by the Rockefeller Foundation)

いかなる進行性のストレスや突発的なショックがあっても都市内の個人、コミュニティ、組織、事業者、システムが生き残り、適応し、成長する能力



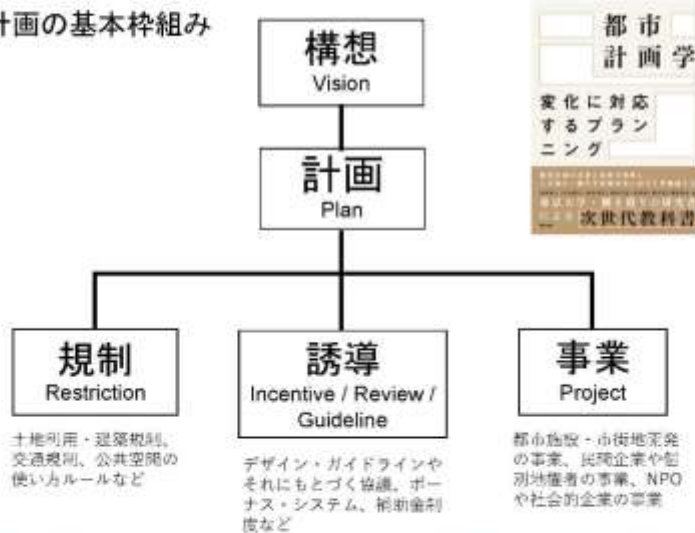
London City Resilient Strategy  
[https://www.london.gov.uk/sites/default/files/london\\_city\\_resilience\\_strategy\\_2020\\_digital.pdf](https://www.london.gov.uk/sites/default/files/london_city_resilience_strategy_2020_digital.pdf)

5

**論点1**  
 都市を取り巻く状況の変化

- 各エリアにおける近年の具体的な状況変化は？
- グローバルな変化とローカルな変化をどう捉えているか？
- エリアからの実験的アプローチは有効か？

## 都市計画の基本枠組み



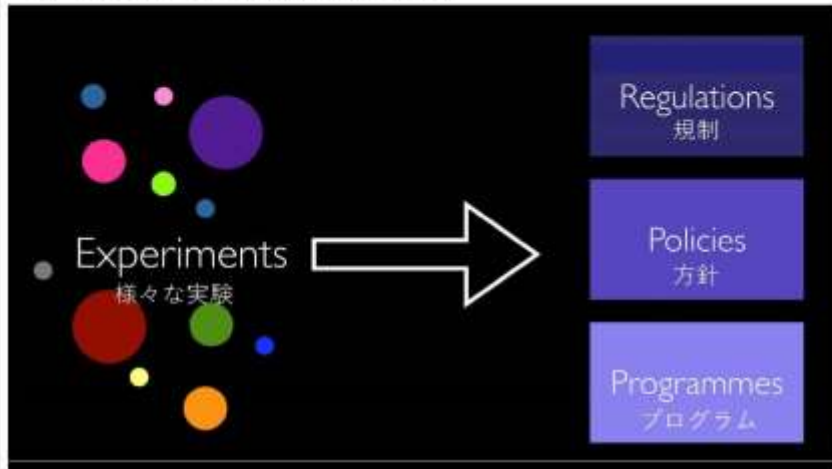
構想や計画の策定/改定に時間がかかり、その実現手段である規制・誘導・事業の内容が機動的に変わらない、社会環境の変化に対応できていないという問題

6

**論点1**  
 都市を取り巻く状況の変化

- 各エリアにおける近年の具体的な状況変化は？
- グローバルな変化とローカルな変化をどう捉えているか？
- エリアからの実験的アプローチは有効か？

## 様々な実験から都市計画を変える



### 論点1 都市を取り巻く状況の変化

- 各エリアにおける近年の具体的な状況変化は？
- グローバルな変化とローカルな変化をどう捉えているか？
- エリアからの実験的アプローチは有効か？

©Andrew Karvonen  
Division of Urban and Regional Studies, KTH Royal Institute of Technology, Sweden  
東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻客員研究員 (2019)

7

## 「地区」での実験的取り組みから



### 論点1 都市を取り巻く状況の変化

- 各エリアにおける近年の具体的な状況変化は？
- グローバルな変化とローカルな変化をどう捉えているか？
- エリアからの実験的アプローチは有効か？

©Andrew Karvonen  
Division of Urban and Regional Studies, KTH Royal Institute of Technology, Sweden  
東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻客員研究員 (2019)

8

## 新たな社会環境における 官民連携まちづくりの論点

論点1 都市を取り巻く状況の変化

**論点2 まちづくりの大きな目標、with/afterコロナの新しい目標像**

論点3 まちづくり・エリアマネジメントの共有ビジョンとアクション

論点4 官民連携・多様な主体のプラットフォーム

論点5 With/afterコロナ時代におけるエリアマネジメントの推進

9

## 持続可能な開発目標（SDGs）（国連、2015年）

2030年に向けた国際社会共通の17の目標



11 都市と人間の居住地を包摂的で安全、レジリエントで持続可能にすること

**論点2**  
まちづくりの大きな目標、  
with/afterコロナの新しい  
目標像

- 持続性やSDGsの枠組みはエリアマネジメントの役に立つか？
- コロナ禍によって目標像はどう変わるか？
- 身近な生活環境、公共空間、特にオープンスペースへの着目？

10

## EcoDistricts の共通言語

環境から社会・経済の持続性を含む、より包括的な内容に発展



プロトコルは3つのコアエリアで構成される

3つの原則:

公正、レジリエンス、気候保護

6つの優先事項:

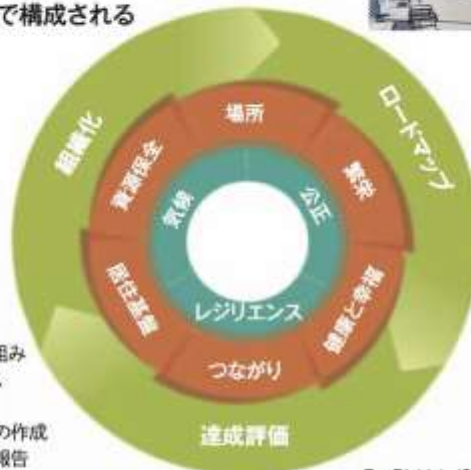
場所、繁栄、健康と幸福、つながり、  
居住基盤、資源保全

3つの実現段階:

組織化、ロードマップ、達成評価

このプロトコルは次のような  
都市再生を促進するよう設計されている

- 公正、レジリエンス、気候保護への取り組み
- 多様な利害関係者の協働とガバナンス
- 持続可能性評価指標に基づく  
地区スケールの総合的なロードマップの作成
- 透明性確保と知識共有のための進捗報告



EcoDistricts (2016)

### 論点2

まちづくりの大きな目標、  
with/afterコロナの新しい  
目標像

- 持続性やSDGsの枠組みは  
エリアマネジメントの役に  
立つか?
- コロナ禍によって目標像は  
どう変わるか?
- 身近な生活環境、公共空間、  
特にオープンスペースへの  
着目?

11

## EcoDistricts の事例

# MILLVALE ECODISTRICT PIVOT 2.0



with support from  
Henry J. Wilson Foundation  
April 2017

- ↓ エネルギー
- ↓ 水
- ↓ 食糧
- ↓ 大気
- ↓ モビリティ
- ↓ 公正

Christine Mondor and Anna Rosenblum (著)、  
村山頼人 (訳) : ミルバール・エコディストリクト・  
ピボット2.0 (地図の中の風景-79), 都市計画,  
Vol.66, No.4, 表紙裏, 2017

### ミルバール・エコディストリクト・ピボット2.0



この計画は、2017年10月に発表された。この計画は、地域の持続可能性を高めるための重要なステップである。この計画は、地域の持続可能性を高めるための重要なステップである。この計画は、地域の持続可能性を高めるための重要なステップである。



### 論点2

まちづくりの大きな目標、  
with/afterコロナの新しい  
目標像

- 持続性やSDGsの枠組みは  
エリアマネジメントの役に  
立つか?
- コロナ禍によって目標像は  
どう変わるか?
- 身近な生活環境、公共空間、  
特にオープンスペースへの  
着目?

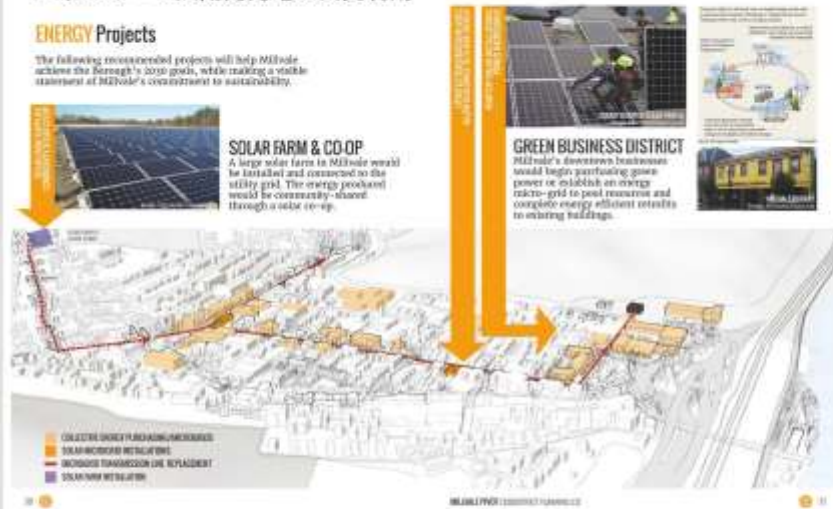
12

## EcoDistricts の事例

### エネルギー：太陽光発電の共同利用

#### ENERGY Projects

The following recommended projects will help Millvale achieve the Borough's 2030 goals, while making a visible statement of Millvale's commitment to sustainability.



#### 論点2

まちづくりの大きな目標、with/afterコロナの新しい目標像

- ・ 持続性やSDGsの枠組みはエリアマネジメントの役に立つか？
- ・ コロナ禍によって目標像はどう変わるか？
- ・ 身近な生活環境、公共空間、特にオープンスペースへの着目？

13

## EcoDistricts の事例

### 食糧：都市農業とレストラン

#### FOOD Projects

The following recommended projects will help Millvale achieve the Borough's 2030 goals, while making a visible statement of Millvale's commitment to sustainability.



#### 論点2

まちづくりの大きな目標、with/afterコロナの新しい目標像

- ・ 持続性やSDGsの枠組みはエリアマネジメントの役に立つか？
- ・ コロナ禍によって目標像はどう変わるか？
- ・ 身近な生活環境、公共空間、特にオープンスペースへの着目？

14

## EcoDistricts の事例

### 公正：つながられた緑地、アフォーダブル住宅

#### EQUITY Projects

The following reimagined projects will help Milrose achieve the Borough's 2030 goals, while making a visible statement of Milrose's commitment to sustainability.



#### 論点2

まちづくりの大きな目標、with/afterコロナの新しい目標像

- 持続性やSDGsの枠組みはエリアマネジメントの役に立つか？
- コロナ禍によって目標像はどう変わるか？
- 身近な生活環境、公共空間、特にオープンスペースへの着目？

15

## パリ市長が打ち出した「15分都市」 (2020)



#### 論点2

まちづくりの大きな目標、with/afterコロナの新しい目標像

- 持続性やSDGsの枠組みはエリアマネジメントの役に立つか？
- コロナ禍によって目標像はどう変わるか？
- 身近な生活環境、公共空間、特にオープンスペースへの着目？

16

## コロナ禍で考えるべき4つの都市の「密度」



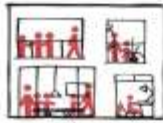
### WHAT IS DENSITY?

"Density" is a complex concept that encompasses many aspects of urban life, each of which could have affected the COVID-19 pandemic in different ways. To recover from this crisis, New York City will require targeted policy interventions that both strengthen the elements of our dense environment that have helped New Yorkers weather this crisis, and mitigate any negative impacts that density has caused.

Different aspects of density include:



**Residential Population Density**  
**居住人口密度**  
 都市計画や様々な政策を検討するためによく使用される単位面積あたりに居住する人口



**Internal Residential Density**  
**内部居住密度**  
 ある住宅に定員を超過して多くの人が居住する状況

### Institutional Settings Density

**施設居住密度**  
 ホームレス・シェルター、刑務所、老人ホームなど共用の空間や施設に多くの人が集住する状況



### Public Spaces & Workplace Density

**公共空間・職場密度**  
 多くの人が共用空間で働いたり、スーパーマーケット、地下鉄車両、ジム、礼拝所などの公共空間を共用する状況



For further exploration of different aspects of density in New York City, see the Skyscraper Museum's online exhibit, "Housing Density: From Tenements to Towers," at <https://skyscraper.org/housing-density/>

DENSITY & COVID-19 IN NEW YORK CITY

OPENING HORIZONS IN A NEW WORLD

CHPCレポート「ニューヨーク市における密度とCOVID-19」より

### 論点2

まちづくりの大きな目標、with/afterコロナの新しい目標像

- 持続性やSDGsの枠組みはエリアマネジメントの役に立つか？
- コロナ禍によって目標像はどう変わるか？
- 身近な生活環境、公共空間、特にオープンスペースへの着目？

17

## Post COVIDの都市のビジュアル・イメージ (2020)



イラスト：Foster and Partners



自転車スーパーハイウェイ

イラスト：SOM



身近な生活環境のエコ・スマート化

イラスト：Gort Scott and We Make That



イラスト：eRMM

<https://www.theguardian.com/cities/ng-interactive/2020/sep/25/garden-streets-bike-superhighways-cities-future-coronavirus>

18



## COVID-19対策：都市・国土構造の改革ではなく、人が集まる建物や公共空間の設計やマネジメントの変更

- 東京をはじめとする大都市でのCOVID-19感染拡大
- 「密度が高い集約型の都市や人口・企業等の東京一極集中が問題なので、もっと密度が低い分散型の都市や国土を目指すべきだ」はやや短絡的
- 感染防止のために密閉・密集・密接の「3密」を回避する：狭い空間の中のことであって、100mや1kmのメッシュあるいは町丁目単位の平均人口密度で表す都市の人口密度の問題ではない
- どんなに人口密度が低い都市でも、建物のエレベーター内、飲食店内、会議室内の密度は高くなることもあり、そこでCOVID-19の感染は起こり得る
- 人口密度が高い都市の方が全体的に空間の余裕がないので3密空間が形成されやすいことは否定しない
- 取るべき対策は、都市・国土構造の改革ではなく、人が集まる建物や公共空間の設計やマネジメントの変更（例：3密回避のために店舗の道路占用を認める国土交通省の「道路占用許可の緊急措置」）

### 論点2

#### まちづくりの大きな目標、with/afterコロナの新しい目標像

- 持続性やSDGsの枠組みはエリアマネジメントの役に立つか？
- コロナ禍によって目標像はどう変わるか？
- 身近な生活環境、公共空間、特にオープンスペースへの着目？

19

## 道路を舞台とした社会実験（2020）



静岡市のパークレット



### 論点2

#### まちづくりの大きな目標、with/afterコロナの新しい目標像

- 持続性やSDGsの枠組みはエリアマネジメントの役に立つか？
- コロナ禍によって目標像はどう変わるか？
- 身近な生活環境、公共空間、特にオープンスペースへの着目？

20

## DIY型パークレットでみんなの居間を（ウィーン：beforeコロナ）



<https://popucity.net/vienna-provides-toolkit-for-citizens-to-create-their-own-pocket-parks/>

### 論点2 まちづくりの大きな目標、 with/afterコロナの新しい 目標像

- 持続性やSDGsの枠組みはエリアマネジメントの役に立つか？
- コロナ禍によって目標像はどう変わるか？
- 身近な生活環境、公共空間、特にオープンスペースへの着目？

21

## 新たな社会環境における 官民連携まちづくりの論点

論点1 都市を取り巻く状況の変化

論点2 まちづくりの大きな目標、with/afterコロナの新しい目標像

**論点3 まちづくり・エリアマネジメントの共有ビジョンとアクション**

論点4 官民連携・多様な主体のプラットフォーム

論点5 With/afterコロナ時代におけるエリアマネジメントの推進

22

## まちづくりのビジョン（構想）



### 藤巻のま」と構想

藤巻町まちづくり構想 概要版  
平成20年3月 藤巻町議会

この構想は、藤巻町のまちづくりの方向性を示すものであり、町民の暮らしの向上とまちの発展を目的として策定された。この構想に基づき、具体的なまちづくりの計画や施策が展開されていく。また、この構想は、町民の意見を反映し、まちづくりの方向性を決定するための重要な役割を果たす。この構想は、まちづくりの方向性を示すものであり、町民の暮らしの向上とまちの発展を目的として策定された。この構想に基づき、具体的なまちづくりの計画や施策が展開されていく。また、この構想は、町民の意見を反映し、まちづくりの方向性を決定するための重要な役割を果たす。

任意のまちづくり構想が様々な草の根的アクションと法定都市計画につながることを示した名古屋市内の事例

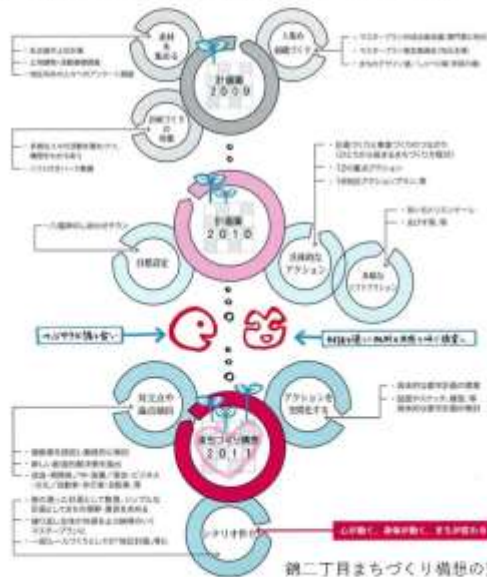
### 論点3

#### まちづくり・エリアマネジメントの共有ビジョンとアクション

- 各エリアではどのようなビジョンを持っているか？
- 実現に向け、どのようなアクションが展開されているか？
- 「ビジョン→アクション」vs. 「アクション→ビジョン」：どちらが先か？
- エリアのビジョンと行政計画の関係はどのようにになっているか？

23

## アクションを基礎としたまちづくり構想



### 論点3

#### まちづくり・エリアマネジメントの共有ビジョンとアクション

- 各エリアではどのようなビジョンを持っているか？
- 実現に向け、どのようなアクションが展開されているか？
- 「ビジョン→アクション」vs. 「アクション→ビジョン」：どちらが先か？
- エリアのビジョンと行政計画の関係はどのようにになっているか？

24

## まちづくりと都市の計画の（ゆるい）連携（錦二丁目）

名古屋大学グローバルCOEプログラム  
『地球学から基礎・応用・実地学への展開』

### 都市の本質化プロジェクト



ストリートウッドデッキ（SWD）  
構造、製作と実験的設置



名古屋センタービル敷地内への  
ストリートウッドデッキ（SWD）の設置



海外パークレット事例の調査



「いつかは申請に置きたい」という夢



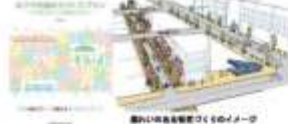
長者町ウッドテラス  
(2014年度歩道拡張社会実験)



錦丁目長者町まちづくり構想（2011年）  
名古屋の都市計画マスタープラン  
新そば生活圏/地域まちづくり（2013年）



信濃美穂のなごや駅前（2009/2011年）  
低炭素モデル地区事業（認定）



新しいまち歩きをつくるイメージ  
名古屋市交通まちづくりプラン  
緑地空間再配分（2013年）

### 論点3

#### まちづくり・エリアマネジメントの共有ビジョンとアクション

- ・ 各エリアではどのようなビジョンを持っているか？
- ・ 実現に向け、どのようなアクションが展開されているか？
- ・ 「ビジョン→アクション」vs. 「アクション→ビジョン」：どちらが先か？
- ・ エリアのビジョンと行政計画の関係はどのようになっているか？

25

## 新たな社会環境における 官民連携まちづくりの論点

論点1 都市を取り巻く状況の変化

論点2 まちづくりの大きな目標、with/afterコロナの新しい目標像

論点3 まちづくり・エリアマネジメントの共有ビジョンとアクション

**論点4 官民連携・多様な主体のプラットフォーム**

論点5 With/afterコロナ時代におけるエリアマネジメントの推進

26



いまここにはないもので、  
みらいのまちをつくる。



名古屋市中区錦2丁目を舞台に、  
あらゆる都市課題を解決する新しいアイデアを実験する。

N2/LAB(エヌツーラボ・錦2丁目エリアプラットフォーム)は、名古屋市中区錦2丁目を舞台に、企業や行政、大学など様々な主体が関わり、未来の地区・コミュニティの実現に向けた構想・研究・共創を進める実験の場です。あらゆる地域で深刻な都市課題が広がる現在において、新しいアイデアを積極的に実践・実証するリアルなまちの実験場として、この地区から日本、世界に向けた新しい「くらし」「しごと」を作る挑戦を、皆様とともに進めます。

錦2丁目エリアプラットフォーム (2020.7-) <https://n2-lab.jp>

**論点4**  
官民連携・多様な主体のプラットフォーム

- 各エリアの官民連携プラットフォームはどのようなものか？どのような主体がどのように関わっているか？
- 民間には多様な主体が存在するのではないかと？
- 行政はエリアマネジメントに何を期待しているのか？
- 行政計画にエリアマネジメントはどのように位置付けられるのか？



**論点4**  
官民連携・多様な主体のプラットフォーム

- 各エリアの官民連携プラットフォームはどのようなものか？どのような主体がどのように関わっているか？
- 民間には多様な主体が存在するのではないかと？
- 行政はエリアマネジメントに何を期待しているのか？
- 行政計画にエリアマネジメントはどのように位置付けられるのか？

## 新たな社会環境における 官民連携まちづくりの論点

論点1 都市を取り巻く状況の変化

論点2 まちづくりの大きな目標、with/afterコロナの新しい目標像

論点3 まちづくり・エリアマネジメントの共有ビジョンとアクション

論点4 官民連携・多様な主体のプラットフォーム

**論点5 With/afterコロナ時代におけるエリアマネジメントの推進**

29



**この後のトークセッションで**

**論点5**  
With/afterコロナ時代における  
エリアマネジメントの  
推進

- 推進体制・方法
- 持続的な資金調達の方法
- 人材確保

30

## 新たな社会環境における官民連携まちづくりの論点

### 論点1 都市を取り巻く状況の変化

- 各エリアにおける近年の具体的な状況変化は？
- グローバルな変化とローカルな変化をどう捉えているか？
- エリアからの実験的アプローチは有効か？

### 論点2 まちづくりの大きな目標、with/afterコロナの新しい目標像

- 持続性やSDGsの枠組みはエリアマネジメントの役に立つか？
- コロナ禍によって目標像はどう変わるか？
- 身近な生活環境、公共空間、特にオープンスペースへの着目？

### 論点3 まちづくり・エリアマネジメントの共有ビジョンとアクション

- 各エリアではどのようなビジョンを持っているか？
- 実現に向け、どのようなアクションが展開されているか？
- 「ビジョン→アクション」vs.「アクション→ビジョン」：どちらが先か？
- エリアのビジョンと行政計画の関係はどのようになっているか？

### 論点4 官民連携・多様な主体のプラットフォーム

- 各エリアの官民連携プラットフォームはどのようなものか？どのような主体がどのように関わっているか？
- 民間には多様な主体が存在するのではないか？
- 行政はエリアマネジメントに何を期待しているのか？
- 行政計画にエリアマネジメントはどのように位置付けられるのか？

### 論点5 With/afterコロナ時代におけるエリアマネジメントの推進

- 推進体制・方法      ・持続的な資金調達の方法      ・人材確保



### 3.1.8.5. トークセッションの記録

トークセッションの記録を以下に示す。

|                      |  |
|----------------------|--|
| <p>村山</p>            | <p>トークセッションは新たな社会環境における官民連携まちづくりの四つの論点に従って進めていく。</p> <p>まず、論点1「都市を取り巻く環境の変化」と論点2「まちづくりの大きな目標、with/after コロナの新しい目標像」を一緒に議論する。都市を取り巻く状況の変化としてローカルでどうことが起こっており、その結果まちづくりの大きな目標が変わったのかどうか、逆に変わらない部分にはどのようなものがあるのかについて各事例からお話しいただきたいと思うが、とくに錦二丁目にはSDGsについてもお話しいただきたい。</p> <p>また、視聴者からいただいた中に「まちづくりに関するいろいろな市役所内の部署の連携をどうしているのか」という質問がある。例えば環境に関する事柄ならば環境局と関係するかもしれないし、スマート技術やスマートシティに関しては経済産業系の部署と関係するかもしれない。どのように分野を横断しているかについても話を伺いたい。</p> <p>二つ目は論点3「まちづくり・エリアマネジメントの共有ビジョンとアクション」について取り上げる。私の基調講演ではアクションからビジョンを作り直す実験的アプローチを強調したが、前橋の事例のように先にきちんとビジョンを作ってからいろいろな事業を動かしていくアプローチもある。ビジョンとアクションの関係をどう見ているかについて伺いたい。</p> <p>また、コロナ禍でもいろいろなアクションをしていることに非常に驚いた。この一年はオンライン化が進み私自身も家に閉じこもっていたことが多いが、まちづくりの現場では感染拡大に注意しながらさまざまなアクションを行っている。その際の工夫や苦勞、オンラインとハイブリッドで行ってきた取り組みについて、コロナ禍でどのようにアクションをしてきたのかについて教えていただきたい。</p> <p>三つ目は論点4「官民連携・多様な主体のプラットフォーム」と論点5「With/after コロナ時代におけるエリアマネジメントの推進」を合わせたもので、組織や資金調達について伺いたい。</p> <p>また、複数の視聴者から駐車場を使った取り組みについて質問があった。本来なら駐車料金が取れるはずの駐車スペースを何台分もなくしてベンチを置いているが、これはオーナーから見ると収入が減ることになるのでビジネスモデルをどうしているのか、という質問内容だった。これについてもお答えいただきたい。</p> <p>さらに、「民間主導でいろいろなまちづくりが展開されている中で行政の役割を今一度確認したい」という質問もあった。これまでの報告の中で行政の役割をイメージしているわけではなかったので、それぞれの行政の方から行政の役割についてお話しいただきたい。</p> <p>その他、皆さんがエリマネを推進する中でいろいろな課題について自由に議論していただきたいと思う。</p> <p>まず都市を取り巻く状況の変化と目標の変化、with/after コロナ時代の新しい目標像について、名古屋の錦二丁目からお願いしたい。</p> |
| <p>錦二丁目<br/>(名畑)</p> | <p>錦二丁目エリアプラットフォーム(民・名畑): プレゼンでも激変の最中だと予想していたところにコロナが起きたので大変だった。まず目の前のことに関しては飲食店など周りの仲間たちが大打撃を受けた状況の中で、エリアマネジメントとして何ができるのかについて非常に悩み、もう一度エリアマネジメントの役割について問い直さなくてはいけなかった。</p> <p>実感しているのはグローバルはかなり距離が縮まったということで、いろいろな課題が身近に感じられるようになった。</p> <p>一方でローカルは距離が遠のき、合意形成がしづらくなった。地域の人と相談しながら決定したい事柄でも手紙でのやり取りになると、ある程度のガイドラインを引くことになってしまう。したがって「エリマネの立場でこのように権力を持って良いのか」ということを考え始めてしまい、「エリマネとは」について深く考えさせられる時期であった。</p> <p>グローバルとローカルをつなぐ際にSDGsの取り組みは私たちがまちづくりと企業の人たちにとっての共通言語になった。それだけではなく、企業の人と町の人とがつながるきっかけにもなったことが大きな成果だったと思う。枠組みとしてあった17の目標が地域の具体的な課題と接点を持ってくるようになると、企業の人たちが具体的なアイデアを出してくれるということがこの二年間で起きている。大きなビジョンだけでは分かりにくい、企業の人と地域の人との具体的な課題を知りたがっており、地域の人と企業の具体的なプレゼンでも激変の最中だと予想していたところにコロナが起きたので大変だった。まず</p>  |



|              |   |
|--------------|---|
|              | <p>目の前のことに関しては飲食店など周りの仲間たちが大打撃を受けた状況の中で、エリアマネジメントとして何ができるのかについて非常に悩み、もう一度エリアマネジメントの役割について問い直さなくてはならなかった。</p> <p>実感しているのはグローバルはかなり距離が縮まったということで、いろいろな課題が身近に感じられるようになった。</p> <p>一方でローカルは距離が遠のき、合意形成がしづらくなった。地域の人と相談しながら決定したい事柄でも手紙でのやり取りになると、ある程度のガイドラインを引くことになってしまう。したがって「エリマネの立場でこのように権力を持って良いのか」ということを考え始めてしまい、「エリマネとは」について深く考えさせられる時期であった。</p> <p>グローバルとローカルをつなぐ際に SDGs の取り組みは私たちまちづくりと企業の人たちにとっての共通言語になった。それだけではなく、企業の人と町の人とがつながるきっかけにもなったことが大きな成果だったと思う。枠組みとしてあった 17 の目標が地域の具体的な課題と接点を持つてくるようになると、企業の人たちが具体的なアイデアを出してくれるということがこの二年間で起きている。大きなビジョンだけでは分かりにくいですが、企業の人や地域の人々の具体的な課題を知りたがっており、地域の人や企業の具体的な提案を欲しがっている。これによって両者の接点がつながってきたということ強く実感している。</p>  |
| カミハチ<br>(山中) | <p>論点 1、論点 2 について大きな話からすると、広島市では広島駅周辺地区とカミハチキテルが活動している紙屋町八丁堀地区の二つを都心の核として楕円形の都心づくりを進めている。平成 30 年に紙屋町八丁堀地区が特定都市再生緊急整備地域に指定され、令和 2 年にすでに指定されていた駅周辺地区に紙屋町八丁堀地区が統合されて都心地区という名称に変わった。さらにそのうちの一部が特定都市再生緊急整備地域に指定され、現在は都心の再開発の機運が非常に高まっている。特定都市再生緊急整備地域に指定された頃はまさにコロナの真っ最中であったが、再開発は長期スパンで考えるものなのでコロナの直接的な影響は少ない。</p> <p>カミハチキテルで取り組んだ相生通りは、目抜き通りでありながら人がたくさん通るような道ではない。すぐ近くに並走している本通りはアーケード街で人がたくさん通っているものの、相生通りは車の通過交通が行き交うばかりでなかなか人が集まらないメインストリートだった。しかしそこにカミハチキテルのパークレットを作ったことで「相生通りでもこのような使い方ができるんだ」ということを広島市民の多くの方に驚きをもって受け止められたと思う。したがってこのような実験的なアプローチは非常に有効である。</p> <p>一方で第二弾の社会実験である民間空地を利用したにぎわいづくり事業は広島市が公報する前に地元の新聞紙で取り上げられたが、そのときの反響は必ずしもプラスのものだけではなく、このコロナ禍で街中に人を集めるのは良くないのではないかという苦情の声が市役所に寄せられた。今日の話の中にもあったが、都心の賑わいを作っていくことを悪と捉える風潮が一部で広がっている。With コロナの時代にあっても都心で人が集まるのがいけないのではなく、きちんとソーシャルディスタンスを確保し、三密を避けながら都心ならではの魅力を作っていくことが大切だ。現在は苦情を寄せてきた方に対してこのようなことを 1 時間でも 2 時間でも説明して納得していただくという作業を続けている。</p> |
| 村山           | <p>コロナという大きな環境の変化に対して今まで共有していたと思っていた目標が揺らいでいる部分があり、それに対して公共空間を舞台とした社会実験で具体的に見せながら納得していくプロセスなのだとして理解した。</p>  |
| 前橋市<br>(日下田) | <p>論点 1 の都市を取り巻く状況に関して、前橋市は大きな政令指定都市とは異なる。もちろんコロナによって個々の事業者はいろいろなダメージを受けているが、長い目で見ると大分前に吸い出される波が過ぎており、ある時点まで下がったところで 10 数年変わっていない。我々が活動している商店街でもコロナ以前と現在とで人通りはそれほど変わっていないのが実態である。そういう意味では大都市と前橋のような地方の県庁所在地とでは事情が異なると感じている。</p> <p>論点 3 に言及すると、我々はビジョンを先行させてまちづくりを行っている。コロナの影響を過小評価することはないが、先に描いた 100 年の計としてのビジョンに向かって進んでいく中で粛々とまちづくりを進めている。</p> <p>そういう意味では持続可能性や SDGs というワードについてもアーバンデザインを描く段階で盛り込まれているので、個別に SDGs がどうという議論を現在することはほぼない。緑を増やしてエコロジカルで快適で住み心地の良いウォーカブルな町にしていこうという既に書いてあることを粛々とやっている。</p>   |
| 村山           | <p>最初の論点に関して発言のある方はいるか。</p>   |
| 錦二丁目<br>(白木) | <p>名古屋市でもまちづくりに寄与していきたいと思っている。名古屋都心には道路空間の占用特例に合わせて総合設計で作ってきた公開空地が多数ある。今までは公開空地にはテーブルや椅子を出しづらい状況だったが、with/after コロナに備えて積極的に使って</p>  |

|              |  |
|--------------|--|
|              | <p>いこうとしている。最近ではさらに公開空地に椅子やテーブルを追加して置きたいという方にも助成をするための新しい制度を作り、空地を皆さんが憩える空間として使っていけるように推進している。</p>   |
| 村山           | <p>続いて論点3「まちづくり・エリアマネジメントの共有ビジョンとアクション」に進みたい。どのようなビジョンを持っているかについては既にご報告いただき、地域でエリアマネジメントやプラットフォームのビジョンを既に持っていたり、あるいはまさに現在議論をしているところだが、「こういうものと行政の従来のマスタープランや基本計画との本質的な違いは何か」という質問が視聴者から来ている。</p> <p>これについて民間側、行政側の両者の立場から回答いただくとともに、共有ビジョンとアクションの話題の中で、行政の今までの計画とどこが違うのかについてもお話しいただきたい。</p> <p>また、いろいろな社会実験を行っているが、その評価をどうしているのか。社会実験は街中で行うのでにぎわいや見栄えがするものが評価されやすく、事例集では「このように空間を変えてこんなに賑やかになりました」、「このように空間を楽しんで使えます」という評価が目立つ。一方で交通量や人々の動き、滞留の調査を行って然るべき評価をした上で、社会実験を超えて恒常的に空間を変えていくことにつなげる必要があると思う。評価の現状や課題について思っていることがあれば、それについても触れていただきたい。</p> <p>さらに、コロナ禍でワークショップや説明会を開きにくい中でどのような工夫をしているのかについても伺いたい。</p> |
| 前橋市<br>(瀬瀬)  | <p>行政計画と民間の皆さんが作った計画との違いについて話をしたい。行政計画は確実性を求め、あたかも少し先の未来を予想したかのように10年計画、20年計画を作っている。しかしこれからは先の読めない時代になると考えると、社会実験を繰り返しながら変えていくという視点が必要になると認識している。</p> <p>民間と行政とが作る計画のハイブリッドを作ろうとしているのが前橋市アーバンデザインで、市が主体として作っているものの「何年計画」という位置づけもしていないし、行政計画にぶら下がるのではなく独立している。また、「計画の中で民間の皆さんがアクションを起こして変えていってください」ということを推奨している。つまり、行政が責任をもって作ってはいるものの、「共通理念だけを持ち続けながら民間の皆さんによって解釈を変えていきましょう」というのが今回のアーバンデザインである。タクティカルアーバンイズムと言えるかどうか分からないが、エリアマネジメントとこれまでの行政の気風の間を持つ計画が有効ではないかと考えている。</p>   |
| 村山           | <p>行政計画とぶら下がっていないというのが意外だった。どちらかという行政が主導して作っているアーバンデザインのプランなので位置づけがあるかと思ったが、そういうものがなくても行政の中で「こういうものを作って取り組んでいこう」となるものなのか。もしかすると「法律に基づかないものなのにどうして行政がやるのか」という疑問を持つ方もいるのではないかと。町内の中の雰囲気、合意形成について伺いたい。</p>  |
| 前橋市<br>(瀬瀬)  | <p>アーバンデザインを作ったときにはワークショップで民間の皆さんからいただいた意見を取り上げるというのが大原則だったが、策定途中は庁内の関係課約13課で庁内検討委員会を作り議論をした。やはり質問されたように「位置づけがない」「変えていく不確実性がある」という話はなかなか受け入れられなかった。そこを上手く丁寧に説明することによって合意を得て、「とりあえずやってみれば」となった。また、首長の強い意識があったことで上手く落とせた。</p>  |
| 前橋市<br>(日下田) | <p>本日は主にアーバンデザインの話を中心に行っているが、実際には同時期に前橋の街中の財界を中心とし、商工会議所が事務局を務めるグリーン&amp;リラックスというまちづくりのコンセプトペーパーができています。つまり、行政サイドが描いた戦略としてのアーバンデザインと、それと対になるペーパーワークを民間サイドですることによって、まちの意思統一を図ってきたというプロセスが重要だったと思う。</p>  |
| 村山           | <p>民間側でも動きがあり、ペアになって動かしてきたということか。<br/>では名古屋の錦二丁目はどうか。</p>  |
| 錦二丁目<br>(名畑) | <p>行政計画と地域で作るものとの違いについて、圧倒的に違うのは何を作るかというよりも、誰と作るかということだ。地域の皆で基礎調査をして皆で作ったということによって、関わった人たちがその後の担い手になっていく。その成果として皆でエリアマネジメント会社を作った。一緒に作ることによって担い手になっていく、体験するということが地域として作ることの大きな成果だと思っている。</p> <p>この20年の錦二丁目のまちづくりの歴史は構想を作りながら、動きながらという二つを常に両輪で応答することによって自分たちがやっていることの意味を確認しながら進むことができたので、これは非常に大きいことだと思う。</p> <p>また、最初に作ったまちづくり構想の中で、大きな構想は20年ごとに見直し、事業的なことは5年ごとに見直すというアップデート自体を言っていた。20年の中で10年まで</p>   |

|              |   |
|--------------|---|
|              | <p>来たところで、むしろ早めに見直さなければいけない時期が来ているものもある。それには新しい状況における社会的な応答もあるし、サービスや技術がどんどん先に進んでいるものもある。どちらかと言うと土地利用や都市計画に地域が関わるというイメージで最初のまちづくり構想が作られていたが、そういう状況でもなくなってきたので現在10年目で見直そうとしている。最初に作った構想の何を引き継いで何を变えていくかをまさに検討しているところだ。</p> <p>コロナ禍における工夫については我々も非常に苦労しているので、他の方の意見を伺いたい。</p>   |
| 村山           | <p>行政から見ると錦二丁目は勝手に動いてまちづくり構想を作り、時には行政の各部局に出向いていろいろなお願いをしたりと厄介な構想なのかもしれないが、白木さんはどのように見ているか。</p>  |
| 錦二丁目<br>(白木) | <p>我々もまちづくり部局なので、錦二丁目が実際に活動をしていく中で規制部局とのつなぎの部分はどうしても出てくる。直接やられると難しい部分も、我々のような立場の行政の人間が関わることで、地元の人たちがやりたいことと行政側の意見との落としどころを見つけて進めていけるのではないかと考えている。</p>   |
| カミハチ<br>(松尾) | <p>論点3の中のエリアビジョンと行政計画の関係について話をしたい。</p> <p>行政の立場からすると行政計画に沿ってエリアビジョンを作ってもらいたいという思いがどうしても出てくる。しかし、市民目線で市民にとって何がいちばん良いかを考えると、やはりそこに住んでいる方々、地権者の方々がどういったまちづくりをしたいのかを考え、皆さんが熱意を持って一つのビジョンを作っていく気運があるのであれば、それを大切にしたいと思う。また、そういった動きができるように行政が下支えをしていくことが非常に大切だと思っている。</p> <p>ただその場合、必ずしも行政計画とエリアマネジメントで作られるエリアビジョンとの整合性が図られない恐れも出てくる。</p> <p>一つの考え方としては、行政が強く介入してエリアマネジメント組織のエリアビジョンを行政のビジョンに沿ったものに変えてもらうというものがある。その場合、地域の方の熱意を削いでしまうこともあり得る。</p> <p>一方、地域の方の熱意が多くの人たちに受け入れられないといけないという面もある。地域の方が熱意を持って「こういう街にしたい」ということをなるべく様々な方法でPRし、多くの人に受け入れてもらうことが非常に大切だと思う。</p> <p>広島市ではカミハチキテルの取り組みを「市民と市政」という広報誌で取り上げたり、市議会の特別委員会で取り上げたりして活動をなるべく広く紹介するようにしている。</p> <p>個人的には、大きな方向性が市民主体で起こってくれば、逆に行政計画の方に反映されていくこともあって良いと思う。</p> |
| 村山           | <p>錦二丁目もまちづくり構想から一部行政計画として事業が動いている部分もある。行政が介入して変えさせるのではなく、地域をベースに行政も受け取るべきものは受け取っていくスタンスが大事なのかもしれない。</p> <p>名畑さんからコロナ禍でのアクションについていろいろ聞いてみたいという発言があったが、錦二丁目の工夫や苦労話はあるか。</p>  |
| 錦二丁目<br>(名畑) | <p>コロナ禍での集まりがやりにくい面がある。逆に企業の方々やちょっと離れた人たちとのリモートを介しながらのワークショップはやりやすくなり、リモートだから参加できるという人も出てきた。しかしこれを地域と共有しようとなると、現状では参加できる人で代表的な人、若い人たちに来てもらって「こういう話が出たよ」と報告するだけになってしまう。これについて何か工夫をしているところがあれば伺いたい。</p>   |
| カミハチ<br>(山中) | <p>我々も錦二丁目と同じ状況に陥っていた。昨年末にフォーラムを開いてビジョンの中間報告を予定していたが中止にせざるを得なかった。そこで現在トライアルとして動画を制作している。そもそもフォーラムに参加予定だったステークホルダーを一社ずつ回ってインタビューしたものを動画に収めている。何人かの動画を撮ったらそれを次の人に見せ、さらに次の人にもビジョンやまちに対する思いを語ってもらってその動画をさらに次の人に伝えるという数珠つなぎのようなことをしている。</p> <p>この試みが少し機能し始めている兆しもあり、とあるステークホルダーからは「議論が積みあがっている状況が分かる」という話があった。これはコロナが明けた後も映像としてフォーラム等で使うこともできる。</p>  |
| 錦二丁目<br>(名畑) | <p>大変参考になった。発言する機会があることが大事だと思うので、インタビューをしに行くというのはとても良い。</p>   |
| 前橋市<br>(日下田) | <p>コロナに対して楽観的であってはいけないと思うし、現実には個別の事業者でダメージを受けている方はたくさんおり、前橋でもたくさんイベントが中止になっている。</p> <p>その一方で我々MDCやまちづくりの中核はイベントを行うことではない。すでに前橋は</p>   |

|              |  |
|--------------|--|
|              | <p>密ではない街になってしまっており、その密ではない良さを伸ばしていくことを前提に取り組んでいるので、コロナへの対策にプライオリティがあるわけではない。</p> <p>むしろリモートワークや時代性で兼業が進んでいる状況の中で、東京に流出していた優秀な人材が地元の議論に参加してくれるというアクションが起こってきている。コロナのビフォーアフターという話よりは、我々にとって非常に良い状況が生まれつつある。これがコロナの影響によるものなのか、我々の取り組みが認められているものなのか、どちらが理由とは言い切れないが、良い兆候を感じる場面が多々ある。悲観的になりすぎないでまちづくりを長い目で考えている状況である。</p>  |
| 前橋市<br>(瀬戸)  | <p>リモートが進んだことで東京に勤めなくても地方にいられるという時代が来た。まさにアーバンデザインでも住む方と働く方のバランス、職住バランスを取ろうとしている。働き方を増やそうという指針があるので、コロナ禍の方が、引き合いが多くなっている。</p> <p>実店舗の厳しい状況は変わらないが、最近キッチンカーで移動販売する実店舗の方も多くなった。今年度行った河畔や市役所、県庁前の広場でのイベントにはキッチンカーで出店して密を避けるという取り組みが多かった。</p>  |
| 村山           | <p>前橋アーバンデザインには100年の計ならではの安定感がある。100年という超長期なビジョンがあるので、現在の大変な状況をポジティブにとらえ、長期的な視点の中で位置づけているという感想を持った。ビジョンについては何年先のビジョンを作るのかということもポイントになる。前橋は100年先、錦二丁目は2011年に作った構想で2030年を目標にしている。</p> <p>次に三つ目の大きな議論に進みたい。官民連携、多様な主体のプラットフォームをどう作ってきたか、これからどう作っていくべきか、また、エリアマネジメントの主体が活動を進めていくにあたっての体制や資金調達の方法について伺いたい。</p> <p>とくに、エリアマネジメント会社やこれを推進している組織そのものの持続的な活動やプロジェクトごとの採算についてどのようなビジネスモデルで回しているのか、という二つの資金に関する質問が視聴者から出ている。推進主体としての継続性と、いろいろ取り組んでいるプロジェクトでどのようにお金を回しているのかについて伺いたい。</p> <p>プラットフォームについては官民連携という言葉自体はシンプルだが、誰をどこまで巻き込むのかという話もあると思う。これは町の状況によって異なると思うので、エリアプラットフォームを作っている中でどういう範囲を組織化したのかについても盛り込んでもらいたい。</p>   |
| 錦二丁目<br>(名畑) | <p>官民連携のプラットフォームについては誰とやるのかということで情を育んでいくことが非常に大事だと思っている。地元の人間だけではだんだん体力をなくしつつあるので、現在は積極的に企業の人たちを入れていくというフェーズにある。</p> <p>企業だけでなく多様な人たちがまちづくりに関わっており、もともとは繊維問屋のコミュニティから始まったまちづくりが現在はアーティストが関わるなど文化的な組織が多数のハブになっている。学生や外からの風を取り入れたまちづくりになりつつあるので、そこに企業の人たちに入ってきてもらう土壌を作っているのが現在のプラットフォームだと思っている。</p> <p>オープンな場面を作る一方で着実に具体的なサービスをつないでいくという両輪を回している感じだが、行政の方もいる中でいろいろな人が一緒にものを作っていくオープン性があること自体が大事な仕組みだと実感している。</p> <p>組織自体の持続に関してはまさにエリアプラットフォームと繋がっている。地域を良くするための暮らしのサービスをどんどん生み出したいというのが私たちの思いであり、具体的な地域課題との接点をプラットフォームの中で作り、新しいサービスや技術を応用している。最近では防犯カメラの映像解析のソリューションを目の前で見せてもらった際に、噂ではこの場所は交通安全上危ないと思っていたが、実際に見える化されることでデータ活用がリアリティを持って私たちの中に入ってきた。そこでようやくスマートシティがリアルな話になってくる。</p> <p>大きなビジョンから入るのは私やまちの人間には分かりにくく、一つ一つ暮らしの問題に対応していくようなサービスを生み出し、エリアマネジメントが取り次ぎとして着実に資金を回していく開発も時にはあると考えている。</p> |
| 錦二丁目<br>(白木) | <p>再開発に関してはエリアマネジメント会社に床を持ってもらうことがある。その中でサービスをどのように提供していくかということもあるが、床の運営の中で経営が安定化してくればサービスもまちに還元できるようになる。そういうところを上手く運転していくことが今後は非常に大事になっていくだろう。</p>  |
| 村山           | <p>床を持つというのは、エリアマネジメント会社が再開発の保留床を取得し、そこでテナント事業をすることによって安定的な収益を得るというスキームのことである。</p> <p>広島市はプレゼンにマトリックスがあったのが非常に印象的だった。収益事業と非収益</p>  |

|              |  |
|--------------|--|
|              | <p>事業を横軸に、ソフトウェアとハードウェアを縦軸に取り、取り組みがプロットされておりそれを拡大していくという分かりやすい話だった。それ以外にも資金調達や組織のことについて伺いたい。</p>   |
| カミハチ<br>(山中) | <p>先ほど社会実験のビジネス化について話をしたが、広島に関してはエリアマネジメントの立ち上げのタイミングにある。まだ組織としてせい弱だが、社会実験そのものをビジネスとして回していくことを非常に意識している。</p> <p>カミハチキテルは当初今できているような形ではなく、大きな上場企業に三つのスペースを貸し出し、社会実験命名権を導入しようとしていた。具体的には飲料系の会社に三つのスペースを一括で貸し出し、商業的なプロモーションの空間として使ってもらうことでまとまった額の収益を得て社会実験を成立させようとしていた。しかし直前に辞退されたこともあり、クラウドファンディングや現物支給のような形で資金と資材をそれぞれ調達した。また、民間企業として経営している一般社団法人地域価値共創センターから投資として拠出して資金を調達した。</p> <p>第二回社会実験に関してもベルギーのアウトドアファニチャーのメーカーから無償で家具を提供してもらっている。資金をもらうだけでなく取り組みに共感してもらい、商材等持ち得るリソースを出し合ってもらって回している。</p> <p>今後再開発等で生まれてくるスペースに関しては、カミハチキテルの前回の社会実験の実績から「是非使って欲しい」「管理をして欲しい」という話が複数来ており、収益が確保できそうな流れになっている。</p> <p>実際にどういう範囲で巻き込んでいくかということだが、カミハチキテルはメインストリートの企業が中心になっているので、小さい事業者というよりは地元の大企業や東京資本の会社の支店が多く、とにかく膝詰めをしている。まちづくりというフォーラムやワークショップをやりがちだが、究極のところはそれぞれのステークホルダーの意向や目指しているビジネスとまちづくりとがいかにか符号するかが大事になってくる。企業に合わせてプレゼンする資料や語るべき言葉を変えているので、打ち合わせが半端なく増えてしまい現場は大変だが地道に取り組んでいる。</p> |
| 村山           | <p>前橋のプレゼンでは寄付金でやっていくという話があったが、これはあまり考えていなかったことなので関心がある。視聴者の中には小さい自治体で数人で取り組もうとしており、都市規模も小さく、再開発事業ができるような開発圧力もないところでどのようにやっていくのかという悩みを持っている方もいる。そういう方々へのヒントももらえればと思う。</p>  |
| 前橋市<br>(日下田) | <p>第一に大きな寄付をもらったのデベロップメントは特殊なケースである。前橋という地域が持っていた一つの文化の成果とは思いますが、それ以上に重要なことは、我々前橋デザインコミッションは1,113人の法人・民間会員からの会費で基本的な経費を賄っているということである。今後も我々の事業運営の基本的な考えはその費用のみで行っていくことであり、例えば何かしらの再開発事業で収益を得る、イベントを行って収益を得るということは考えていない。</p> <p>町の中で再開発をする方もプレーヤー、イベントをする方もプレーヤー、小さな飲食店や店をしている方もプレーヤーで、それを支援する町の一つの経営企画室のような機能になっている。最小限の体制、ランニングコストで会費によって賄っていきたくて考えており、会員規模がいずれは千人という状況になっていけば持続できると考えている。</p> <p>まちのプレーヤーの支援をするという意味ではITツールの整備を進めており、バーチャル前橋のような構想はまちでいろいろな事業を行う際に成功率を上げるための一つの道具だと思っている。一つ一つのプレーヤーの成功率が上がっていくことがまちの賑わいにつながっていくというのがベースの考え方である。</p> <p>これは願望というか構想だが、いろいろな地方が同様の悩みを抱えていると思うので、まちづくりの生産性を上げる道具を外販して多少なりとも収益を得ることも我々の考え方にある。まちづくりツールを共有財産として外販して多少なりともリターンを得る、前橋の外から稼ぎに行くということも一つの野望として持っている。</p>  |
| 村山           | <p>これまで人材のことがあまり議論されていないと思う。プラットフォームにいろいろな関係主体が参加して議論していくためにはそれを推進するコアなメンバーが必要になるので、推進する主体となる人材の確保について伺いたい。</p> <p>あわせて、本日のディスカッションの感想を一言ずついただいて終わりにしたい。</p>   |
| 錦二丁目<br>(名畑) | <p>動かしていくエンジンという意味では、エリアマネジメントの役員や正社員等の中枢メンバーは地元で長年やってきた人が半分、残り半分は外から来た人になる。外からの人間はそれぞれ専門性を持ち、ビジネスイノベーション関係が得意な人間、私のように学生の頃から地域に張り付いてきて地域との調整をする人間、テナントリーシングができる人間、飲食関係ができる人間等で、かなり専門性を持った人間を集めている。私と同世代の</p>  |

|              |  |
|--------------|--|
|              | <p>30代を最近仲間に引き込み、地域とのつながりを橋渡ししながらやっている。</p> <p>世代でいうと30代が汗水を流して働き、50代の地元の信頼がおける人たちが橋渡しをし、60～70代の人たちが「50代の人たちがそう言うのなら良い」という3段構成でうまくやっている。</p> <p>本日は共通する課題があったり刺激を受けたりという機会をいただいて非常に刺激を受けた。地元で子どものときからまちづくりに携わり、大学でまちづくりを勉強している子がいるが、そういう子が自分の地域と外の地域との接点を見ながら自分の地域のことを考える機会にもなっている。地元の人間にとっても全体の中で自分たちの地域がどこまで来ているかが分かるのはとてもありがたいことだ。</p>  |
| 錦二丁目<br>(白木) | <p>今までエリアマネジメント会社は数少なかったが、エリアマネジメントを持続、発展させていくいろいろな取り組みがあるということで非常に勉強になった。</p>   |
| カミハチ<br>(山中) | <p>広島に関してはリモートの状況が効いており、とくに東京在住や海外の方とプロジェクトを進めている。アメリカのポートランドのランドスケープ事務所に入ってもらいパース等を描いてもらっている。他にも先々UターンやIターンをすることを見据えて広島に仕事や基盤を作っておきたいという人は結構いるので、そういう人とリモートで組み、3年後、5年後に帰ってきてもらおうという流れができていると思う。長期的にはグリーンバードや若い人のすそ野を広げることも同時にやっており、合わせ技でできている。</p> <p>感想としては、ぜひ名古屋や前橋の皆さんとお会いして話ができれば嬉しいと思う。</p>  |
| 前橋市<br>(日下田) | <p>我々の後ろにあるポスターには「めぶく。」と描いてあるが、これが前橋のビジョンで、前橋のポテンシャルを表す言葉だと思っている。全国的にも知られているいくつかの企業の創業地が前橋であり、大学が6校あり、地元の高校がすでに昨年キャリア教育を受けている等、人材を育成する文化がある。都会で力をつけた方にはコロナによりリモートワークや兼業で地元で何かをしたいという機運が非常に盛り上がっている。</p> <p>今まではそういったポテンシャルを集約する中心のメッセージがなかったが、前橋市アーバンデザイン協議会が一昨年できたことによって、力を集約する状況が生まれたと考えている。そのためにMDCも生まれたのであり、これからの前橋の力になると確信している。</p>   |
| 前橋市<br>(瀬戸)  | <p>本日は大変勉強になった。残念ながらコロナ禍によりリモートとなってしまったが、ひと段落したら本日登壇された方々とつながりを続けていきたいと思う。</p>   |
| 村山           | <p>前橋市アーバンデザイン協議会の日下田氏の最後の発言にあった「まちづくりツールを開発して共有すると良い」という意見には私も賛成だ。全国でエリアマネジメントの動きが出てきて、大きな都市の大組織のものから小さな都市の小さな取り組みまでいろいろあり、それぞれで苦労している。経験から学ぶところもあるが、具体的にどう動くかという際に一つの規範や枠組み、いろいろなことを進めるためのまちづくりツールが開発されて共有されると一気に進みそうだと感じた。</p> <p>視聴者からも「社会実験の評価手法がよくわからない、単純に賑わいや商業の売り上げが上がったという指標はよくあるが、もっと多角的に評価すべきではないか」との意見があったが、もっともだと思う。そのための評価ツールも開発して共有できると良い。</p> <p>本日は遠隔でご参加いただき、盛りだくさんの事例報告とディスカッションで私自身も大変勉強になった。引き続きこのような議論をどこかで続けられればと思う。</p> |

### 3.1.8.6. 参加者アンケート結果

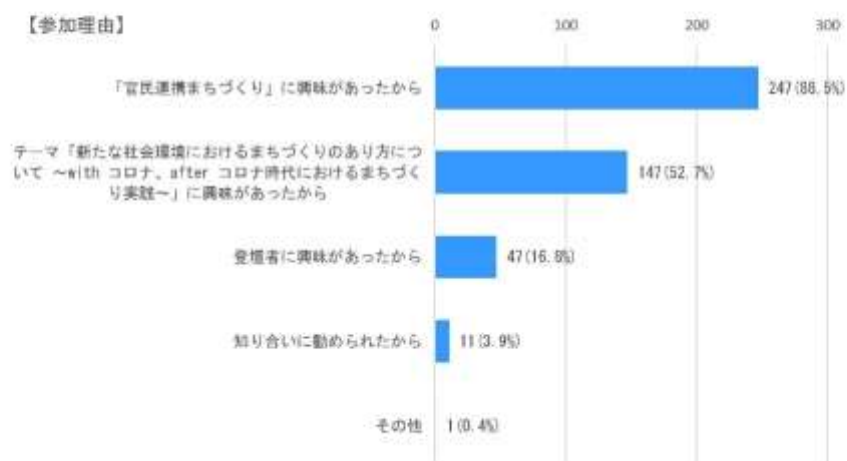
イベント終了後、参加者が回答したアンケート結果を以下に示す。

## 官民連携まちづくりDAY2021／参加者アンケート集計

Q1. 本日のシンポジウムに参加した理由は何ですか。当てはまるものをすべてに○をつけてください。

| 【シンポジウム参加理由】  | 回答数  | 回答割合  |
|---|------|-------|
| 「官民連携まちづくり」に興味があったから  | 247  | 88.5% |
| テーマ「新たな社会環境におけるまちづくりのあり方について～with コロナ、after コロナ時代におけるまちづくり実践～」に興味があったから | 147  | 52.7% |
| 登壇者に興味があったから  | 47   | 16.8% |
| 知り合いに勧められたから  | 11   | 3.9%  |
| その他   | 1    | 0.4%  |
|   | 回答者数 | 279   |

※複数回答（回答数453件）

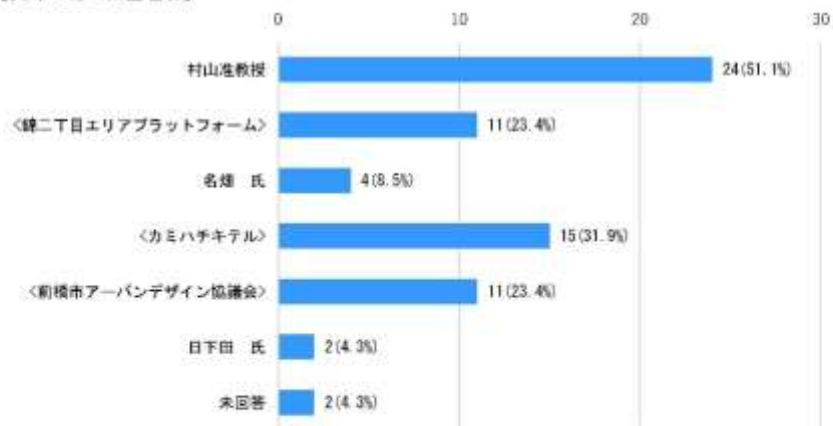


01-2.「登壇者に興味があったから」を選ばれた方は、ご興味があった登壇者名をお書きください。

| 【興味のある登壇者】        | 回答数 | 回答割合  |
|-------------------|-----|-------|
| 村山准教授             | 24  | 51.1% |
| <錦二丁目エリアプラットフォーム> | 11  | 23.4% |
| 名畑 氏              | 4   | 8.5%  |
| <カミハチキテル>         | 15  | 31.9% |
| <前橋市アーバンデザイン協議会>  | 11  | 23.4% |
| 日下田 氏             | 2   | 4.3%  |
| 未回答               | 2   | 4.3%  |
| 回答者数              | 47  |       |

※複数回答（回答総数67件）

【興味のある登壇者】

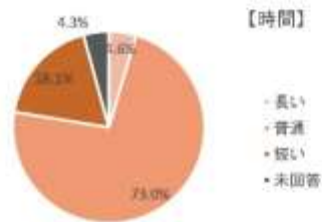
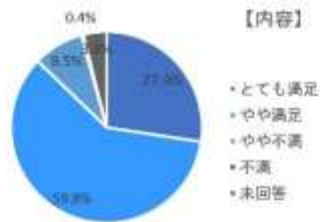




Q2. 国土交通省からの取組紹介の内容・時間はいかがでしたか。当てはまるもの一つに○をつけてください。

| 【内容】  | 回答数 | 回答率    |
|-------|-----|--------|
| とても満足 | 77  | 27.4%  |
| やや満足  | 168 | 59.8%  |
| やや不満  | 24  | 8.5%   |
| 不満    | 1   | 0.4%   |
| 未回答   | 11  | 3.9%   |
| 合計    | 281 | 100.0% |

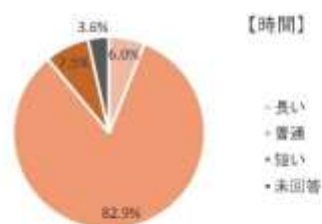
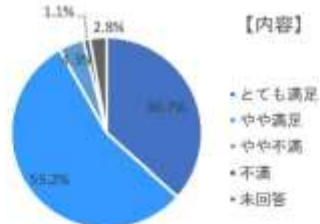
| 【時間】 | 回答数 | 回答率    |
|------|-----|--------|
| 長い   | 13  | 4.6%   |
| 普通   | 206 | 73.0%  |
| 短い   | 51  | 18.1%  |
| 未回答  | 12  | 4.3%   |
| 合計   | 281 | 100.0% |



Q3. 全国エリアマネジメントネットワークからの取組紹介の内容・時間はいかがでしたか。当てはまるもの一つに○をつけてください。

| 【内容】  | 回答数 | 回答率    |
|-------|-----|--------|
| とても満足 | 103 | 36.7%  |
| やや満足  | 155 | 55.2%  |
| やや不満  | 12  | 4.3%   |
| 不満    | 3   | 1.1%   |
| 未回答   | 8   | 2.8%   |
| 合計    | 281 | 100.0% |

| 【時間】 | 回答数 | 回答率    |
|------|-----|--------|
| 長い   | 17  | 6.0%   |
| 普通   | 233 | 82.9%  |
| 短い   | 21  | 7.5%   |
| 未回答  | 10  | 3.6%   |
| 合計   | 281 | 100.0% |

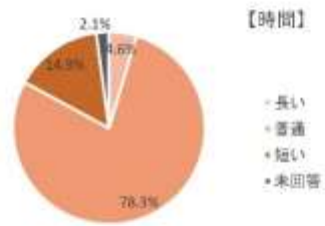


04. 基盤講演の内容・時間はいかがでしたか。当てはまるもの一つに○をつけてください。

| 【内容】  | 回答数 | 回答率    |
|-------|-----|--------|
| とても満足 | 145 | 51.6%  |
| やや満足  | 123 | 43.8%  |
| やや不満  | 6   | 2.1%   |
| 不満    | 1   | 0.4%   |
| 未回答   | 6   | 2.1%   |
| 合計    | 281 | 100.0% |



| 【時間】 | 回答数 | 回答率    |
|------|-----|--------|
| 長い   | 13  | 4.6%   |
| 普通   | 220 | 78.3%  |
| 短い   | 42  | 14.9%  |
| 未回答  | 6   | 2.1%   |
| 合計   | 281 | 100.0% |

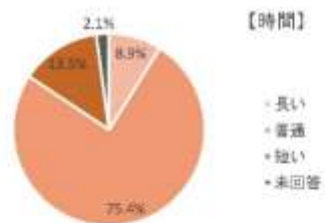


05. トークセッションの内容・時間はいかがでしたか。当てはまるもの一つに○をつけてください。

| 【内容】  | 回答数 | 回答率    |
|-------|-----|--------|
| とても満足 | 133 | 47.3%  |
| やや満足  | 126 | 44.8%  |
| やや不満  | 16  | 5.7%   |
| 不満    | 0   | 0.0%   |
| 未回答   | 6   | 2.1%   |
| 合計    | 281 | 100.0% |

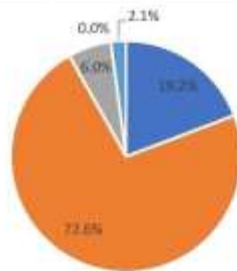


| 【時間】 | 回答数 | 回答率    |
|------|-----|--------|
| 長い   | 25  | 8.9%   |
| 普通   | 212 | 75.4%  |
| 短い   | 38  | 13.5%  |
| 未回答  | 6   | 2.1%   |
| 合計   | 281 | 100.0% |



Q6-1. 本日のシンポジウムに参加し、官民連携まちづくりやエリアプラットフォームの構築・活動等に役立つ実務的な取組事例やヒントを得ることはできましたか。それぞれのテーマについて、当てはまるもの一つに○をつけてください。

| 【シンポジウムの成果】 | 回答数 | 回答率    |
|-------------|-----|--------|
| よく得られた      | 54  | 19.2%  |
| 得られた        | 204 | 72.6%  |
| あまり得られなかった  | 17  | 6.0%   |
| 全く得られなかった   | 0   | 0.0%   |
| 未回答         | 6   | 2.1%   |
| 合計          | 281 | 100.0% |

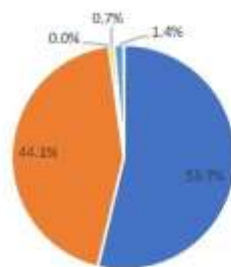


【シンポジウムの成果】

- ・よく得られた
- ・得られた
- ・あまり得られなかった
- ・全く得られなかった
- ・未回答

Q7. 今回のような「官民連携まちづくり」のシンポジウムに、また参加したいと思いますか。

| 【次回参加意向】    | 回答数 | 回答率    |
|-------------|-----|--------|
| ぜひ参加したい     | 151 | 53.7%  |
| 機会があれば参加したい | 124 | 44.1%  |
| 参加しない       | 0   | 0.0%   |
| わからない       | 2   | 0.7%   |
| 未回答         | 4   | 1.4%   |
| 合計          | 281 | 100.0% |

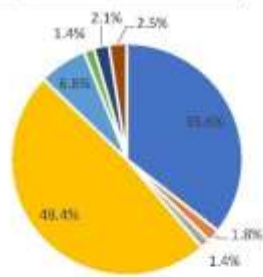


【次回参加意向】

- ・ぜひ参加したい
- ・機会があれば参加したい
- ・参加しない
- ・わからない
- ・未回答

●ご職業

| 【職業】   | 回答数 | 回答率    |
|--------|-----|--------|
| 地方公共団体 | 100 | 35.6%  |
| 国      | 5   | 1.8%   |
| 大学関係者  | 4   | 1.4%   |
| 民間企業   | 136 | 48.4%  |
| 各種団体   | 19  | 6.8%   |
| 学生     | 4   | 1.4%   |
| その他    | 6   | 2.1%   |
| 未回答    | 7   | 2.5%   |
| 合計     | 281 | 100.0% |

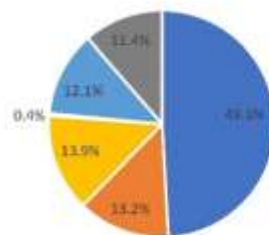


【職業】

- 地方公共団体
- 国
- 大学関係者
- 民間企業
- 各種団体
- 学生
- その他

●ご専門

| 【専門】    | 回答数 | 回答率    |
|---------|-----|--------|
| 都市      | 138 | 49.1%  |
| 建築      | 37  | 13.2%  |
| 土木      | 39  | 13.9%  |
| 出版・メディア | 1   | 0.4%   |
| その他     | 34  | 12.1%  |
| 未回答     | 32  | 11.4%  |
| 合計      | 281 | 100.0% |



【専門】

- 都市
- 建築
- 土木
- 出版・メディア
- その他
- 未回答

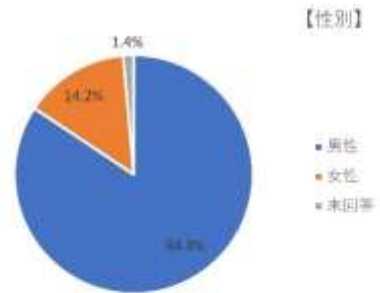
●年齢

| 年齢    | 回答数 | 回答率    |
|-------|-----|--------|
| 10代   | 2   | 0.7%   |
| 20代   | 32  | 11.4%  |
| 30代   | 94  | 33.5%  |
| 40代   | 56  | 19.9%  |
| 50代   | 66  | 23.5%  |
| 60代   | 22  | 7.8%   |
| 70代以上 | 5   | 1.8%   |
| 未回答   | 4   | 1.4%   |
| 合計    | 281 | 100.0% |



●性別

| 性別  | 回答数 | 回答率    |
|-----|-----|--------|
| 男性  | 237 | 84.3%  |
| 女性  | 40  | 14.2%  |
| 未回答 | 4   | 1.4%   |
| 合計  | 281 | 100.0% |



Q1 参加理由\_その他

| その他内容 |           |
|-------|-----------|
| 1     | エリアマネジメント |

Q2 国土交通省からの取組紹介について、印象に残ったお話やキーワード

| その他内容 |   |
|-------|---|
| 1     | 『ゆとりと賑わいをめざす』   |
| 2     | ○官民連携まちなか再生推進事業 最大3年間の延長<br>○コロナ禍 三密 マクロでなくミクロの問題であること<br>都市の持つ集積機能は変わらず重要              |
| 3     | 15分都市構想 (仏・パリ市)   |
| 4     | 3密は都市全体で考えるものでなく、個々のミクロで気を付けるもの   |
| 5     | Afterコロナでも都市機能はマクロ的には変わらず   |
| 6     | LQC (Lighter, Quicker, Cheaper)   |
| 7     | R3度予算・事業の情報   |
| 8     | R3年度制度改正、事業メニューなど、まちづくりでトライ&エラーして発展させていく。   |
| 9     | SDGs  |
| 10    | WE DO   |
| 11    | アーバンデザインとアクションプラン   |
| 12    | ウォーカブル  |
| 13    | ウォーカブル、LQC  |
| 14    | ウォーカブルシティ   |
| 15    | ウォーカブルなまちづくり  |
| 16    | ウォーカブルな人中心の空間へ  |
| 17    | エリアマネジメント WE DO   |
| 18    | エリアマネジメント団体再開の保留床取得者になった？   |
| 19    | エリアマネとして何をすべきか。官民連携での意見交換・ひざ詰めでの議論の重要性  |
| 20    | コロナによるライフサイクルの変化→都市の集約による機能の不透明化  |
| 21    | コロナ禍での取組  |
| 22    | コロナ対応は都市施設内の話で、都市のコンパクト化の流れは変わらない。  |
| 23    | トークセッション。質問を取り上げていただきとても参考になりました。   |
| 24    | トライ&エラー、まさに新しい投資  |
| 25    | まちづくりプラットフォーム   |
| 26    | まさに魂を入れる  |
| 27    | ミクロな密、金太郎船になりがちだが、コミュニケーションによって独自性が生まれる   |
| 28    | ミクロな密の回避、新しいアイデアに基づく試行錯誤、民間の強みは決断の早さやプロモーション  |
| 29    | ミクロな密を避けながらも、人中心の居心地の良いまちづくりを実践していくことは変わらないことが分かった。また、スライドで流れた事例で知らないものもいくつか見られ、興味をもった。 |
| 30    | リモート会議はリアルより良い。官民連携という言葉の古さ   |
| 31    | ワーカブルな街   |
| 32    | 海外や国内の取り組み事例の紹介が勉強になった。   |
| 33    | 活動が全国に広く行われていることが印象的だった。  |
| 34    | 鎌田さん  |
| 35    | 官民連発に力点を置かれていました。20年前ですと都市局としては考えられなかったですね。   |
| 36    | 官民連携  |

|    |  |
|----|--|
| 37 | 官民連携 コロナであっても変わらない視点   |
| 38 | 官民連携の事業が一般的になりつつあることを実感した。   |
| 39 | 既存ストックを最大限活用し、再編して魅力的な空間にする  |
| 40 | 急ぎすぎていて、内容が頭に入らなかった。スライドを飛ばすなら資料配布だけで良い。   |
| 41 | 居心地がよく歩きたくなるまちなか   |
| 42 | 公共空間に求められる役割・活用の仕組み<br>賑わいイベントでの活用だけでなく、日常的に人々の活動が行なわれる場として活用推進  |
| 43 | 行政計画とエリアマネジメントの計画の違い   |
| 44 | 昨年9月公開の有識者ヒアリング結果  |
| 45 | 事例紹介が参考になった  |
| 46 | 時間が短く要点がよく分からなかった  |
| 47 | 時間は長くてよい。が、一般論は必要ないので、国の支援等、国土交通省が話すべきポイントを絞って時間を有効に使ってほしい。  |
| 48 | 小さな取組（社会実験）の積み重ね、連鎖によるまちづくりの実践   |
| 49 | 職業では私鉄系のデベロッパーとして、うめきた二期の大型商業開発を手掛けていますが、現在学んでいる大学院での都市経営学科では、地元豊中市のコンパクトシティの活性化を修論のテーマにしており、特に前橋のスキームのご説明に非常に背中を押されました。是非名刺交換させて頂きたいです。   |
| 50 | 新しい補助制度について関心あります。占有スペースのエリア緩和やシェアサイクルの特例などです。また、公共空間が日常的に人々の活動が行われる場として積極的に活用されるとの発言は心強いです。しかし、現状では公のスペースを借りるだけでもハードルが高く、理解がないと公共財の目的外使用などと言われてしまいます。都市再生推進法人が主導するイベントや事業については緩和措置が欲しいです。 |
| 51 | 推奨すべき事は理解したが、説明が早い印象。  |
| 52 | 水上 水辺 ウォーカブル   |
| 53 | 生きた空間  |
| 54 | 第3回マチナミ全国会議が開催される  |
| 55 | 都市の集積機能は変わらず重要   |
| 56 | 内容に対して余りにも時間が無さ過ぎる。  |
| 57 | 岸池袋等の事例  |
| 58 | 賑わい空間の事例   |
| 59 | 歩行者利便増進道路と滞在快適性等向上区域の運動  |
| 60 | 本物感、かっこ良さ  |
| 61 | 本物感。   |
| 62 | 本物感のあるまち   |
| 63 | 民の強み（LOG、デザイン、プロモーション、財政）  |
| 64 | 民間のまちづくり事業に行政が応援する   |
| 65 | 民間の強みを生かした   |
| 66 | 予算案について  |
| 67 | 予算拡充内容の紹介  |
| 68 | コロナ危機の状況下でのコンパクトシティ形成とウォーカブルなまちづくりの重要性   |
| 69 | 居心地が良く、歩きたくなるまちなか、ウォーカブル空間の形成  |

Q3 全国エリアマネジメントネットワークからの取組紹介について、印象に残ったお話やキーワード

| その他内容 |  |
|-------|--|
| 1     | 「街のルール」をみんなでつくり合意形成を図る。  |
| 2     | 『官民で将来のビジョンを共有する』『やがて来る都市の変化に向け、官民でエリマネをやる』  |
| 3     | ○この一年の動き、紹介欄の「資本主義の非物質化」とのテーマ<br>どのようなはなしたかとの興味をひかれた。<br>○EliMとは本来方向性を共有し課題解決を図る活動（社会関係資本） |
| 4     | 100年の計 コロナが影響を大きくない、小さな取り組み・地域課題の解決場   |
| 5     | BIM/GIM, CSV   |
| 6     | CSVによる資金&資料調達、前橋市のアーバンデザイン協議会の立ち位置   |
| 7     | economical transformation on the city  |
| 8     | SDGs   |
| 9     | withコロナ、afterコロナについての検討事項報告<br>都心で人が集まることの是非、その手法、新たな都心での賑わいづくりの考え方                        |
| 10    | アーバンデザインに係る民間の取組み  |
| 11    | アップデートし続ける舞台をつくる   |
| 12    | いずれも具体的な取組み事例のご紹介が多く、自ら関わるまちづくりでも取り組んでみたいと感じるものも多かったです                                     |
| 13    | インタビューに行く、動画撮影、リモートだからこそ海外とつながって取り組みを加速している、行政の計画とビジョンの違い。                                 |
| 14    | ウェブナーセミナー  |
| 15    | ウォークアブルシティ   |
| 16    | エリアプラットフォーム ヴィジョン 収益（ビジネス）   |
| 17    | エリアマネジメントの実現には大企業が必要であるということ。  |
| 18    | エリアマネジメントの存在意義   |
| 19    | エリアマネジメントの存在意義は、エリアの関係者をつなぎ方向性を共有し課題解決を図る活動  |
| 20    | エリアマネジメントの存在意義や公共空間の役割について   |
| 21    | エリアマネジメント協会の活動内容   |
| 22    | エリマネの存在意義  |
| 23    | エリマネは官民連携して行うもの  |
| 24    | エリマネ活動の今後の仮説   |
| 25    | カミハチキテル  |
| 26    | カミハチキテル、歩車道に居場所を作ったこと、SDGs   |
| 27    | カミハチキテル・・・名称は大事  |
| 28    | コロナ禍により、公共空間のポテンシャルが高まっていること   |
| 29    | コロナ下での公共空間を活用した取り組み  |
| 30    | コロナ禍での取組   |
| 31    | コロナ禍でも関係者のつながりが大切  |
| 32    | コロナ禍で遠くなったことと近くなったことがある  |
| 33    | しっかりした収益源がないと、事業継続が厳しいと感じた。会費や協賛会だけでは・・・   |
| 34    | それぞれの地域の事例   |
| 35    | なくてよい、申し訳ありませんが、何の役にも立たないです。   |
| 36    | ビジョン、何を引き継ぎ、なにを捨てるか。ツールをつくる  |
| 37    | プレスメイキングによるイノベーションの誘発  |
| 38    | ほぼすべての項目   |



|    |   |
|----|---|
| 39 | まちづくり団体に企業が参加することで継続できる                                     |
| 40 | まちなかウォークアブル推進事業   |
| 41 | マチミチ全国会議  |
| 42 | 屋外と日常   |
| 43 | 屋外空間の活用に社会的なコンセンサス  |
| 44 | 何を作るか より 誰と作るか  |
| 45 | 智さんのご苦労話。   |
| 46 | 企業・大学も加えたプラットフォームの構築  |
| 47 | 第2丁目 実業に結びつく仕様のワークショップ                                      |
| 48 | 第2丁目協議会の「関わった人だからこそ継続していく」といった話                             |
| 49 | 経済価値向上を支える中間支援組織としてエリマネの重要性が高まった                            |
| 50 | 公共空間の役割は拡大  |
| 51 | 行政計画との違い  |
| 52 | 今後エリマネの役割はむしろ大きくなっていく                                       |
| 53 | 今後のエリアマネジメントの取組み「公共空間の利活用」のお話が興味深かったです。                     |
| 54 | 市民の合意作りの工夫（地元の主とプロ集団の連携）等                                   |
| 55 | 資本主義の非物質化、日常的な公共空間活用  |
| 56 | 実証実験  |
| 57 | 社会関係資本  |
| 58 | 社会実験のビジネス化  |
| 59 | 社会実験の積み重ねが実現につながる   |
| 60 | 取組の共有   |
| 61 | 住民の巻き込み   |
| 62 | 前橋アーバンデザイン 100年目標   |
| 63 | 前橋市の寄付金にて事業ができる点  |
| 64 | 全て  |
| 65 | 日常的な公共空間の活用推進   |
| 66 | 日常的な公共空間活用  |
| 67 | 発表された地域の企業の、参画意欲と開発意欲                                       |
| 68 | 密ではないことを良さとして   |
| 69 | 民間活力は、参加者が担い手となってくれる  |
| 70 | 民間資金を活用した社会実験（広告とのバランス）民間会社は思っていた以上に公共空間活用に協力的（無償のファニチャーなど） |
| 71 | コロナ危機の状況下でのエリアマネジメントの重要性                                    |
| 72 | 公共空間の活用の仕組み、エリアマネジメントの存在意義                                  |

04 基盤講演について、印象に残ったお話やキーワード

| その他内容 |  |
|-------|--|
| 1     | 「ビジョン→アクション」vs「アクション→ビジョン」どちらが先か？  |
| 2     | 「都市計画・まちづくりを捉える枠組み」について  |
| 3     | ・地区スケールで実験的取り組みを行い変えていく<br>・その場で起きている状況の中で様々な実験を繰り返し規制を変える<br>・SDGsなど持続的な枠組みがエリマネの役に立っているのか？               |
| 4     | ○都市を取り巻く状況の変化<br>○都市のレジリエンス<br>○まちづくりの大きな目標<br>○パリ「15分都市」 コロナ禍での逆戻りにならないかとの危機<br>○「ビジョン→アクション」「アクション→ビジョン」 |
| 5     | 2軸による計画・ビジョン等の位置づけの整理  |
| 6     | 3密回避イコール東京一極集中が悪いというわけでは必ずしもないこと   |
| 7     | 4つの密度  |
| 8     | Andrew Karvonen の様々な体験をベースに規制・誘導・事業につなげていく話は印象的でした。  |
| 9     | CSR, CSV   |
| 10    | Eco Districts, 都市のレジリエンス, 15分都市, 様々な実験から都市を考えること   |
| 11    | SDGs   |
| 12    | アクションを基礎としたまちづくり構想   |
| 13    | アフターコロナのまちづくり  |
| 14    | アメリカ等の海外の事例  |
| 15    | ウッドテラスの使用  |
| 16    | エコディストリクト, 従来の都市計画からのシフト   |
| 17    | エリマネジメントの共有ビジョンの在り方<br>海外事例（ウィーン 現地で見えたのでより良く理解できた）  |
| 18    | エリマネ活動と行政の計画をつなぐ   |
| 19    | カミハチキテルの資料提供   |
| 20    | これからの都市計画においてポイントに置くべき密度論など  |
| 21    | サードプレイスの必要性やコロナ禍での新しいまちづくりの提案など  |
| 22    | タクティカルアーバンイズムと従来の都市計画をつなぐ仕組みの必要性   |
| 23    | パークレット   |
| 24    | パークレット, エリマネの運営主体  |
| 25    | パリ15分都市などの事例   |
| 26    | パリの15分都市   |
| 27    | パリ市長が打ち出した「15分都市」(2020)  |
| 28    | プレイスベースドプランニング   |
| 29    | プレイスメイキングから行う都市計画  |
| 30    | ポストコロナのビジュアルイメージ, 行政計画とのゆるい関係, プランニングの概念,  |
| 31    | ポストコロナのまちづくりの考え方, 国土構造を変えることではない,  |
| 32    | マクロでは都市そのものは今後も重要  |
| 33    | マスタープラン, エリマネジメント, タクティカルアーバンイズム, プレイスメイキングの関係性やあり方  |
| 34    | マスタープランとプレイスメイキングを統合していく2軸の図の話が印象的でした  |
| 35    | ミクロナ密  |
| 36    | ミクロナの密度  |
| 37    | レジリエンス, レジリエント   |
| 38    | レジリエンス   |
| 39    | ローカルとグローバル   |
| 40    | 海外事例   |
| 41    | 田なかの「ツボ」を押して街を活性化させる   |

|    |  |
|----|--|
| 42 | 各自自治体により、取り組み方のベクトルが異なる。事業者⇒行政、行政⇒事業者  |
| 43 | 確実性と不確実性   |
| 44 | 確実性の都市計画の必要性 不確実性のプレイメイキング つなぐタクティカルアーバンイズム  |
| 45 | 官民連携・多様なプラットフォームを4象限で位置づけられ、既存の都市計画の限界を明確に指摘されていた。官の既存アプローチを見直してほしい。               |
| 46 | 現行の都市計画とエリアマネジメントの関係性の図示化  |
| 47 | 現代に求められる都市計画について   |
| 48 | 公共空間の再設計   |
| 49 | 行政計画とプレイスメイキングなどの位置づけ  |
| 50 | 最後にされたこれまでの都市計画マスタープランやエリアマネジメントとの関係性に関するお話  |
| 51 | 持続可能   |
| 52 | 社会実験   |
| 53 | 社会実験から都市計画を考える、SDGsとの関係  |
| 54 | 社会実験を踏まえたまちづくり   |
| 55 | 従来の都市計画との乖離、プレイスペースプランニング、タクティカルアーバンイズム  |
| 56 | 従来の都市計画の限界<br>都市計画不要・悲観論<br>確実性の志向と不確実性の受容   |
| 57 | 小さな社会実験の繰り返し、全体計画の作成・変更につながる   |
| 58 | 前編アーバンデザインの「民間と行政のハイブリッド」の方法について。  |
| 59 | 多少の失敗は許される   |
| 60 | 地区スケールの実験的なアプローチ   |
| 61 | 長期未来予測的な行政計画からアクション・行動起点の「小さくプロトタイプで始めて、広がっていく」という都市計画の在り方の変化                      |
| 62 | 都市で感染が拡大するだけでなく、都市の中のマイクロな状況が感染拡大を促してしまうということ。一発集中回廊という結論に行く道筋としては短絡的に過ぎるということ。    |
| 63 | 都市のリジリエンス、都市計画・まちづくりを捉える枠組み  |
| 64 | 都市のレジリエンス  |
| 65 | 都市のレジリエンス 確実性とフォーマルのマトリックス   |
| 66 | 都市の密度と公共空間の設計、マネジメント   |
| 67 | 都市の密度と人の密度はイコールではない。   |
| 68 | 都市への集積の必要性は変わらない。様々な実験から都市計画を変えていく。  |
| 69 | 都市マスは経済成長時代の一般解  |
| 70 | 都市計画、まちづくりの取組みを捉える枠組み  |
| 71 | 都市計画・まちづくりを捉える枠組の図、トレンドとなりつつあるエコディストリクトの概念   |
| 72 | 都市計画・まちづくりを捉える枠組み、15分都市、DIY型パークレット   |
| 73 | 都市計画とエリアマネを近づけようという提案  |
| 74 | 都市計画とプレイスメイキングの関係性など   |
| 75 | 都市計画まちづくりを捉える枠組みの話   |
| 76 | 都市計画よりもまちの活動がまちづくりのメインとなっている   |
| 77 | 都市計画手法の変化について  |
| 78 | 都心に人を集めるのは悪ではないという話  |
| 79 | 突発的ショック・遂行性ストレスに対応できるまちづくり   |
| 80 | 様々な実験から都市計画を寛める、コロナ禍で考えるべき4つの都市の密度   |
| 81 | 令和3年に予算拡充の動向あり   |
| 82 | 論点4で示されたダイアグラム（確実性の軸と公定性の軸）は実によく整理されていると思いました。もっと、お話を伺いたかったです。ぜひパワポPDFを配信いただきたいです。 |
| 83 | 論点を示されたこと  |
| 84 | 行政計画とエリアビジョンはゆるい関係が望ましい  |
| 85 | スウェーデンの実験的な取り組み、パリの「15分都市」   |

05 トークセッションについて、印象に残ったお話やキーワード

| その他内容 |   |
|-------|---|
| 1     | <ul style="list-style-type: none"> <li>・エリマネは、イベント活用ではなく、日常的活用へ</li> <li>・コロナ禍で事業者と繋がりがやすくなった（裾野の広がり）</li> <li>・まちの経営企画室</li> <li>・まちづくりツールの共有（IT、指標、調査等）</li> </ul>  |
| 2     | <ul style="list-style-type: none"> <li>○企業の具体的な提案と地域の抱える本当の課題のマッチング</li> <li>○社会実験等の新たな評価指標。→エリマネの評価指標</li> <li>○R&amp;Dの動向モニタリング。</li> <li>○リモート環境ゆえの人材の確保、つながり</li> <li>○ステークホルダーの取込み 許心なのは体験した話し合い、理解</li> <li>○都市の本来持つ機能</li> </ul> |
| 3     | CSRからCSV  |
| 4     | CSRではなくCSV  |
| 5     | CSV、ストリートのオープンショールーム化   |
| 6     | SDGs  |
| 7     | SDGsとエリマネ   |
| 8     | SDGsを共通言語、評価項目としてステークホルダーの合意形成を図る取組   |
| 9     | visionが先かactionが先か  |
| 10    | アウトプットを意識したワークショップ、企業とまちづくりの方向性の合致  |
| 11    | アフターコロナ   |
| 12    | インタビューに回る   |
| 13    | インタビュー動画  |
| 14    | エリアネビジョンの行政計画との位置づけや関係性等のお話が印象に残りました。もっと聞いてみたかったです。   |
| 15    | エリアネビジョンは、誰とつくるか  |
| 16    | エリアネマネジメントには主導者はいないことがよいのではないか  |
| 17    | エリアネマネジメントの各地の事例  |
| 18    | エリアネマネジメントやこれからのまちづくりにはオープン性が大切だというお話   |
| 19    | カミハチホテルの海外資本活用、社会実験のビジネス化   |
| 20    | カミハチホテルの実例を交えた事例紹介  |
| 21    | カミハチホテルの社会実験のビジネス化の話、行政の関わり方  |
| 22    | カミハチホテルの社会実験の財源等  |
| 23    | カミハチさんの企業との関係性  |
| 24    | グローバルは近くなり、ローカルは遠くなった   |
| 25    | コロナ禍にあって、都心にぎわいをもたらすことに対する合意形成の方法、地域住民主体のまちづくりと行政計画とのハイブリットをどのようにつくっていくか、など。  |
| 26    | コロナ下の活動におけるコミュニケーション（会いにくいなかで、地域の人とどう意思疎通を図るか）  |
| 27    | コロナ禍でのエリマネ実践の工夫と成果  |
| 28    | コロナ禍で前橋市を地元とする優秀な人材が見直し出したという話  |

|    |   |
|----|---|
| 29 | コロナ禍におけるローカルとグローバル、職住バランス<br>ステークホルダーの符号がエリアマネジメント  |
| 30 | コロナ禍のワークショップのやり方  |
| 31 | ツールの作成や会費等で運営していること コー  |
| 32 | ノウハウの外販   |
| 33 | バーチャル前編について   |
| 34 | プラットフォームのあり方  |
| 35 | プラットフォーム組織の運営や維持について、それぞれの立ち位置があり、様々な取組を知ることができた。   |
| 36 | まちづくりツールの共有   |
| 37 | まちづくりツールを開発して共有   |
| 38 | まちづくりのツール化  |
| 39 | まちづくりのノウハウをお金に還元  |
| 40 | まちづくりの生産性を上げるツール  |
| 41 | まちづくりビジョン。ただ、合意形成が重要であるため、まちづくりメンバーが増えるにしたがって、ビジョンも変化していきそう。その調整過程で、積み上げたものが壊れてしまう可能性もあると感じた。   |
| 42 | まちのマスタープランを住民中心に作り上げ、行政側もそれを受け入れたこと。  |
| 43 | まちのマネジメントを担う  |
| 44 | まちの特性を活かす   |
| 45 | やはりいろいろご苦労が多いという印象である。  |
| 46 | 各団体の資金調達、人材確保について   |
| 47 | 各登壇者の主体的な意識   |
| 48 | 各都市で様々な形の進め方があるを知ったこと、カミハチキテルさんの「社会実験をビジネスとして回す」、鶴二丁目さんの「オープンな場でやり取りをするメンバーと番長にプロジェクトを進めていくメンバーの組み合わせ」、前橋市さんの「MOCは街の経営企画室の機能」その他、多くありました。 |
| 49 | 各都市の取り組み  |
| 50 | 確実性のある一般解、多様性のある特殊解   |
| 51 | 官と民、グローバルとローカル、メンバー構成。  |
| 52 | 官民連携の機運向上   |
| 53 | 官民連携の必要性  |
| 54 | 官民連携組織の在り方<br>社会実験の評価の仕方  |
| 55 | 鶴二丁目エリマネ  |
| 56 | 鶴二丁目の女性のコメントが明確で核心を突いていた。是非、コメント録が欲しい。  |
| 57 | 広島市が1人あたり1～2時間かけて、住民のクレームに対応しながらも、カミハチキテルの取組を推進していること。  |
| 58 | 行政とエリマネ会社の関係性、エリマネ会社のビジネスモデル  |
| 59 | 行政の計画と地域の熱意とは必ずしも一致しない。地域の熱意を様々なツールで発信していき、行政の計画にフィードバックすることもよい。  |
| 60 | 行政の立ち位置。  |
| 61 | 行政計画とエリアプラットフォームが描くビジョンの違い  |
| 62 | 行政計画とエリアマネジメントの関わりについて  |
| 63 | 行政計画とエリマネビジョンの根本的違い   |
| 64 | 行政計画との整合  |
| 65 | 行政計画と民間エリアマネジメント計画とのズレ・相違   |

|    |   |
|----|---|
| 66 | 行政計画と民間計画の考え方（整合の必要はない、意思統一は必要）。<br>社会実験の資金調達（社会実験ネーミングライツ）、ステークホルダーとの膝詰めが重要。   |
| 67 | 行政計画にぶら下がっていない計画、構想とアクションが同時に展開していた   |
| 68 | 資金調達  |
| 69 | 事業創造 前橋のスタンス 地域特性での相違   |
| 70 | 質問に対する回答がもう少し欲しかったです。   |
| 71 | 実証実験を繰り返す   |
| 72 | 社会実験そのものをビジネスにつなげる  |
| 73 | 社会実験のビジネス化  |
| 74 | 社会実験のビジネス化、ストリートのオープンテラス化   |
| 75 | 社会実験のビジネス化、まちづくりツールの共有化   |
| 76 | 社会実験のビジネス化、誰を巻き込んでやるか、最後は膝詰め、   |
| 77 | 前橋からの発表、商人の都市の伝統を掘り起こそうとしている点   |
| 78 | 前橋の、行政と市民が共通理念を持って計画を柔軟に進めていく話、<br>隣の、地域の具体的課題と結び付けて取り組む話。<br>カミハチの、インタビューを数珠つなぎしたり相手に合わせて資料を変えている話、  |
| 79 | 前橋の組織が密閉により運営されている点   |
| 80 | 前橋市、アーバンデザインと財界のコンセプトペーパーの一体作成  |
| 81 | 前橋市のアーバンデザインが市の計画にぶら下がっていないこと   |
| 82 | 前橋市のエリマネの考え方に興味を持ちました。<br>ただ、3団体を招いてのトークは、時間が短すぎたかと思います。<br>考え方の違う2団体にして、考え方などをもう少し深堀りして欲しかったです。  |
| 83 | 体制特許のための費用・人材   |
| 84 | 地域ごとの特徴の違い  |
| 85 | 町場インタビューの上書き作成  |
| 86 | 長期ビジョンを定め、地域を巻き込み進めることの有用性  |
| 87 | 都市計画の限界   |
| 88 | 膝詰めによる住民との話し合い  |
| 89 | 評価を動機に据っていく、社会実験のネーミングライツ   |
| 90 | 評価指標、人との繋がりが  |
| 91 | 民間の巻き込み方  |
| 92 | 民間企業などとの協力のプロセス   |
| 93 | 民間計画と行政計画の柔軟な関係   |
| 94 | 名古屋）何を作るかも重要だが、誰と作るか？作った人が活動の担い手となる。<br>広島）社会実験を実施したことで仲間が増えた市の方の、地元の人が熱意をもって作ってくれるのであれば、それを大事にしたい、下支えをしたい、という思い。<br>前橋）ビジョンは、行政が責任をもって作っているが、行政計画にぶら下がっていない。 |
| 95 | 様々な社会実験を開けた   |
| 96 | 社会実験を実施し、トライ&エラーを繰り返すことにより、より良い形に変えていく。   |
| 97 | 錦二丁目（名古屋市）、カミハチキテル（広島市）、前橋市の各具体的な取組を聞くことができて参考となった。   |
| 98 | DAY型パークレット、オープンショールーム化（広島市）<br>何を作るかだけでなく、だれと作るかが大事（名古屋市）   |

06-2 「よく得られた」「得られた」理由

| その他内容 |  |
|-------|--|
| 1     | ・まちづくりに関してヒントを得ることができ、知見を深めることができた   |
| 2     | ・地域ごとの事情に応じた様々な形があると知ったこと。<br>・多様な人や企業を巻き込み、コミュニケーションをきちんと行って進めることの重要性。  |
| 3     | CSVなどパブリックスペースの運営を回していくための工夫を知ることができた  |
| 4     | アプローチの仕方、道筋がなんとなく見えてきた感じがしました。   |
| 5     | イメージしていた以上の広がり、可能性を感じた   |
| 6     | ウォークアブルシティについて知見を深めることができた。また、3つの実践から当地域の活動において参考になる点があった。   |
| 7     | うまくいかなかった例も挙げてくれていたので参考になった  |
| 8     | エリアプラットフォーム活動での民間と行政の関わり方  |
| 9     | エリアプラットフォーム構築における課題、ビジョンの共有の仕方など、これからのエリアプラットフォーム構築に向けた手法を得られた。  |
| 10    | エリアマネジメント  |
| 11    | エリアマネジメントのために様々なアプローチの仕方があり、CSRやVSPや行政からの補助金以外で活動が成り立つことが素晴らしいと思った。  |
| 12    | エリアマネジメントの多様な取り組みが自治体ごとに特徴があり、官民連携に結果が導くことが分かった  |
| 13    | エリアマネジメントの中での官民の役割と連携の大切さについて  |
| 14    | エリアマネジメントは、地域ごとに違うし、また、参加主体毎にやり方も異なる。地域地域、メンバーに応じたエリアマネジメントの在り方があると思ったが、そのためにはまず「ビジョンを合意形成すること」が重要だと思われた。ただし、時間の経過とともに変わっていくので、どのタイミングでどのように見直すかなどの仕組みも考えておく必要があると思った。 |
| 15    | エリアマネジメントは「民」だけではなく、「官」の積極的な介入が必要であるという点、公共スペースの利用や規模の拡大という点では、「官」の力がなければ進めていけないので、一層の連携が必要と理解。  |
| 16    | エリアの財源の考え方 もう少し詳しく聞きたい   |
| 17    | エリアマネの考え方や組織のあり方   |
| 18    | エリアマネの資金源として企業からの出資や個人からの寄付などはあまり想定していなかったもので、実現可能かどうかはわからないもののためになった。   |
| 19    | エリアマネの収入源  |
| 20    | エリアマネをこれから立ち上げる上での流れを把握できた   |
| 21    | エリアマネ組織の収益確保の手段例   |
| 22    | エリアマネ組織の人材の構成や行政内部での合意形成などの事例を知ることができた。  |
| 23    | カミハチキテルで3つのエリアそれぞれをうまく使った取り組みを考えていると思いました。   |
| 24    | これからのまちづくりの参考となった。   |
| 25    | コロナ以降のヒント得られるとともに、方向性を考えさせられた  |
| 26    | コロナ禍での情報交換の仕方等   |
| 27    | コロナ禍での地域の方から活動の理解を得る難しさについての共通認識。  |
| 28    | コロナ対応などの事例が得られました。   |
| 29    | ご苦労されていることや個別の工夫について知ることができた   |
| 30    | スキーム   |
| 31    | たくさんの人を巻き込んでいくことが取り組みの成功につながる。   |
| 32    | タクティカルアーバニズムの考え方に触れられた。SDGsとまちづくりの関係性について、整理した考えに触れられた。  |
| 33    | なんとなくではあるが、これまで良く分かっていなかった官民連携まちづくりへのイメージが掴めたように思う。  |
| 34    | ビジネスモデルに興味があったので、各社答えてくれてよかった  |
| 35    | まさにビジョン検討中のため、行政計画との関係性が参考となった。また、ビジョンは共有しながらも現場合せて進めていく手法が今後の不確実な時代に合っていると再認識した。  |
| 36    | まちづくりにおける民間との連携にはビジネス化がカギ  |
| 37    | まちづくりの活動を拡大する上で、どのように関係者を巻き込んでいくのかや何ができるのかを感じるすることができた。  |
| 38    | まちづくりプラットフォームと経営持続   |
| 39    | まちづくりプランナーとして、多様な地域課題解決に携わるべきであること   |
| 40    | まちづくりを目指す仲間が全国にいるということ   |
| 41    | まちづくり構想を定期的に更新する   |
| 42    | マネジメント   |
| 43    | ワークショップが開催できない中での、動画撮影での意見共有   |

|    |  |
|----|--|
| 44 | ワークショップでは具体的な成果につながる意識をされている。カミハチキテルの取組全般、インタビュー動画の話。前回のノウハウを外に売って外部からお金を稼ぐ話。ヒントが得られた。 |
| 45 | 以下に民間やまちの人が主体的に動くことが重要であること  |
| 46 | 意欲のある民を、官が下支えをすること   |
| 47 | 会社人間と同時に町内会役員の為 全てが参考になりました。   |
| 48 | 各エリアマネジメントの活動実績  |
| 49 | 各エリアマネジメント団体の取り組みを聞くことができ、参考になった。  |
| 50 | 各市町の取り組み内容   |
| 51 | 各団体の資金調達、人材確保について  |
| 52 | 各団体の真摯な取り組み  |
| 53 | 各地で「試行錯誤」してチャレンジしているということが実感できたこと、自分も頑張ろうと思いました。                                       |
| 54 | 各地のエリマネが熱心に、いろいろ工夫し、精進うまくやっているらしいこと。   |
| 55 | 各地域の方の動きがわかったこと。実例を踏まえられて説明していただいたのでより実感がわいた。  |
| 56 | 各地区とも共通して、官民ともに意識が高く、先を見据えた活動が参考になった   |
| 57 | 各地区の課題や共通の課題、活動を行うための考え方等  |
| 58 | 活動内容充実に応じての組織化の組み替えについてのヒントがあった  |
| 59 | 官と民、グローバルとローカル。メンバー構成、組織運営   |
| 60 | 官と民、それぞれプロジェクトへの関わり方、関われ方  |
| 61 | 官と民の関わり方、考え方のイメージができてきた。   |
| 62 | 官と民の連携のあり方   |
| 63 | 官側の検討の平仮いをしてしているが、民側の取り組みがわかり参考となった。   |
| 64 | 官民がうまく動いている事例では、多少なりとも行政からの公的投資と民間によるリーダーシップが働いていると感じた                                 |
| 65 | 官民だからこそのよさ   |
| 66 | 官民ビジョンの策定に向けた知見が得られた   |
| 67 | 官民連携がいかに大事か、特に官の役割。「介入して変える」ことはNO。   |
| 68 | 官民連携による街づくりと、それを支える行政との関係が行政主導型から変わりつつあることの認識。   |
| 69 | 官民連携の工夫  |
| 70 | 官民連携の実際と工夫   |
| 71 | 官民連携の重要性   |
| 72 | 官民連携の方法の多様さ、地域性  |
| 73 | 官民連携を進める際のスケール感によるメリットとデメリットや、行政と民間のデマケ  |
| 74 | 企業と街づくりの共通言語としてSDGsが機能している   |
| 75 | 基本的な考え方を知ることができました   |
| 76 | 共有ビジョン（どんなビジョンを描くか）、どうやって、誰とつくるか<br>その先の活動も含め、仲間づくりの重要性を改めて感じた                         |
| 77 | 錦二丁目エアプラットホームさんのように地域から担い手、会社と動いていった流れが参考になりました。                                       |
| 78 | 錦二丁目の取り組みは、当地区で今後進めていくエアプラットホームづくりの参考になりました。   |
| 79 | 錦二丁目の取組、SDGsを取り込み、企業に参加していただく巻き込み方と地域を良くするサービスの提供。カミハチキテルの社会実験のビジネス化、MOCの寄附金で薪う仕組みづくり。 |
| 80 | 具体イメージがわいた   |
| 81 | 具体的な取り組み事例   |
| 82 | 具体的な取組が聞けた事  |
| 83 | 具体的な組織の立ち上げ方や組織ができあがってきた背景   |
| 84 | 空地の暫定利用のアイデアについて事例を知ることができた。   |
| 85 | 公共と民間との役割分担など  |
| 86 | 広島市カミハチキテルにおける社会実験の実施からエリアの在り方への展開の仕方、勉強会からオフィシャルな立ち位置へステークホルダーを巻き込み議論を洗練させるやり方。       |
| 87 | 広島市の事例でコロナ禍で取り組みを行う上で、市民の理解を得るために話し合うことの大切さを改めて学ぶことができたから                              |
| 88 | 行政・地域との合意形成、不確実性の高い現代における社会実験から具現化していく点  |
| 89 | 行政が民間をよく理解して、支える側になったということがよく分かった。   |
| 90 | 行政サイド・まちづくりサイド両者からの視点・意見、With/afterコロナでのまちづくりについて                                      |
| 91 | 行政としての、エリマネとの関わり方など  |



|     |  |
|-----|--|
| 92  | 行政と民間がタッグを組んで進めていくことの重要性を改めて感じた。各エリマネごとに両者並んでプレゼン&トークしている姿が、うまく進んでいることを端的に表しているのだと思う。                            |
| 93  | 行政と民間の協働のバランスが見えたこと、事例など   |
| 94  | 行政のかかわり  |
| 95  | 行政の支援の仕方   |
| 96  | 行政の立場からすると、中長期的計画とエリマネのビジョンの位置づけがとても曖昧で調整に苦慮していたが、登壇された各主体の皆さんの発言を聞き、色々なアプローチがあってよく、行政としての地域との寄り添い方が重要であると学べたため。 |
| 97  | 行政計画とエリマネの調整について   |
| 98  | 行政計画との違い。取組みを軌道に乗せるプロセス。   |
| 99  | 行政計画との整合や、まちづくりの進め方  |
| 100 | 行政計画とビジョンの整合性を図る際、やり方によっては民間のモチベーションをそぐ可能性がより注意が必要であるということ   |
| 101 | 行政計画と民間事業者の意向とのすり合わせ方  |
| 102 | 行政主導でも民間主導でもなく、同時多発的なハイブリッドでのまちづくりの実践について。   |
| 103 | 合意形成のためのまちづくりビジョン、評価基準の有効性   |
| 104 | 国の取組、各エリアでの行政の関わり方   |
| 105 | 国交省の制度紹介   |
| 106 | 国交省の都市政策に関する考え方  |
| 107 | 今回は3つのエリマネの取組みについて、事例を学ぶことができ、実際に自分の自治体に置き換えた際に、何ができるのか。何が足りないのかを実感することができました。                                   |
| 108 | 今回紹介いただいた各プロジェクトに共通する課題は、あらゆるまちづくりの課題でもあると感じました。   |
| 109 | 今後の官民連携の在り方のヒントを得られた。  |
| 110 | 再開発事業が動機となっているものが多いのが印象的だった。   |
| 111 | 参考とすべき事例が分かった。これからの都市づくりの大きな潮流を認識できた   |
| 112 | 参考となる先進事例、それらの事例が抱える課題（特にwith コロナ、after コロナについて）と対策  |
| 113 | 資金の確保手法  |
| 114 | 資金確保の手法など  |
| 115 | 資金調達の方法について、それぞれ異なった方法で参考になった。   |
| 116 | 資金調達の方法など勉強になりました。   |
| 117 | 事務局運営の課題点  |
| 118 | 事例がためになった  |
| 119 | 事例が参考になりました。   |
| 120 | 持続可能にするための工夫   |
| 121 | 持続的な取組みに対する人材の確保   |
| 122 | 自分の所属団体でエリマネマネジメントにどのように対応していくかというヒントが得られた   |
| 123 | 実践的な取組から取組を活性化させたこと  |
| 124 | 実際に取り組んでいる方の苦労やその成果の生の声が聞けたこと。   |
| 125 | 実際の取組み   |
| 126 | 実際の取組事例や運営上の悩みなど、エリマネマネジメントを進める上でのヒントを得られた   |
| 127 | 実践されている方々の現場での工夫   |
| 128 | 社会実験から実践に向けた取組み方   |
| 129 | 社会実験とその評価、活動のための人材確保   |
| 130 | 社会実験と収益との組み合わせ   |

|     |  |
|-----|--|
| 131 | 社会実験の繰り返しから計画を考えるとといったことに興味をもった。                                   |
| 132 | 社会実験の重要性   |
| 133 | 取り組み姿勢など   |
| 134 | 収益確保、資金調達方法  |
| 135 | 周辺関係者との合意形成の進め方に関するヒント   |
| 136 | 従前のまちづくり活動の重要性   |
| 137 | 従来の都市計画の実現プロセスにあまりとらわれないやり方もあり                                     |
| 138 | 場所による多様性   |
| 139 | 進め方と現状(コロナの中で)   |
| 140 | 人づくりが大事ということがわかった、誰とやるかが大事ということがわかった                               |
| 141 | 世界観が広がりました   |
| 142 | 組織の運営について(より詳しい、特化した講演があると嬉しい)                                     |
| 143 | 組織組成の経緯や具体的なP/Fの活動内容のバリエーションが観覧できました                               |
| 144 | 組織体制や協議会設立の経緯等についてそれぞれのエリアごとに知ることができた。また資金調達や回収についての話もあって参考になった。   |
| 145 | 他市の取組事例が勉強になったことと、事業についてもう少し詳しく聞きたいと思えたから。                         |
| 146 | 他団体の行政との関わり方   |
| 147 | 他都市の事例を知る事で自分達の活動を見つめなおす良い機会となりました。                                |
| 148 | 多岐にわたる手法を知ることができた  |
| 149 | 誰かが引っ張るのではなく、みんなで話し合うことが大切   |
| 150 | 単発の蓄積を前提とした社会実験、実証実験の重要性   |
| 151 | 地域のステークホルダー、民間企業の巻き込み方や自立的な組織づくり                                   |
| 152 | 地域の企業を巻き込む重要性とそのための企業のビジネス上のメリットになる仕組みづくり                          |
| 153 | 地域の持つ事情が、エリマネの構築に変化をもたらすこと。  |
| 154 | 地域の実情に合わせた相違工夫   |
| 155 | 地域はそれぞれに特徴があり統一的には扱うことができない。                                       |
| 156 | 地域再生・活性化に対する目の付け所がわかった   |
| 157 | 地域毎での取り組みが画一的でないことの気づき   |
| 158 | 地区スケールでもまずはやってみないと始まらないという事例を紹介頂いた                                 |
| 159 | 地元の熱意ある若手を複数名育成していく必要がある   |
| 160 | 地元団体の参画の重要性  |
| 161 | 都市規模なども含め背景が異なる3か所それぞれの組織形態と運営方法であったこと。(資金を何で得ているのかななども含め)         |
| 162 | 都市規模に応じた個々の実情が分かった   |
| 163 | 臨の中での整理ができた  |
| 164 | 同じ問題を抱えている団体が多くあることがわかり、励みになりました。                                  |
| 165 | 必ずしも官のマスタープランと整合性を図る必要がないこと。会費のみでのエリマネが運営できること。                    |
| 166 | 変化やイノベーション創出に柔軟に対応できるビジョンの位置づけとスピード感を持ってアクションを起こす仕組みと推進体制の重要性がわかった |
| 167 | 民間と行政の間に立つ方々の生の声を知ることができた。   |
| 168 | 民間によるエリアマネジメント、活動の取り組み   |
| 169 | 民間の活動を行政の計画へ組み込む   |
| 170 | 民間連携の仕方。巻き込み方。   |
| 171 | 様々な団体や機関等との連携、取り組みが聞けて参考になりました。                                    |
| 172 | 官民連携のまちづくりには、民間まちづくりの担い手となるプレイヤーの発掘が重要なことを認識した。                    |
| 173 | 民間(企業、区民)とのゆるい連携など、柔軟で早い決定が可能な民間活力を活かしていくことが大事だと感じた。               |
| 174 | 民間の駐車場を借りてパークレットを設置し、イベントを開催したり民間企業もプラスになるような巻き込み方など。大変参考になりました。   |

例-3 「全く得られなかった」「あまり得られなかった」理由

| その他内容 |   |
|-------|---|
| 1     | エリアプラットフォームの立ち上げ時の自治体のかかわり状況などを聞きたかったです。  |
| 2     | エリアマネ主体組織の立上げや運営、人材確保についてもう少し深掘りして欲しかった。また地域再生エリアマネジメント負担金制度の活用事例等を紹介して頂きたかった。          |
| 3     | スタートアップするときの体制（行政・民間）について知りたい   |
| 4     | もっと具体的な事例の詳細について知りたかった。全体的に良く知っている人だけが分かるような内容構成であった。                                   |
| 5     | 一般論の話が多く、最も大事で本質的な「カネ、ヒト、モノ」の話が少なかった。   |
| 6     | 時間が足りなく、深掘りが無いように感じた。   |
| 7     | 失敗例とその原因、対応策  |
| 8     | 取り組みのアウトラインなどに関して、知識をえることはできました。ただ、アウトラインで「実務」に役立つかどうかは不明なので、そのように回答いたしました。             |
| 9     | 小さなエリアの参考になるヒントが欲しかった   |
| 10    | 当自治体（地方で人口4万人）において、エリアマネジメント組織として収益を確保しながら自定する仕組みが、今回の発表事例都市（大都市圏）から結びつける術を見出すことができなかった |
| 11    | 分譲住宅のまちなみづくりのヒントにしたかったので  |

今後扱ってほしいテーマや内容については、以下内容などが挙げられている。

- エリマネ関係 (22 件)
- 取組事例 (20 件)
- 地方 (7 件)
- コロナ関係 (5 件)
- データ活用、スマートシティ (5 件)
- 社会実験 (2 件)
- その他：経済産業省の「タウンマネジメント」との関わりや、国交省内、警察庁（警視庁）など他部署との調整状況等

05 今後扱ってほしいテーマや内容、要望

| その他内容 |   |
|-------|---|
| 1     | ・本日のテーマと同じ内容を半年後等、今と状況が変わっているであろう時期（夏と冬、新しい日常の浸透、新しい日常の提供等による変化等）に再度取り扱ってほしい。 |
| 2     | 1年後のコロナの状況を踏まえた都市のあり方   |
| 3     | 3 地域以外の団体の取組み事例   |
| 4     | ICTを使った街づくり   |
| 5     | P-PFI 都市公園法の設置管理許可について  |
| 6     | SDG's に関する取組  |
| 7     | SNS等による若者のまちづくりへの参加   |
| 8     | アフターコロナを見据えた交通計画  |
| 9     | いけるプロジェクトはデザインリテラシーが高いように思われるが、そのあたりのこだわりや工夫、デザインプロセス等                        |
| 10    | イベント開催以外の道路占用の有効活用の事例   |
| 11    | ウィズコロナでの空間活用  |
| 12    | エリアプラットフォームのあり方、運営方法など  |
| 13    | エリアマネジメントの実態について  |
| 14    | エリアマネジメント組織の収益性確保   |
| 15    | エリマネ、PRE  |
| 16    | エリマネのキーパーソンの発掘について  |
| 17    | エリマネ組織の立ち上げについてのお話が聞きたいです   |
| 18    | エリマネ組織の立ち上げ方や組成の方法など  |
| 19    | オガールプロジェクトを題材にした官民連携プロジェクトの進め方の勉強会  |
| 20    | スマートシティ、society5.0との連携について  |
| 21    | スマートシティとエリマネマネジメント、データ連携型のエリアマネジメント、SDGsとエリマネマネジメント、ビジネス創造とエリマネマネジメント         |
| 22    | データの利活用のあり方について   |
| 23    | どんな事例でも参考になります。   |
| 24    | パークマネジメントとエリマネマネジメント、PFI/PPP  |
| 25    | プレイスメイキング   |
| 26    | プレイヤーの探し方、エリマネの立ち上げ方、発展のさせ方   |
| 27    | まちづくり企業がどうやって収益を上げているかについて。特異で。   |
| 28    | まちなかのコミュニティ作り、コミュニティデザイン  |
| 29    | まもの担い手探し、組織づくり、継続運営の秘訣について  |
| 30    | リノベーションまちづくりについて  |
| 31    | 屋外の活用方法、単発のイベントではない日常化の取り組み   |
| 32    | 各地域が何をやっているかだけでなく、組織立上げプロセス、ビジョン共有のプロセス、地域の巻き込み方、収益事業など、もっと具体的なテーマだと学びが多いと思う。 |
| 33    | 官と民の意見が異なるビジョンがあるとき、推進できない街について、シニアについてどのように対応しての関わり。                         |
| 34    | 官民が融合するきっかけ   |
| 35    | 官民連携のまちづくりでのエリマネの在り方と全国的な推進（エリマネは良い官民連携まちづくりの考え方だが、小さな都市での発展の仕方は・・・）          |
| 36    | 官民連携の住民の役割について聞きたい  |
| 37    | 官民連携プラットフォームの作り方の工夫   |
| 38    | 企業のイノベーションの場づくり   |
| 39    | 協議会やエリアプラットフォームを活性化しながら継続しているケースを知りたいです。                                      |
| 40    | 協力者の獲得の方法・プロセス、望ましいマネタイズの在り方  |
| 41    | 金融、観光、エネルギー等のあらゆる観点からのスマートシティ構想   |

|    |   |
|----|---|
| 42 | 具体的な制度メニュー、官民連携まちづくりの具体的な事例（収益まで含めた）  |
| 43 | 経産省の「タウンマネジメント」との関わり  |
| 44 | 現場の管轄の声   |
| 45 | 公共空間の有効利用の事例を収支を含めて発表していただきたい。  |
| 46 | 公共財産の利活用  |
| 47 | 国交省道路局、警察庁（警視庁）など他の部署との調整状況   |
| 48 | 国内外の行政と民間の連携の実際について、新しい事例をどんどん探り上げて頂きたいです。  |
| 49 | 今は浮かびません。   |
| 50 | 使用しているツールがあればツールの紹介   |
| 51 | 私の関係する自治体は、人口2万人程度の都市です。今回紹介された都市は、私からすると大都市と感じる規模でしたので、次回の開催では人口数万人規模の都市の事例などを取り上げていただくとありがたいです。         |
| 52 | 事例紹介  |
| 53 | 実践事例「産業とまちづくりの連携」   |
| 54 | 社会実験の正しい考え方や進め方などについて   |
| 55 | 社会実験実施の具体的な経験談  |
| 56 | 小規模自治体でのエリマネの成功事例などがあれば取り上げていただきたいです。   |
| 57 | 小林重敏先生が、最後に話しておられた三点、展開を期待しています。  |
| 58 | 人口10万人～30万人程度の地方都市におけるエリマネ事例  |
| 59 | 人材発掘、育成   |
| 60 | 成功した取組みと失敗した取組み、その分析  |
| 61 | 先進事例や失敗事例   |
| 62 | 組織の立ち上げから、継続的な運営について  |
| 63 | 組織の立ち上げ方、立ち上げ時のポイント、苦勞したところを聞いてみたい。   |
| 64 | 他都市のエリマネ団体の紹介   |
| 65 | 大きな都市ではなく、人口10万人以下あるいは1万人以下など都市の規模に応じた官民連携の実践について伺いたいです。  |
| 66 | 大都市の周辺に位置する都市のコンパクト化  |
| 67 | 地域の方々に負担していただく（特に金銭的なもの）時の工夫点   |
| 68 | 地域活性化に向けたスマートシティ化に向けた取組。引き続きエリマネ  |
| 69 | 地方の小都市を扱って欲しい。  |
| 70 | 地方の中規模都市の具体的取組み   |
| 71 | 地方小都市における前th/afterコロナのまちづくり   |
| 72 | 地方中核都市に隣接する基幹産業の無い（弱い）都市でのまちづくり   |
| 73 | 地方都市のエリマネの事例を多く取り上げて頂きたい。   |
| 74 | 田舎での官民連携  |
| 75 | 都市とDX   |
| 76 | 都市間の取組効果の比較がわかるように、エリマネのいくつかの統一的な評価ツールが欲しいので、評価に関するテーマがあると良い  |
| 77 | 都市再生法人の事例について。都市再生法人でできること、他の一般社団法人ではできないこと。  |
| 78 | 都心、県庁所在地以外でポテンシャルが不足している自治体の取組み方  |
| 79 | 日本における15分都市の可能性   |
| 80 | 勉強を始めたばかりなので、今のところ特にはありません。   |
| 81 | 歩きが楽しい街づくりにおける、歩行者困難者への必要支援。  |
| 82 | 補助金について   |
| 83 | 官民連携まちづくりの先進都市において、どのようなきっかけや過程、庁内又は地域の合意形成を経て現在に至ったのか、その成功事例にみる官民連携まちづくりの進め方をテーマとした内容を取り上げていただくと参考になります。 |
| 84 | 農地の団地建て替え事例（成功例、失敗例等）<br>新しいICT技術を見据えたまちづくり   |

| その性内容 |   |
|-------|---|
| 1     | ・シンポジウムの構成に関して、国土交通省の説明については最初ではなく最後にもってきて、トークセッションの事例を用いてこういうことを下支えできます。あの事例はこれを活用したものです等とした方が、さらなる理解促進や活動の活性化に活かしやすいように思えた。<br>・社会実験の評価。評価軸の在り方については、ぜひ整理をして頂けると、市民（住民）側の理解や支援などにも変化が起きやすくなる可能性があるのではないかと考えた。<br>・村山先生の基調講演で話が整理されたので3事例とも関心を持って聞くことができ、3事例とも興味深かった。3事例が異なっていたからこそその良い企画だったと思います。<br>・村山先生の進行がとても簡潔で分かりやすく本当に聞きやすかった。<br>・みなさま、ありがとうございました。 |
| 2     | 3つの事例について詳しいご説明があって、大変参考になった。   |
| 3     | HPだけではわからない生の声を聞いて大変参考になりました。   |
| 4     | WEB開催は参加可能性が上がってありがたいのでぜひ今後もweb参加枠を設けていただけると助かる。  |
| 5     | アクションをしながら考えていく明快なプロセスが、基調講演、各事例から明確に伝わってくる会議でした。各議のまとめについて、文字でのまとめや、グラフィックレコーディングのようなものがあると、視聴側からすると大変分かりやすくなると思います。   |
| 6     | ありがとうございました   |
| 7     | ありがとうございます。地方都市の事例もあればよかったですと思います。  |
| 8     | いろいろな取り組みが聞けて面白かった  |
| 9     | エリアマネジメントという言葉は華やかであるが、その定義づけが多様なものであるものについて、自分なりの考えを考える余裕になった。   |
| 10    | エリアマネジメントは民間だけでなく、官民連携でやっていくもの（小林先生）は、現場でも正にその通りだと思いました。  |
| 11    | オンラインという事で便利な点とやはりリアルで会える感動には叶わないと思いました。  |
| 12    | オンライン開催はアクセスがしやすく、今後も継続してほしい  |
| 13    | コロナ禍でオンライン開催になりましたが、今後、会場で行えるようになって、全国のみなさんが参加できるように、オンラインの取り組みも行ってほしいと思います。  |
| 14    | コロナ禍ならではのシンポジウムであった   |
| 15    | せっかくweb開催なのであれば、短く複数回の映像コンテンツを期間内に視聴できるようにし、それを踏まえたリアルタイムのトークセッションが良いと感じた   |
| 16    | そもそもの都市計画の方向性が官と広域の民とで一致している地区においてはエリアマネージャーの取組みが整合性持っていると感じた。<br>広域合併の弊害があり「都市計画の目的」が郊外と都心で乖離している都市においては、先ず強力で政策の方向性を定める必要があると感じている。   |
| 17    | それぞれ地域における活動について、Q&Aの時間ももっと欲しかった。   |
| 18    | テーマも内容もとても興味深く充実した時間となりました。ありがとうございます。ただ全体的にもう少し時間をかけてじっくりお話を聞きたい内容でしたので、やや満足とさせていただきます。  |
| 19    | トークセッションがリモートのせいかわかりませんが、今ひとつ盛り上がり欠けた気がした。もう少し討論的な場面が欲しかった。   |
| 20    | トークセッションに参加された各都市の皆様は、時代が変わっていく中で、都市の役割・ビジョンを明確に持たれていると感じました。後に続くことができるよう勇気をいただきました。  |

|    |   |
|----|---|
| 21 | トークセッションに登壇された3市のみなさんの資料を見返したい。後日PDFなどで参照できるようにしてもらえるとありがたい。                                  |
| 22 | とてもいい機会をいただき、ありがとうございます   |
| 23 | とても参考になりました   |
| 24 | とても勉強になりました。またよろしくお願ひします。   |
| 25 | ファシリテーターには大学先生ではなく、事業実践者にしてほしい、先生はどうしても評論家っぽくて一般論が多く、最も大事で本質的な「カネ、ヒト、モノ」の話が少なくなる。             |
| 26 | もう少し国土交通省の方のお話を聞きたかったです   |
| 27 | もっと、3団体の取組みを掘り下げていく（例：村山先生が投げかけていらっしゃった資金とか）ほうがより有意義な内容になるかと思ひます。                             |
| 28 | より多くの事例を勉強し、現地を見たり直接お話を伺う機会もいただければと思ひます。  |
| 29 | リモートですが、臨場感あふれ、マンツーマンで懇いてるようで、聴く側として緊張感がありました。  |
| 30 | リモートで開催して下さったので参加しやすかったが、通信環境が悪く画像や音声がよく途切れたのが残念でした。可能であれば録画したものを再配信していただけるととても助かります。         |
| 31 | リモートということもあり、現地に赴くよりも気軽に第1人者の方々の話を聞くことができて良かったです。   |
| 32 | 各エリアマネジメントの視点的な取組みを知る機会を増やしてほしい   |
| 33 | 各エリアマネのプレゼン資料を展開してもらえるとありがたいです。   |
| 34 | 各地域でそれぞれの形でエリアマネに取り組む様子が分かり大変参考になりました。ありがとうございます。   |
| 35 | 各地区の取組みを紹介いただき参考になった。小規模の自治体（人口規模2万人程度）の取組み事例があれば参考にしてみたい。                                    |
| 36 | 各都市の違いが面白かったです  |
| 37 | 官民の両方の立場からの話が聞けたのが良かった。   |
| 38 | 官民連携は大企業との連携を前提としており、社会・経済状況に大きく影響されないが、疑問  |
| 39 | 観光振興を促める立場だが、エリアマネジメントとの連携は不可欠だと思う  |
| 40 | 基調講演や各団体からの紹介は事前に申込者に資料として配布し、トークの時間を増やしてもらおうと思ひます。   |
| 41 | 興味深い内容でしたので、とても参考になりました。  |
| 42 | 行政からの資金が事業全体の5%であるといった事例報告があった。こういう事例についてもっと詳細を知りたい。  |
| 43 | 国交省の制度や取組みのお考えについて、もう少し時間を長くお聞きしたい。   |
| 44 | 今回の経験を業務に生かしたいと思ひます。ありがとうございました。  |
| 45 | 今後の街づくりで、医療、福祉、健康などのかかわり方。  |
| 46 | 今後も頻りに開催して欲しいと思ひました。オンライン利用なので、参加しやすいです。  |
| 47 | 今度は会場でお聞きしたいと思ひます。  |
| 48 | 最後の会長のお言葉のとおり、無料でウェビナーを受講できることで官民連携への理解が大きく進んだように思ひます。今後も定期的に行っていただけると大変参考になりますのでよろしくお願ひいたします |
| 49 | 仕事のため途中で退出してしまい、トークセッションを最後まで聞くことができ残念です。   |
| 50 | 仕事の都合で途中参加でしたが、勉強になりました   |
| 51 | 司会のヒトがつかつなかつたなと思ひました。   |
| 52 | 視野の広がる内容でとても参考になりました。   |

|    |  |
|----|--|
| 53 | 資料が精緻に作られていたり、説明者がしっかり準備されていたりしたことで、オンラインでも十分に目的は果たされていたと思います。業務の合間での参加も可能となりました。  |
| 54 | 資料は、当日でも構わないので、事前に配付してほしい。   |
| 55 | 資料を事前にダウンロードできるようにしていただけると、より理解が深まったと思われる。   |
| 56 | 時間が限られており、もう少しいろいろな話をじっくり聞いてみたかったです。   |
| 57 | 時間が短く、それぞれの内容について消化不良な感じがする。   |
| 58 | 初めての参加だったが、大変有意義な時間を過ごせた。  |
| 59 | 新型コロナウイルス感染症の収束後は、ゼヒリアルなシンポジウムに参加したいと存じます。   |
| 60 | 是非継続なさってください。【発表資料のご送付をお願い致します。】   |
| 61 | 先進的な地域の実践例やうまくいっていること、課題になっていることを知ることができました。当地域での活動のヒントになることが得られました。   |
| 62 | 前橋市の取り組みについて、非常に地に根差したもので参考になりました。   |
| 63 | 全体の時間は長いのですが、どうしても盛りだくさんなので、どれも駆け足の説明になってしまいがちです。まどめまで、じっくりQ&Aが聞きできるような中身だとありがたいです   |
| 64 | 村山先生が言っていた評価に関することをもう少し聞きたかった  |
| 65 | 村山先生は実務面にも理解があり、的確にトークセッションを回していたなと感じた   |
| 66 | 大変良いシンポジウムだったと思います。オンラインでのシンポジウムであったので参加できました。準備・運営は大変ですが、今後のシンポでもリアルとオンラインの併用を望みたいです。   |
| 67 | 地元でも参考になる貴重なお話をいただきました   |
| 68 | 地方での取り組みを共有する良い機会となりました  |
| 69 | 聴講者が共感できるような華やかさやイケイケ感が欲しいです。  |
| 70 | 都市型エリアMICEの開催地では、エリアマネジメント主体から派生したDMOがMICE誘致の担い手となるケースがあることや、MICE施設運営において上位計画/戦略であるところのまちづくりとの整合性が必要であることから、エリアマネとまちづくり全般の勉強のために参加させて頂きました。冒頭主催者挨拶に大変熱意がこもっており、続くセッションもクオリティ高く、セミナー作りの観点においても大変勉強になりました。 |
| 71 | 熱量を持って活動している同志を心強く感じた  |
| 72 | 幅広い分野の方に官民連携の話題提供が出来たのは非常に良いこと。ただ、トークセッションは、初心者の方たちにはマニアック過ぎたかも。特に、行政の方たちに対しては。  |
| 73 | 勉強になりました。ぜひ現地に行ってみたいと思いましたし、自身の活動の参考にしたいです。  |
| 74 | 無料で視聴できたこと   |
| 75 | 有意義な時間でした。官の関わりをもっと知りたかった。   |
| 76 | 有益であったが、同一のテーマを扱う都市計画セミナーと日程が重なっており、一部視聴できない場面も生じた。できれば来年は、別日程で開催いただきたい。   |
| 77 | 良い刺激になりました。ひたすら共感していたので、実フィールドで生かしていきたいと思っています。  |
| 78 | 良かった。スライドがあったらいただきたい。  |



●居住地

|    |            |    |            |     |          |
|----|------------|----|------------|-----|----------|
| 1  | 愛知県        | 47 | 埼玉県本庄市     | 93  | 長崎県佐世保市  |
| 2  | 愛知県一宮市     | 48 | 埼玉県和光市     | 94  | 長野県長野市   |
| 3  | 愛知県稲沢市     | 49 | 札幌市東区      | 95  | 東京都      |
| 4  | 愛知県岡崎市     | 50 | 三重県桑名市     | 96  | 東京都葛飾区   |
| 5  | 愛知県刈谷市     | 51 | 山口県周南市     | 97  | 東京都江東区   |
| 6  | 愛知県知多郡阿久比町 | 52 | 山梨県甲府市     | 98  | 東京都港区    |
| 7  | 愛知県尾張旭市    | 53 | 滋賀県甲賀市     | 99  | 東京都三鷹市   |
| 8  | 愛知県豊橋市     | 54 | 滋賀県草津市     | 100 | 東京都渋谷区   |
| 9  | 愛知県豊田市     | 55 | 滋賀県栗原江市    | 101 | 東京都小平市   |
| 10 | 愛知県名古屋市長区  | 56 | 秋田県横手市     | 102 | 東京都小平市   |
| 11 | 愛知県松山市     | 57 | 秋田県秋田市     | 103 | 東京都新宿区   |
| 12 | 愛知県八幡浜市    | 58 | 新潟県        | 104 | 東京都杉並区   |
| 13 | 茨城県        | 59 | 新潟県佐渡市     | 105 | 東京都世田谷区  |
| 14 | 茨城県つくば市    | 60 | 新潟県上越市     | 106 | 東京都多摩市   |
| 15 | 岡山県倉敷市     | 61 | 新潟県新潟市     | 107 | 東京都台東区   |
| 16 | 静岡県        | 62 | 新潟県新潟市中央区  | 108 | 東京都大田区   |
| 17 | 静岡県うづま市    | 63 | 神奈川県       | 109 | 東京都中央区   |
| 18 | 静岡県沼津市     | 64 | 神奈川県・横浜質市  | 110 | 東京都中野区   |
| 19 | 若手県        | 65 | 神奈川県横浜市中区  | 111 | 東京都練布市   |
| 20 | 岐阜県        | 66 | 神奈川県川崎市    | 112 | 東京都品川区   |
| 21 | 岐阜県高山市     | 67 | 神奈川県川崎市中原区 | 113 | 東京都武蔵野市  |
| 22 | 岐阜県岐阜市     | 68 | 神奈川県大和市    | 114 | 東京都文京区   |
| 23 | 宮城県宮崎市     | 69 | 静岡県        | 115 | 東京都北区    |
| 24 | 宮城県石巻市     | 70 | 静岡県掛川市     | 116 | 東京都目黒区   |
| 25 | 宮城県仙台市     | 71 | 静岡県静岡市     | 117 | 東京都立川市   |
| 26 | 京都府京都市     | 72 | 静岡県浜松市     | 118 | 東京都練馬区   |
| 27 | 京都府城陽市     | 73 | 静岡県富士宮市    | 119 | 東京都町田市   |
| 28 | 熊本県        | 74 | 石川県金沢市     | 120 | 栃木県      |
| 29 | 群馬県        | 75 | 千葉県        | 121 | 栃木県那須烏山市 |
| 30 | 群馬県安中市     | 76 | 千葉県佐倉市     | 122 | 奈良県桜井市   |
| 31 | 広島県        | 77 | 千葉県市原市     | 123 | 奈良県生駒市   |
| 32 | 広島県広島市     | 78 | 千葉県市川市     | 124 | 奈良県奈良市   |
| 33 | 香川県高松市     | 79 | 千葉県松戸市     | 125 | 富山県      |
| 34 | 香川県善通寺市    | 80 | 千葉県千葉市     | 126 | 富山県富山市   |
| 35 | 香川県多度津町    | 81 | 千葉県千葉市中央区  | 127 | 福井県福井市   |
| 36 | 高知県土佐市     | 82 | 千葉県八千代市    | 128 | 福岡県大野城市  |
| 37 | 佐賀県鳥栖市     | 83 | 千葉県流山市     | 129 | 福岡県福岡市   |
| 38 | 埼玉県        | 84 | 大阪府        | 130 | 福岡県北九州市  |
| 39 | 埼玉県さいたま市   | 85 | 大阪府堺市      | 131 | 兵庫県      |
| 40 | 埼玉県さいたま市桜区 | 86 | 大阪府豊後市     | 132 | 兵庫県神戸市   |
| 41 | 埼玉県桶川市     | 87 | 大阪府大阪市     | 133 | 兵庫県西宮市   |
| 42 | 埼玉県希聖町     | 88 | 大阪府豊中市     | 134 | 北海道      |
| 43 | 埼玉県宮代町     | 89 | 大阪府門真市     | 135 | 北海道札幌市   |
| 44 | 埼玉県川口市     | 90 | 大分県大分市     | 136 | 北海道美瑛市   |
| 45 | 埼玉県川島町     | 91 | 大分県中津市     | 137 | 札幌市札幌市   |
| 46 | 埼玉県草加市     | 92 | 長崎県        |     |          |

●職業\_その他

| その他内容 |                     |
|-------|---------------------|
| 1     | 公益財団法人              |
| 2     | UR都市機構              |
| 3     | 市議会議員               |
| 4     | まちづくり・エリマネのアドバイス・相談 |
| 5     | コンサルタント             |
| 6     | 年金生活者               |

●専門\_その他

| その他内容 |   |
|-------|---|
| 1     | エネルギー                                   |
| 2     | デベロッパー                                  |
| 3     | マーケティング                                 |
| 4     | まちづくり・ユニバーサルデザイン                        |
| 5     | モビリティ企画                                 |
| 6     | 医療関係                                    |
| 7     | 一般事務                                    |
| 8     | 営業企画                                    |
| 9     | 観光                                      |
| 10    | 企画                                      |
| 11    | 危機管理                                    |
| 12    | 金融                                      |
| 13    | 経営                                      |
| 14    | 研究開発                                    |
| 15    | 公共事業                                    |
| 16    | 事務                                      |
| 17    | 事務(企画)                                  |
| 18    | 事務職                                     |
| 19    | 商業施設・店舗の企画開発・運営管理、地域活性化イベントの企画・運営       |
| 20    | 製造                                      |
| 21    | 税理士、NPO法人理事長                            |
| 22    | 総合職のため特設ありません。(強いて言えば商業系不動産デベロッパー事業です。) |
| 23    | 地域経済                                    |
| 24    | 調査・企画                                   |
| 25    | 不動産                                     |
| 26    | 不動産開発                                   |

### 3.1.8.7. イベントの動画化

令和3年2月5日に実施した、官民連携まちづくり DAY2021 の開催内容について、以下4本の動画を作成した。作成した動画は官民連携まちなかポータルサイトの Youtube チャンネルで公開する。

また、まちづくりに関心がある方により多く視聴いただけるように、リニューアルした官民連携まちなかポータルサイトのトップページに Youtube のリンクを埋め込み、チャンネルの動画がサイト内で視聴できる仕組みとした。

#### ■ 作成した動画

##### ① 錦二丁目プラットフォーム 取組紹介



##### ② カミハチキテル 取組紹介



##### ③ 前橋市アーバンデザイン協議会 取組紹介



④ トークセッション ダイジェスト版

**新たな社会環境における官民連携まちづくりの論点**

**論点1 都市を取り巻く状況の変化**

- 各エリアにおける近年の具体的な状況変化は？
- グローバルな変化とローカルな変化をどう捉えているか？
- エリアからの実験的アプローチは有効か？

**論点2 まちづくりの大きな目標、with/afterコロナの新しい目標像**

- 持続性やSDGsの枠組みはエリアマネジメントの役に立つか？
- コロナ禍によって目標像はどう変わるか？
- 身近な生活環境、公共空間、特にオープンスペースへの着目？

**論点3 まちづくり・エリアマネジメントの共有ビジョンとアクション**

- 各エリアではどのようなビジョンを持っているか？
- 実現に向け、どのようなアクションが展開されているか？
- 「ビジョン→アクション」vs「アクション→ビジョン」：どちらが先か？
- エリアのビジョンと行政計画の関係はどのように変わっているか？

**論点4 官民連携・多様な主体のプラットフォーム**

- 各エリアの官民連携プラットフォームはどのようなものか？どのような主体がどのように関わっているか？
- 民間には多様な主体が存在するのではないか？
- 行政はエリアマネジメントに何を期待しているのか？
- 行政計画にエリアマネジメントはどのように位置付けられるのか？

**論点5 With/afterコロナ時代におけるエリアマネジメントの推進**

- 推進体制・方法
- 持続的な資金調達の方法
- 人材確保



---

## 3.2. 社会経済の変化やライフスタイルの多様化に対応したまちづくりの検討に係るデータ等の収集・整理

新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響で、人の集まり、いわゆる「3密」回避の動きもみられるなか、リモートワークが推奨されるなど、働き方に大きな変化がみられている。また、これに伴い人々の価値観やライフスタイルの多様化が加速している。

これらの状況に鑑み、特に都心部において顕在化した「都市の過密」などの課題に対応したまちづくりの検討を行うための基礎となるデータを収集・整理した。

### 3.2.1. 東京 23 区内の経済活動

新型コロナウイルス感染症の感染拡大を契機に、東京における「都市の過密」や東京一極集中の課題が顕在化する一方、東京の経済活動が日本経済を牽引していることもまた事実であるため、東京の経済活動の概況について整理する必要がある。

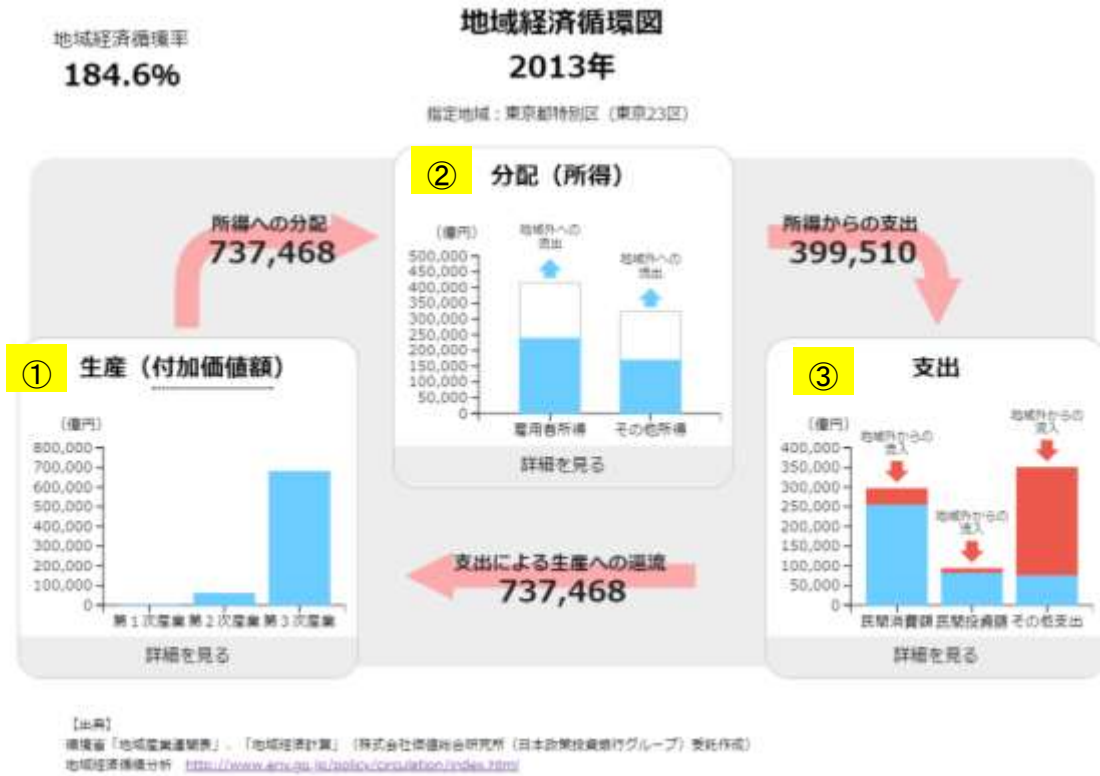
RESASに基づく東京都 23 区内の経済概況は以下に示す通りとなる。経済循環では 3 次産業が多く付加価値を生み出し、所得分配は、域内外でそれぞれ半分程度の分配となり、また支出は域外からの流入が多くなっている。

コロナ化の影響で、リモートワークの推進などで、都心部への移動者が少なくなると、これら流入額の低下が想定される。

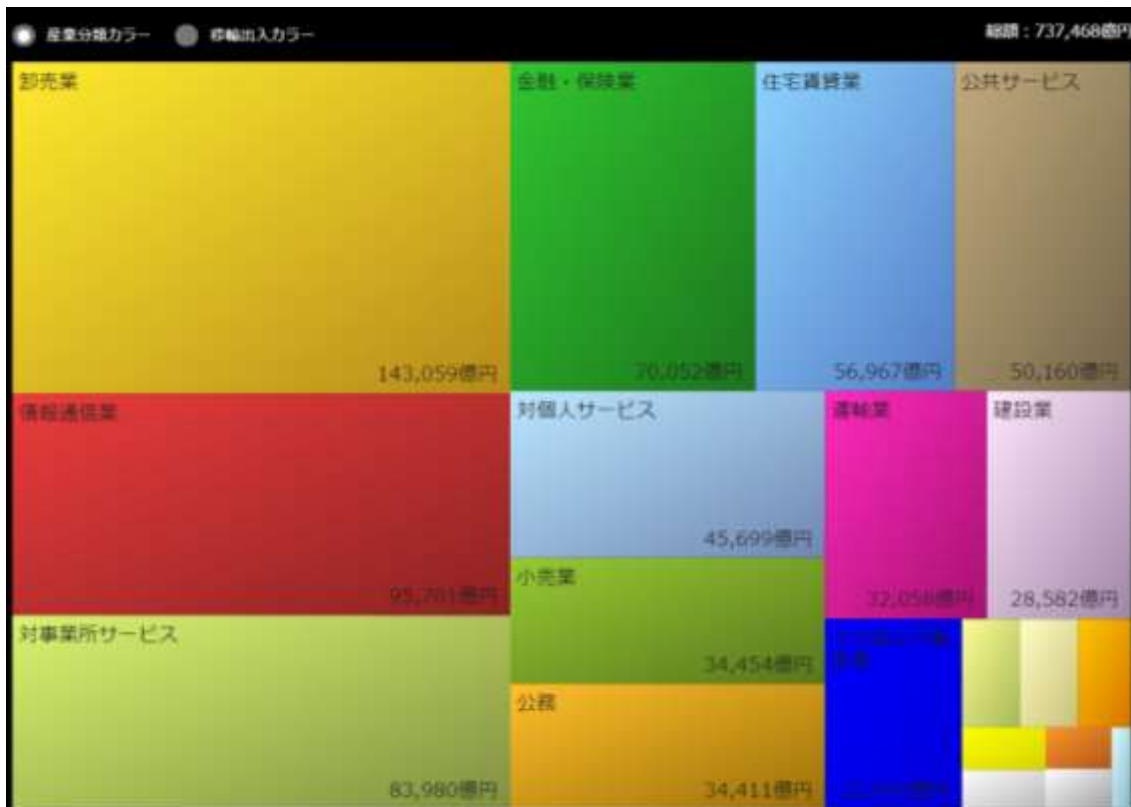
また付加価値額の内訳は、卸売業や対事業所サービスが多く、これらがリモートワークの影響で減少することが懸念される一方で、情報通信業の伸びが今後予想される。

## ■「RESAS」で算出できる東京都の経済活動の波及効果

⇒東京都23区の経済循環図



### ①産業中分類別 付加価値額

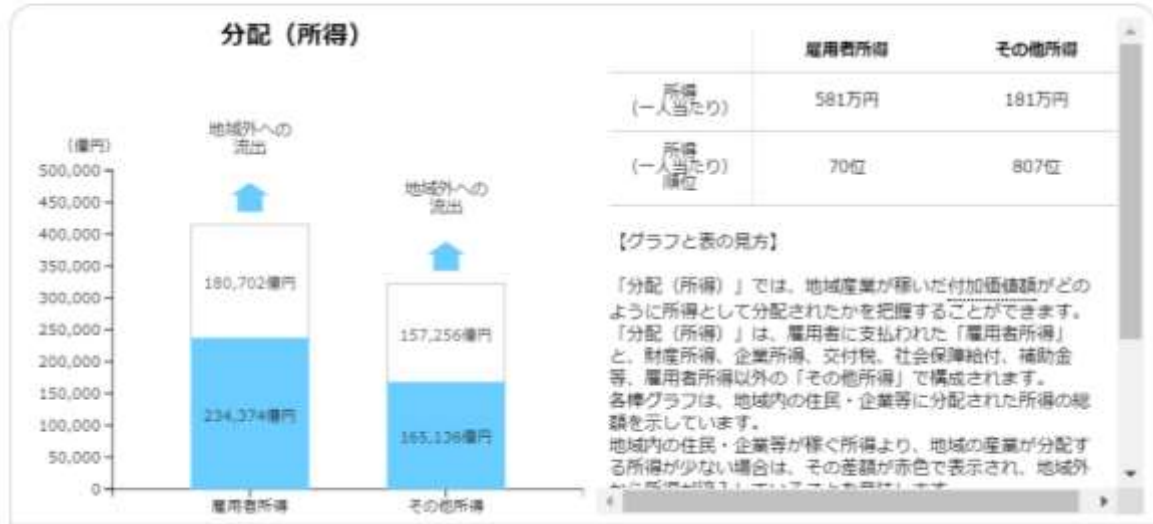


## ②所得分配

地域経済循環率  
**184.6%**

### 地域経済循環図 2013年

指定地域：東京都特別区（東京23区）

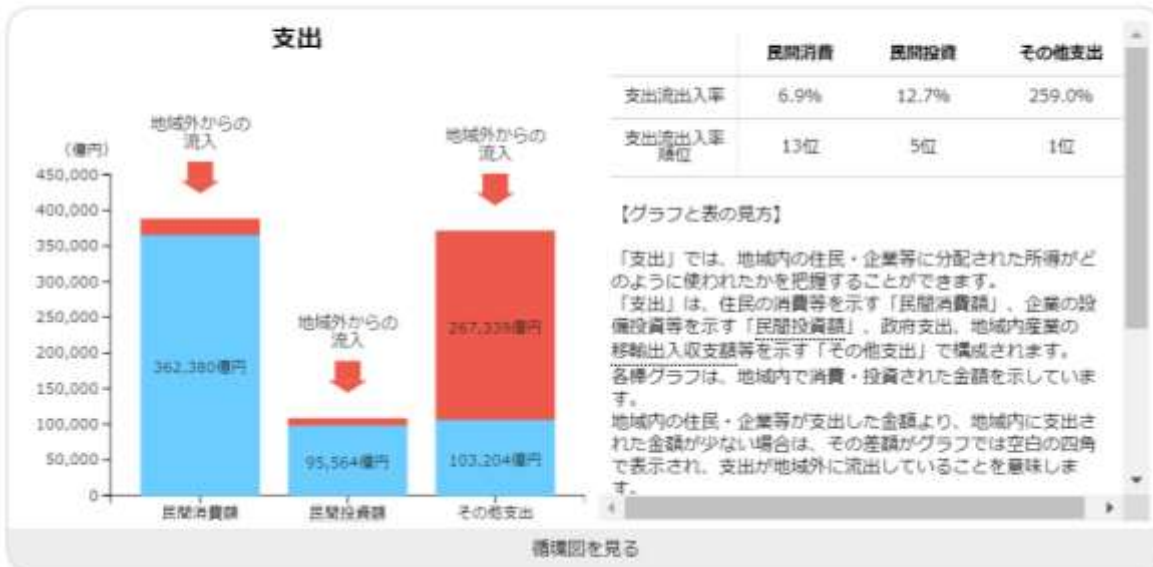


## ③支出

地域経済循環率  
**154.2%**

### 地域経済循環図 2013年

指定地域：東京都





### 3.2.2. 都心部の経済活動の波及効果

都心部における経済活動や都心部に整備されたオフィスに外資系企業が入居することによる地方活性化への寄与について検証すべく、以下の情報を取りまとめた。

#### 3.2.2.1. 都心部における地方の情報発信効果

都心部における活動が地方の活性化に寄与している事例として、東京都内におけるアンテナショップの運営効果について、一般社団法人地域活性化センターのアンケート調査のとりまとめを以下に示した。

特に自治体・特産品の知名度アップや、特産品の販路拡大で90%以上効果がみられるとの回答が得られており、都内での販売が、地方への波及効果に貢献していると考えられる。

東京都内におけるアンテナショップの運営効果 (2019年度 自治体アンテナショップ 実態調査報告 一般社団法人地域活性化センター調べ)

表 11 開設目的別店舗数 (重複回答有り、N=60)

| 開設目的           | 調査年度別<br>店舗数 |      |
|----------------|--------------|------|
|                | 2019         | 2018 |
| 自治体のPR         | 57           | 54   |
| 特産品のPR         | 57           | 54   |
| 特産品の販路拡大       | 54           | 52   |
| 観光案内・誘客        | 53           | 49   |
| 地域情報発信 (マスコミ等) | 52           | 51   |
| 市場調査・消費者ニーズ    | 36           | 35   |
| 田舎暮らし・UJI ターン  | 23           | 25   |
| 地元出身者との交流      | 21           | 22   |
| 地域間交流          | 16           | 21   |
| 地元住民の意欲拡大      | 15           | 14   |
| 企業誘致           | 6            | 8    |
| その他            | 6            | 5    |
| 未回答            | 2            | 3    |

表 12 運営効果別店舗数 (重複回答有り、N=60)

| 運営効果           | 調査年度別<br>店舗数 |      |
|----------------|--------------|------|
|                | 2019         | 2018 |
| 自治体の知名度アップ     | 58           | 54   |
| 特産品の知名度アップ     | 58           | 54   |
| 特産品の販路拡大       | 55           | 50   |
| 観光客の増加         | 45           | 38   |
| 地域情報発信 (マスコミ等) | 55           | 48   |
| 消費者ニーズの把握      | 43           | 41   |
| 田舎暮らし・UJI ターン  | 23           | 16   |
| 地元出身者との交流促進    | 18           | 25   |
| 地域間交流          | 17           | 21   |
| 地元住民の意欲拡大      | 15           | 13   |
| 企業誘致促進         | 4            | 6    |
| その他            | 7            | 4    |
| 未回答            | 1            | 3    |

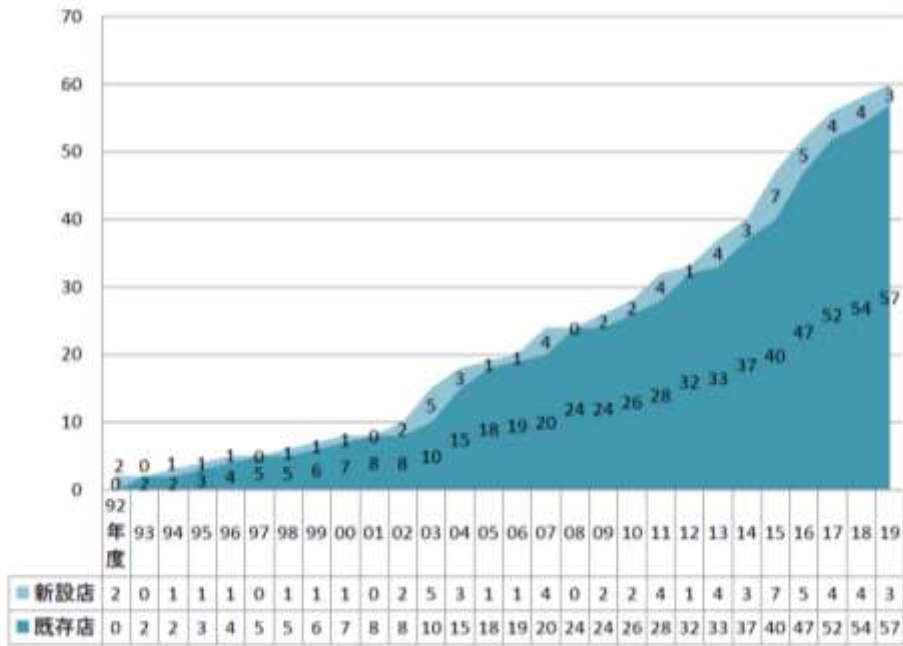
例：55/60≒  
91.7%

【参考】東京都内のアンテナショップ店舗数推移

①店舗数（調査分析対象である独立店舗（今回は60店舗）の推移

調査対象の店舗数は、新設が3店舗（表2参照）、閉館が2店舗（表3参照）あり、新たに調査対象となる店舗が1店舗確認された<sup>※</sup>ため、合計で2店舗増の60店舗となった（図1参照）。

図1 年度別既設・新設店舗数の推移



---

### 3.2.2.2. 外資系企業の誘致状況

都心部に整備された優良なオフィスに本社を構える外資系企業を誘致することによりもたらされる全国への波及効果について検証すべく、以下の手順に沿って、外資系企業の国内展開状況を取りまとめた。

【手順①】 認定民間都市再生事業（竣工年が令和元年で完工している施設）によって整備されたオフィスに入居している外資系企業を「外資系企業総覧 2020 年版(東洋経済)」を用いて検索。

【手順②】 当該外資系企業のホームページから、国内支店の有無を確認。

商品メーカー関連の企業や、金融系企業など、多様な業種体の企業が進出しており、都内のオフィスが、外資経済の呼び込みに一定程度寄与していることが伺える。また国内の各地に支店を設けている企業もみられ、国内への波及効果も一定程度みられると考えられる。

認定民間都市再生事業によって整備されたオフィスに入居している外資系企業数：141 社  
上記の外資系企業が日本全国に設けた支店数：166 カ所